

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

生涯学習部門

平成30年度 成果報告書

はじめに

岩手大学の生涯学習部門は、生涯学習・生涯教育の強化を目的に設立された「生涯学習教育研究センター」（平成12年4月）を前身として、地域住民を対象に生涯教育・生涯学習事業に取り組んでまいりました。その後、組織の改編が進み、地域連携推進センター（平成16年4月）、地域連携推進機構（平成26年4月）を経て、平成28年4月に発足した「三陸復興・地域創生推進機構」の一部門となりました。当機構は、実践領域と教育研究領域を設けており、生涯学習部門は実践領域に位置付けられ、地域住民の学習の場の提供を目指しています。

岩手大学では、大学の理念と目標の1つの柱として社会貢献を掲げており、第3期中期目標・中期計画においても「地域の中核的学術拠点として、地域創生に向けて、自治体等地域社会との連携及び大学の知的資源を活用した社会貢献」を目標とした「地域と連携した社会人の学び直しプログラムの充実化」が掲げられています。こうした大学の使命や役割を担うために、生涯学習部門においても、地域住民のニーズを反映した学びの場の拡大とともに生涯学習プログラムの「量」から「質」への転換を目指した取り組みを行っています。

今年度の主な活動の一つにシリーズで開催した企画講座が挙げられます。当企画講座は岩手大学の特色を生かした芸術、文化、地域の課題などに重点を置いたものであり、地域住民の学びの場としての役割を果たしました。また、当企画講座をとおして地域住民の学習ニーズを把握することができました。さらに、国際的な視点を取り入れた社会人学習プログラムを開発するために中国・韓国・台湾から専門家を招き、国際シンポジウムの開催をとおして各国の大学における社会人受け入れ政策と先進事例について紹介してもらいました。

次に、文部科学省の委託事業である社会教育主事講習を1年間の準備期間を経て開講し、地域住民の生涯学習支援に欠かせない専門職員の養成を行いました。北東北3県から49名の受講者が集まり、全員修了することができました。

最後になりますが、生涯学習部門の今後の事業展開の一層の充実を図るために、今年度1年間実施した事業について各部局の先生方や地域連携・COC推進課のご協力を頂きながら報告書として取りまとめ発刊いたしました。今後のより一層充実した生涯学習活動に向けて、みなさま方の忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただけましたら幸いです。

平成31年3月

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門長 朴 賢淑

目 次

はじめに

1 生涯学習部門概要

1-1 事業の目的.....	1
1-2 組織体制・年度計画.....	2
1-3 会議報告.....	5

2 生涯学習部門事業

2-1 社会人学び直しプログラム開発研究.....	17
2-2 企画講座「がんちゃんの学び」	25
2-3 社会人学び直しシンポジウム.....	43
2-4 公開講座.....	45
2-5 社会教育主事講習.....	91

総括

1 生涯学習部門概要

事業の目的

組織体制・年度計画

会議報告

1-1 事業の目的

生涯学習部門では、岩手大学の「地域社会に開かれた大学」の理念の基、市民の皆様には様々な学びの機会を提供することで教育研究の成果を社会に還元している。

昨今の日本において大人の学びの場として公民館が大きな役割を果たしてきた。特に、戦後、地域の住民たちが公民館に集まって、身近な生活課題をはじめ社会的課題を議論し合いながら実践し、日本社会を変えていた。このような学びの場には、専門的職員として社会教育主事が行政と住民の橋渡し役割を果たしながら地域住民の学習を支えてきたと言える。

しかし、日本政府は小泉内閣発足後に「公設民営化」が急速に進行し、平成15年に指定管理者制度が導入された。当制度を導入する理由の一つとして、住民のニーズの多様化により、「効果的」「効率的」に対応するためには、民間の事業者のノウハウを広く活用することが有効であることが上げられた。

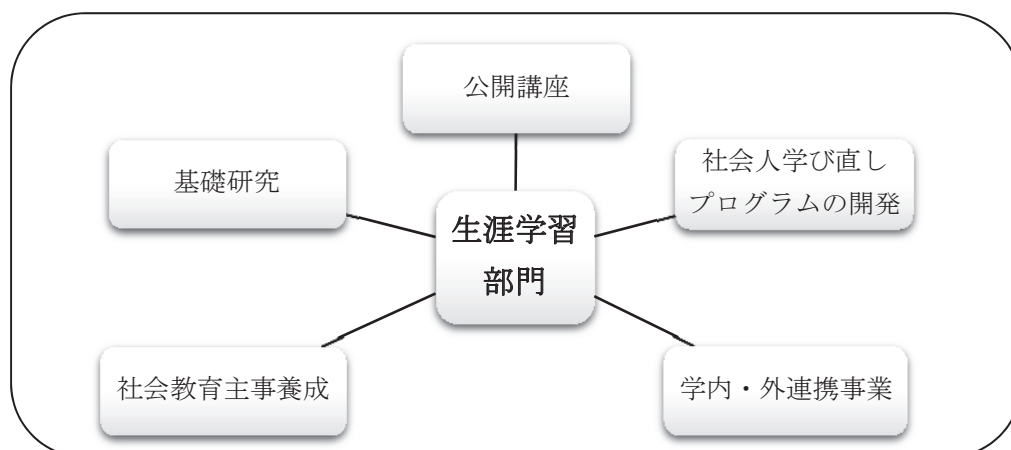
したがって、近年、社会教育施設も余儀なく民間委託が進められ、社会教育主事の配置も縮小されつつある。その結果、社会的弱者（高齢者、若者、女性、外国人など）は、ますます学ぶ機会が閉ざされ、学習者においても格差が広がっている。

一方、グローバル化や知識基盤社会に対応できる人材が求められ、大学教育が既存の若い学習者中心から成人学習者への拡大が期待されているなか、大学が“リカレント教育の場”としての転換が求められている。

そこで高等教育機関がリカレント教育の場として機能を果たすためには、まず、地域住民のニーズの把握は欠かせない。また、地域課題に対応できる人材を育てるためには何に重点を置くべきなのか真剣に向き合わなければならない。

よって生涯学習部門では、上記の課題の可視化を図るとともに、地域人材づくりのために学社連携の視点から生涯学習事業に取り組んでいる。

なお、生涯学習部門では、研究成果を生かした地域還元を目指しながら、①基礎研究（地域調査など）、②社会教育主事養成、③社会人学び直しプログラムの開発、④公開講座、⑤学内・外連携事業などをとおして、誰でも、いつでも参加できるような地域住民の生涯学習場づくりを目指している。



1-2 組織体制・年度計画

生涯学習部門の事業を進めるにあたって、専任教員（1名）、特任研究員（1名）、兼務教員（5名）の体制で行っている。兼務教員は部門会議の委員であり、月1回の部門会議に出席し生涯学習部門の事業に関する助言を行っている。平成30年度の事業計画については下記のとおりである。

(部門長)		朴 賢淑 (三陸復興・地域創生推進機構 准教授)	
(班員)			
氏名	所属・役職	氏名	所属・役職
浅沼 道成	人文社会科学部・教授	田代 高章	教育学部・教授
廣瀬 宏一	理工学部・教授	佐藤 和憲	農学部・教授
竹村 祥子	人文社会科学部・教授	朴 仙子	三陸復興・地域創生推進機構 特任研究員
(部門の事業テーマ：第3期通年(H28～33年度))			
1. 生涯学習基盤づくり 2. 社会人学び直しプログラムの開発 3. 社会教育主事養成 4. 地域の生涯学習リーダー育成 5. 地域住民の生涯学習ニーズ調査			
(活動概要：第3期通年(H28～33年度))			
1.各学部および機構・センターとの連携による生涯学習支援体制づくりをととした生涯学習支援窓口の一本化を試みる。 2.多様な学習者の学習ニーズに答えられる生涯学習プログラムづくりをととして地域課題に対応できる人材育成を目指す。 3.社会教育主事養成をととして地域課題へ対応かつ自立した専門的職員の量的育成を目指す。 4.地域の学習者が大学の公開講座および社会人学び直しプログラムで学んだものを地域で実践できる人材育成を目指す。 5.定期的な地域住民の意識調査をととして地域住民のニーズを反映した生涯学習プログラムおよび生涯学習場づくりへ繋げていく。 6.地域の生涯学習担当者とのネットワークづくりをととして、地域住民の生涯学習支援における質的向上を図る。 7.岩手大学の生涯学習プログラムに参加する成人学習者を対象に定期的なニーズ調査を行うとともに、調査結果を生かして社会人学生の正規課程への進学を促す。			

(平成 30 年度計画)		
(平成 30 年度シンポジウム・セミナー等開催計画)		
国内向け又は国際的な会議	国内向け会議	6 回
国内向け又は国際的シンポジウム	社会人学び直しシリーズ(国内向けシンポジウム)	1 回
一般向け成果報告会 (セミナー)	一般向けセミナー	6 回
一般向け普及講演	公開講座	20 講座
事業計画		
○事業テーマ 生涯学習基盤づくり		
生涯学習関連諸機関とのネットワークづくりを通して、持続可能な連携体制を作ることによって生涯学習の基盤づくりを行う。また 1 年の活動を成果報告書にまとめることで生涯学習部門の役割を再認識し、事業の拡大を図る。		
○事業テーマ 社会人学び直しプログラムの開発研究		
大学における社会人学び直しの意義を再確認し、社会人ニーズにあったプログラムを開発するため、公開講座受講者を対象にアンケート調査を行う。		
また、北東北遠隔教育基盤づくりに向けた調査を行い、テレビ会議システムを導入した教育資源の共有を図り、社会人学び直しプログラムの多様化を果たす。		
○事業テーマ 社会教育主事養成		
社会教育主事の職務を遂行するに必要な専門的知識、技能を習得させ、社会教育主事となりうる資格を付与することを目的に社会教育主事講習を開講する。なお、平成 30 年度も前年度に引き続き岩手大学が北東北三県の主催校となる。		
スケジュール		
3 月 文科省に書類申請		
5 月 第 1 回運営委員会 (メール会議)		
6 月 受講者募集・第 2 回運営委員会		
7 月 17 日～8 月 10 日 平成 30 年度社会教育主事講習 開講		
8 月 成績評価 / 第 3 回運営会議開催		
9 月 報告書作成		
○事業テーマ 地域の生涯学習リーダー養成		
高齢化・少子化・過疎化等地域課題に対応できる人材を養成するため、公開講座を再分類し、生涯学習リーダー養成講座への支援に重点をおく。		
また、講義終了後は、アンケート調査等を行うことで、講義の質を確保する。		

○事業テーマ 地域住民の生涯学習ニーズ調査

生涯学習プログラムの充実化を図るために、公開講座、各種セミナーに参加する地域住民を対象にアンケート調査、ヒヤリングを行うことで生涯学習のニーズを調査する。

1-3 会議報告

生涯学習部門では、毎月 1 回部門会議を開催し、事業内容について兼務教員と検討している。平成 30 年度には部門会議を 8 回開催している。なお、会議報告については＜資料 1-3-1＞に代わる。

会 議 報 告

第 1 回 部門会議

平成 30 年 4 月 25 日（水）

議 事

なし

報 告**1. 部門員への兼務依頼について**

部門員の先生方を生涯学習部門の兼務教員として発令することが三陸復興・地域創生推進機構会議にて確定された旨を報告した。

2. 組織改編について

今回の部門会議までに内容を確認する旨を報告した。

3. リーフレット作成について

本年度より公開講座リーフレットを作成する旨を報告した。

会 議 報 告

第 2 回 部門会議

平成 30 年 5 月 25 日（金）

議 事

1. 第 1 回部門会議（メール会議）議事録について

第 1 回部門会議の議事録について（資料 1）に基づき確認を行い、これを了承した。また、朴部門長より今年度から部門員へ兼務教員の依頼を行っている旨の付言があった。

2. 平成 30 年度公開講座について

朴部門長より平成 30 年度公開講座一覧について（資料 2）に基づき説明があり、これを了承した。なお、6 月開催のものについては既に公募を行っている旨の付言があった。

3. 平成 30 年度社会教育主事講習について

朴部門長より平成 30 年度社会教育主事講習について（資料 3）に基づき説明があり、これを了承した。

4. 三陸復興・地域創生推進機構組織改編について

八代副機構長より三陸復興・地域創生推進機構組織改編について、その趣旨や目的等を、戦略 4 に係る評価結果を踏まえながら説明し、部門員と意見交換を行った。途中、濱田課長より特別経費の基幹化に向けた補足説明があった。

（意見・質問） ○部門員 ●八代副機構長

○戦略 4 の評価結果「C」の理由はどういったものなのか？分析はされているのだろうか？また、評価理由が分からないままで機構のマネジメント力の強化と言われても強化のしようがないのではないか。

●これまで機構全体と戦略 4 を俯瞰できる組織がなかった（機能しなかった）こと、情報が 1 点に集まっていないことが課題として挙げられる。今回の組織改編では、その点をしっかりマネジメントでき、かつ情報を集約し、情報を求められてもすぐ対応できるような組織としてマネジメント本部を立ち上げたいと考えている。

○文部科学省に評価結果に関するヒヤリングを行ったのか？評価者の指摘はどういったものなのか？

●評価結果を確認したが、文科省からは明確な回答が得られていない。

○機構の戦略不足なのか？それとも書類の書き方の問題なのか？戦略的な部分であれば教員が努力する必要があるし、書類の書き方で解決するのであれば、事務方にもっと協力してもらうなどの対応が考えられる。場合により対応策が異なってくる。

○そもそも戦略 4 の評価とは組織改編が求められているものなのか？それとも、部門の活動内容に問題があり、その改善が求められているものなのか？後者であれば部

門会議で検討できるが、前者であれば部門として議論を行うことは困難である。

○組織改編ありきなのではなく、生涯学習部門の質をどのように上げるべきかという視点が大事である。課題を発見し、その解決方法の一つとして組織改編という手段が出てくるのではないか。

●もちろん組織改編ありきではない。評価について継続的に調査を続けていくので、その結果を随時共有しつつ改善案を考えていきたい。文科省から示された結論が組織改編であれば組織を改編するし、現状維持という結論であればそのようにする。一方で、学内の認識としてこの機構は時限組織として位置づけられている。そのような中で第4期に向けて機構組織そのものの在り方を検討していく必要がある。また、機構は時限付きだが、生涯学習部門で行っている諸活動は、時限付きではないので、別柱で検討すべきである。今後は「生涯学習部門」はどうあるべきか意見を聞かせていただき、組織検討の参考にさせていただきたい。

→濱田課長から基幹経費化について説明される。

○そのような理由であれば今回の趣旨は理解できるが、やはり議論の順番を整理した方がよい。まずは、各部門で実質的な取組としてどのようなことが行われているのか。その中で各部門の課題は何であるか整理するところから始めるべきである。

●随時情報共有するので7月にも部門会議を開き情報交換を行わせていただきたい。

○機構にはどのような外部資金が入っているのか？

→事務局から説明

以上のような意見交換が行われた。なお、この議題に関しては、今後も継続審議することにした。

報 告

1. 平成29年度生涯学習部門予算執行報告について

事務局より平成29年度生涯学習部門予算執行報告について（資料5）に基づき報告を行った。

2. 平成30年度生涯学習部門予算配分報告について

事務局より平成30年度生涯学習部門予算配分報告について（資料6）に基づき報告を行った。

3. その他

次回会議については、後日日程調整を行い、実施日を決めることとした。

会 議 報 告

第 3 回 部門会議

平成 30 年 7 月 2 日（月）

議 事

なし

報 告

1. 戦略 4 検討会について

機構の各部門長、班長をメンバーとする戦略 4 検討会が開催され、今後の方向性について意見交換をされた旨を報告した。

（意見・質問）

○特になし

2. 社会教育主事講習について

第 2 回運営委員会が開催され、受講者を決定した報告を行った。なお、今年度は岩手県 30 名、青森県 7 名、秋田県 12 名の計 49 名の受講となった旨を報告した。

（意見・質問）

○特になし

会 議 報 告

第 4 回 部門会議

平成 30 年 7 月 27 日（金）

議 事

なし

報 告

1. 国際交流支援コーディネーターの推薦について

国際交流支援コーディネーターに、江南大学で准教授を務める李智を推薦する旨を報告した。

（意見・質問）

○特になし

2. 社会教育主事講習について

7 月 17 日（火）～8 月 9 日（木）の期間で社会教育主事講習を開催する旨を報告した。

（意見・質問）

○特になし

3. 組織改編について

機構の組織改編について機構内の事業を整理し、再検討する運びとなった旨を報告した。

4. 生涯学習部門の年間スケジュールについて

生涯学習部門に係る年間スケジュールについて 8 月以降の分を作成した旨を報告した。

会 議 報 告

第 5 回 部門会議

平成 30 年 8 月 29 日（水）

議 事

1. 第 4 回部門会議（メール会議）議事録について

第 4 回部門会議の議事録について（資料 1）に基づき確認を行い、これを了承した。

2. 平成 29 年度公開講座インセンティブについて

朴部門長より平成 29 年度公開講座インセンティブについて（資料 2）に基づき説明があり、これを了承した。

（質問） ○部門員 ●事務局

○インセンティブとは、受講料収入が無くなっても支出されるものか？

●インセンティブは公開講座実施経費から支出されているが、この経費は受講料収入ありきで配分されているものではないため、受講料収入が無くなったとしてもすぐに支出されなくなるものではない。

3. 三陸復興・地域創生推進機構組織改編について

朴部門長より生涯学習部門の組織改編案について（資料 3－1）に基づき説明があり、また、八代副機構長より三陸復興・地域創生推進機構組織改編について、その趣旨や目的等を、（資料 3－2、3－3、3－4）に基づき説明し、特に部門・センターの名称について部門員と意見交換を行った。

（意見・質問） ○部門員 ●八代副機構長

○「部門をセンターとして呼称することが出来る」とのことだが、これはよろしくない。外部から分かり辛くなるため、センター化するならば、あるタイミングでしっかり切り替えないといけない。公文書の発行元などの問題もあるのではないか。

●岩手大学における生涯学習に係る活動を対外的に強く押し出すために、センター化は進めていきたい。呼称はそのための移行期間と考えているが、来年度は部門として部門のままの名称で活動することを選んでもよい。将来的には、平泉文化研究センターやものづくり技術研究センターのように教育研究領域の独立したセンターとするのがいいのではないか。そして学部と同等の位置づけをするものである。

○実践領域と教育研究領域の境がますます分からなくなる。

○外部から分かりやすくなるということは理解できるが、そもそもこれは文部科学省から評価されることなのか？評価されることならば他部門と足並みを合わせた方が良くはないか？だとしても正式名称でなく呼称出来るとするとは、やはり良くない。どちらか選ぶ必要がある。

○前回の会議で提示された改編案では、生涯学習部門はなくなるというものであったが、今回の改編案では現在の 3 部門を継続させるというものである。ここをまず確認したい。

→異論なし

○無理にセンター化する必要はないのでは？

●部門でよいのであれば、それでよい。地域創生部門の方でセンターを名乗りたいようで、これが事の始まり。

○教育研究領域のセンターが学部と同等となると学部から反発があるのではないか？どこかの下部組織がよいのではないか？

●学部と同等というのは、あくまで文部科学省から予算をとるための見せかけであるので、実際は異なるものである。

○外部に強く打ち出すためにセンター化するというのは、もう遅いのではないか？まず、実績や継続事業があってこそそのセンター化であるので、予算取りのためのセンター化では評価されないのではないか？

○過去に使用していた名称を、また使用することは混乱を招く。

●ちなみに地域連携推進センターについては、過去の名称を使うのではなく地域連携・創生センターとする案がでているので、今後引き続き審議していく予定である。

以上のような意見交換が行われたが、名称についての結論は出なかった。

報 告

1. 平成30年度岩手大学社会教育主事講習について

朴部門長より平成30年度岩手大学社会教育主事講習について（資料4）に基づき報告を行った。

2. 平成30年度生涯学習部門事業計画について

朴部門長より平成30年度生涯学習部門事業計画について（資料5）に基づき報告を行った。

会 議 報 告

第 6 回 部門会議

平成 30 年 10 月 16 日（火）

議 事

なし

報 告

1. 組織改編について

9 月 2 0 日に開かれました第 3 回三陸復興・地域創生推進機構会議にて、【資料 1】の組織図の方向性で検討することが決まった旨を報告した。

（意見・質問）

○特になし

会 議 報 告

第 7 回 部門会議

平成 30 年 12 月 13 日（木）

議 事

1. 平成 31 年度公開講座公募について

朴部門長より平成 31 年度公開講座公募について（資料 1-1～1-5）に基づき説明があり、これを了承した。部門員からの意見は無かった。

2. 社会人学び直しシンポジウムについて

朴部門長より社会人学び直しシンポジウムについて（資料 2-1,2-2）に基づき説明があり、これを了承した。

（意見・質問） ○部門員 ●部門長

○文部科学省から講演者を呼ぶとなると人数を集めるために、可能な限り早く周知した方が良い。

●12 月 17 日（月）に文部科学省より講演者について連絡があるので、確定次第チラシを作成し、配布する。

○講演の言語はどうなっているか？

●講演者は全て日本語で講演が可能である。

○それならば、チラシにその旨を明記した方が良いだろう。また、タイトルに内容が分かるワードを入れた方が良い。

●承知した。

○海外ではどのような学び直しが多いのか？

●産学連携が多い。ただ、岩手では農学が欠かせないと考えている。

○講演者は、日本への留学経験があるのか？

●全員経験者である。

○それならば、その旨も明記した方が良いだろう。

3. 下半期事業スケジュールについて

朴部門長より下半期事業スケジュールについて、（資料 3）に基づき生涯学習部門（社会人学び直し関連）では次年度に向けて概算要求のための準備を進める旨報告があり、了承した。

（意見・質問） ○部門員 ●部門長

○「地域女性懇談会（学習支援）」についてだが、どのようなテーマで行うのか？
また、ターゲットはどの層か？

●テーマは農業や福祉をメインとし、県内で活躍している女性をターゲットに 10 人強の小規模の懇談会にする予定である。また、懇談会では、勉強会を兼ねて行くと、講師として社会教育専門教員を及び予定である。

○とすると「大学が何を出来るか」でなく「大学に何を期待するか」という話になるのか？

●懇談会を通して得られた情報は社会人学び直しプログラムの開発に還元する。

報 告

1. 三陸復興・地域創生推進機構改編及び規則改正について

朴部門長より三陸復興・地域創生推進機構改編及び規則改正について（資料 4）に基づき報告を行った。

（意見・質問） ○部門員 ●部門長

○組織図の中で、RTGC はどのような立ち位置なのか？機構と関係が無いならば分かりやすいようにどこかに明記した方がよいのでは？また、エクステンションセンターはそれぞれどのように連携しているのか？直接上田とではないと思うが、沿岸での連携はどうなっているのか分かりやすくしてほしい。

●八代副機構長に提案してみる。

2. 第 3 期中期目標期間に関わる業務の実績に関する自己評価報告書について

朴部門長より第 3 期中期目標期間に関わる業務の実績に関する自己評価報告書について（資料 5）に基づき、提出求められる旨、説明を行った。

3. がんちゃんの学びについて

朴部門長よりがんちゃんの学びのチラシ（資料 6）に基づき報告を行った。

4. その他

- ・地域連携フォーラム in 釜石に生涯学習部門としてパネル展示を行う旨を報告した。
- ・今後の部門会議（1 月～3 月）は、状況に応じてメール会議で開くこととなった。
- ・来年度からは機構規定の改正により部門会議の審議事項の明確化が進められる旨、説明があった。

会 議 報 告

第 8 回 部門会議

平成 31 年 3 月 13 日（水）

議 事

1. 平成 31 年度客員教授について

平成 31 年度の組織改編に伴い、アートフォーラムが地域創生部門より生涯学習部門へ移行することが決ったので、アートフォーラムより（資料 1）のとおり平成 31 年度客員教授の申請があり審議の結果了承した。

2. 特任研究員継続雇用について

特任研究員の継続雇用について（資料 2）に基づき機構に申請することで了承された。
（意見・質問） ○部門員 ●部門長

○様式に個人名を記載した方が良いのではないかと？

●こちらは、機構の様式で個人ではなく研究員の枠を確保するための要望書となる。

報 告

1. 生涯学習部門自己評価と平成 31 年度活動計画書について

生涯学習部門の自己評価と活動計画書を（資料 3）の通り提出した旨を報告した。

（意見・質問） ○部門員 ●部門長

○資料 3-2 の計画書についてだが、ロードマップの事業テーマ番号と平成 31 年度プロジェクト計画の番号が対応していないのではないかと？

●平成 31 年度に始動しない事業を除き、事業テーマ番号を詰めて記載していた。今回に関しては提出済みであるため、次年度から調整する。

○資料 3-3 の予算書にアグリフロンティアの予算が計上されているので、計画書にもアグリフロンティアについて記載した方が良い。

●ご指摘の通りである。今回に関しては提出済みであるため、次年度から修正する。

2. 公開講座について

平成 31 年度の公開講座を学内で公募を行った結果、（資料 4）の通り応募があった旨を報告した。

3. アートフォーラムについて

アートフォーラムの事業内容を（資料 5）に基づき報告した。

4. シンポジウムについて

シンポジウムの実施成果を（資料 6）に基づき報告した。

5. 報告書について

今年度も「平成 30 年度生涯学習部門成果報告書」及びシンポジウム報告集Ⅱ「東アジアの大学における社会人学び直し」を発行する旨を報告した。

2 生涯学習部門事業

社会人学び直しプログラム開発研究

企画講座
「がんちゃんの学び」

社会人学び直しシンポジウム

公開講座

社会教育主事講習

2-1 社会人学び直しプログラム開発研究

生涯学習部門では、地域住民（若者、高齢者、女性、外国人など）のニーズの多様化・高度化に対応した環境整備とともに、地域の課題に対応できる人材育成プログラムの開発を行っている。特に、女性の社会参加・仕事への復帰が注目されているなか、ライフステージに応じた学ぶ機会の充実化を図りながら生涯学習プログラムの質保証を目指したアカデミックプログラムの開発に向けて研究を進めている。

(1) 研究発表

今年度は学会での発表に加え「いわてアグリフロンティアスクール」の成果を論文としてまとめ岩手大学人文社会科学部紀要アルテスリベラレスに投稿している。なお、学会発表及び論文投稿の詳細は下記の表のとおりである。

表2 研究発表一覧

学 会 発 表	①	日本比較教育学会：「日本の大学における成人学習者をめぐる現状と課題—I大学の事例を中心に—」2018年6月24日（広島大学）
	②	日本社会教育学会：「移住高齢者支援団体における当事者主体の運営の意義と課題」2018年10月6日（名桜大学）
	③	日本社会教育学会：「生涯学習における大学の役割」2018年10月6日（名桜大学）
	④	「The Present and Issues of Employment Support after the Great East Japan Earthquake: the case of single parent in Iwate Prefecture」Global Conference on the International Network of Disaster Studies in Iwate, Japan “Iwate Conference” にてポスター発表，2018年7月18日
論 文 投 稿	①	「大学における地域融合型『生涯教育講座』の意義」岩手大学人文社会科学部紀要アルテスリベラレス，第103号 2018.12, p173～190.
	②	“The Issue of Child Poverty in Japan and the Need for Inclusive Support Examples of Children’s Restaurants “ ISRIS (Research for Social Justice)

(2) 既存プログラムとの連携

昨年度に引き続き、アグリフロンティアスクールの受講者を対象にコンピューター講座を実施した。当講座は、ハード面やソフト面に関する基礎知識を身に付けさせることを目的に行ったものである。具体的には、マウス・キーボードなどの基本的な操作、Word、Excelを使った文章の作り方を身に付けさせることで、まず受講者にコンピューターに慣れてもらうことに重点を置いた。今年度は5名が受講しており、いわてアグリフロンティアスクールのコース授業が始まる前に基礎知識を身に着ける補足講義を設けることができた。

なお、「いわてアグリフロンティアスクール」の受講生全員を対象に例年行われている授業評価のアンケートに加え、生涯学習ニーズのアンケート調査を行った。なお、アンケート調査結果については<資料 2-1-1>を参照されたい。

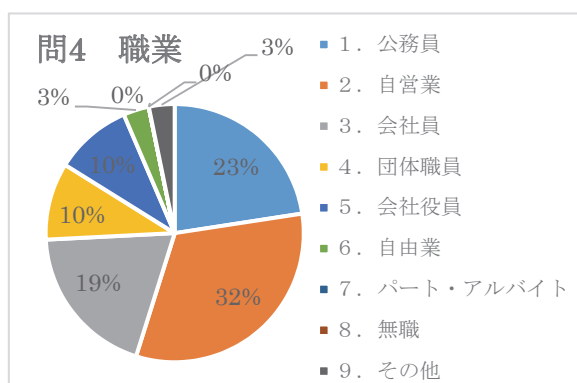
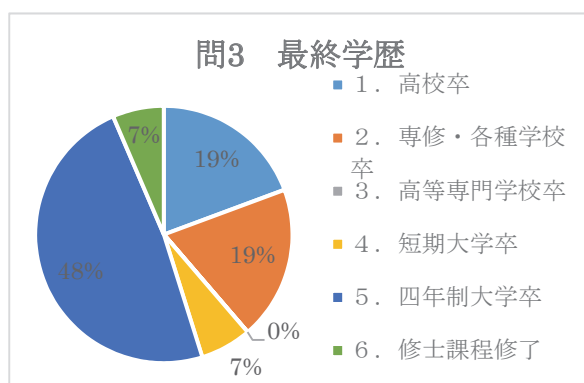
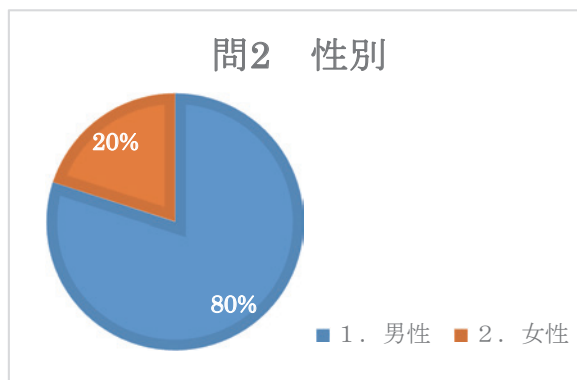
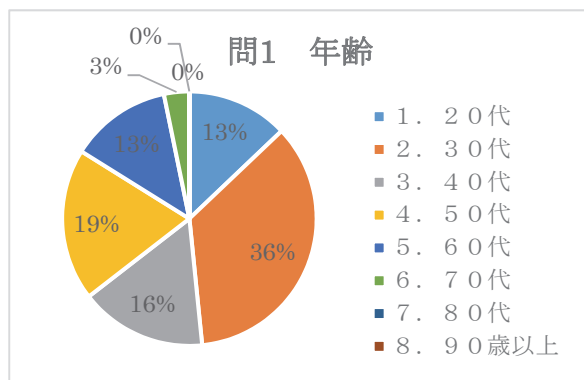
(3) 共同研究員との懇談

各市町村では地元企業と大学の共同研究を進めるため、三陸復興・地域創生推進機構に共同研究員を派遣している。生涯学習部門では、派遣された共同研究員と連携を構築し、今後の支援体制を図るため、今年初めて共同研究員との懇談会を設けた。懇談会では、共同研究員が派遣されたきっかけから、今後の大学に対する要望など、幅広い話題を提供しながら進行された。詳細は<資料 2-1-2>懇談会議事録を参照されたい。

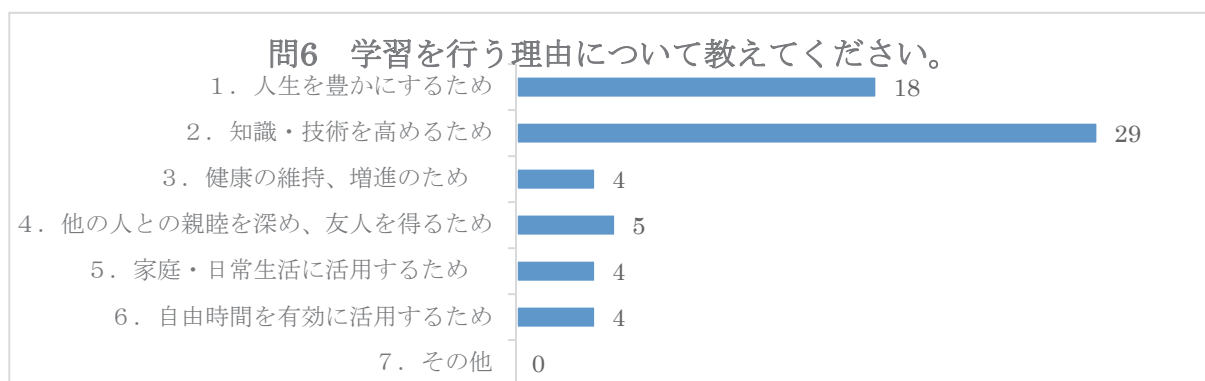
生涯学習ニーズに関するアンケート

アンケート回答数：31 名

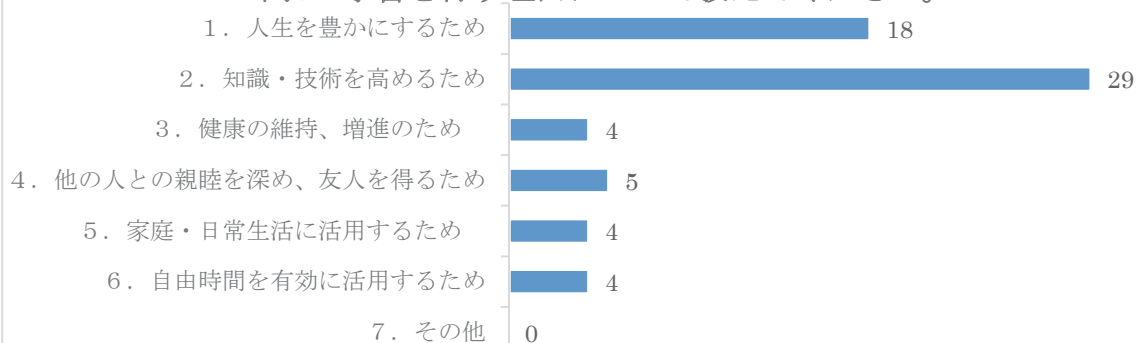
I ご自身について



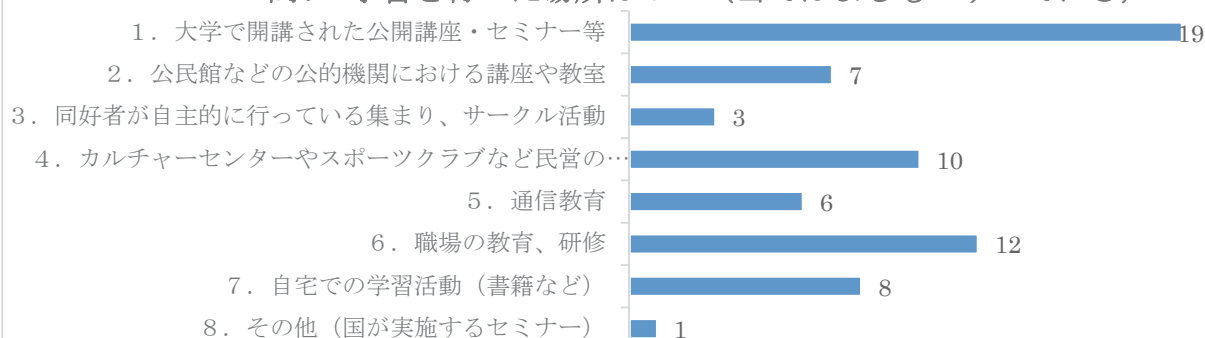
II 生涯学習経験について



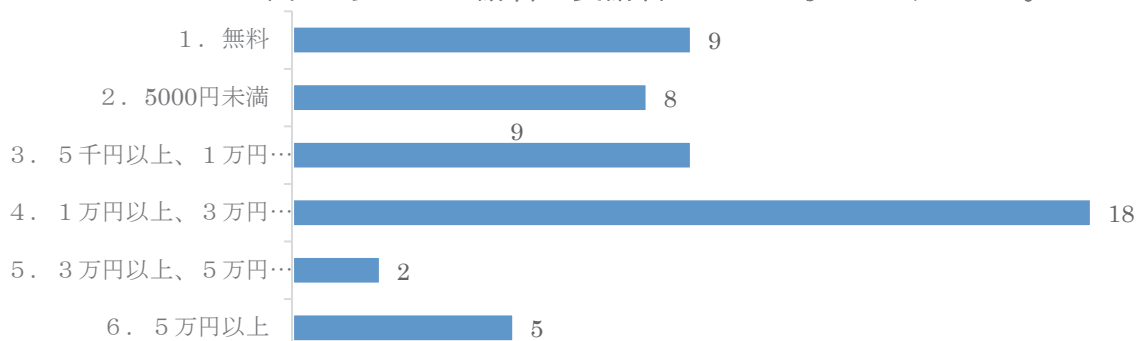
問6 学習を行う理由について教えてください。



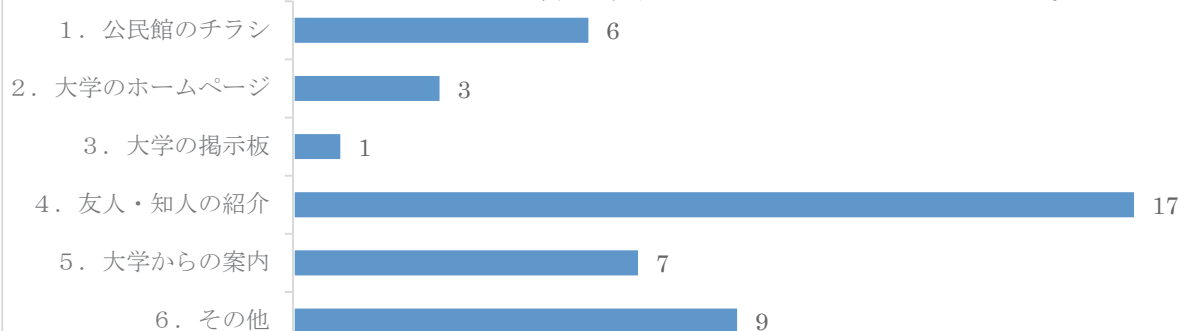
問7 学習を行った場所は？（当てはまるものすべてに○）



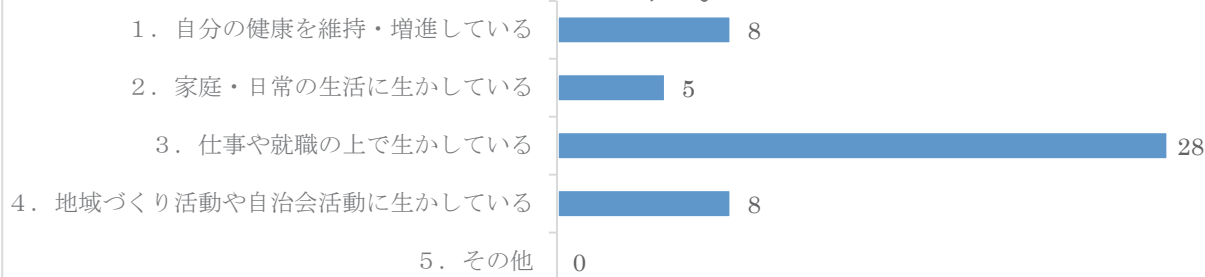
問8 参加した講習の受講料について教えてください。



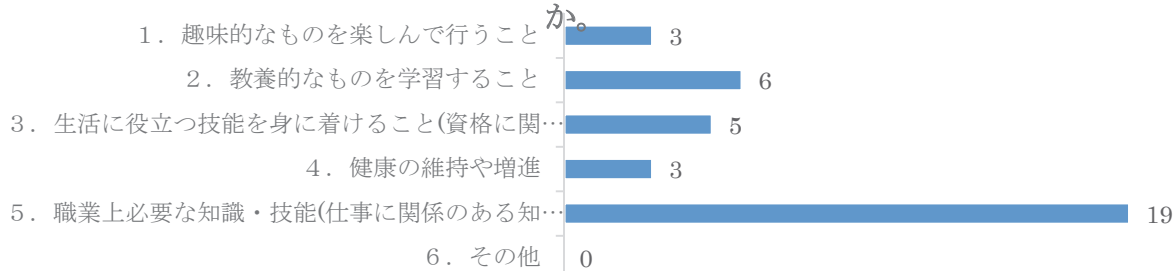
問9 参加した講習の情報はどちらから知りましたか。



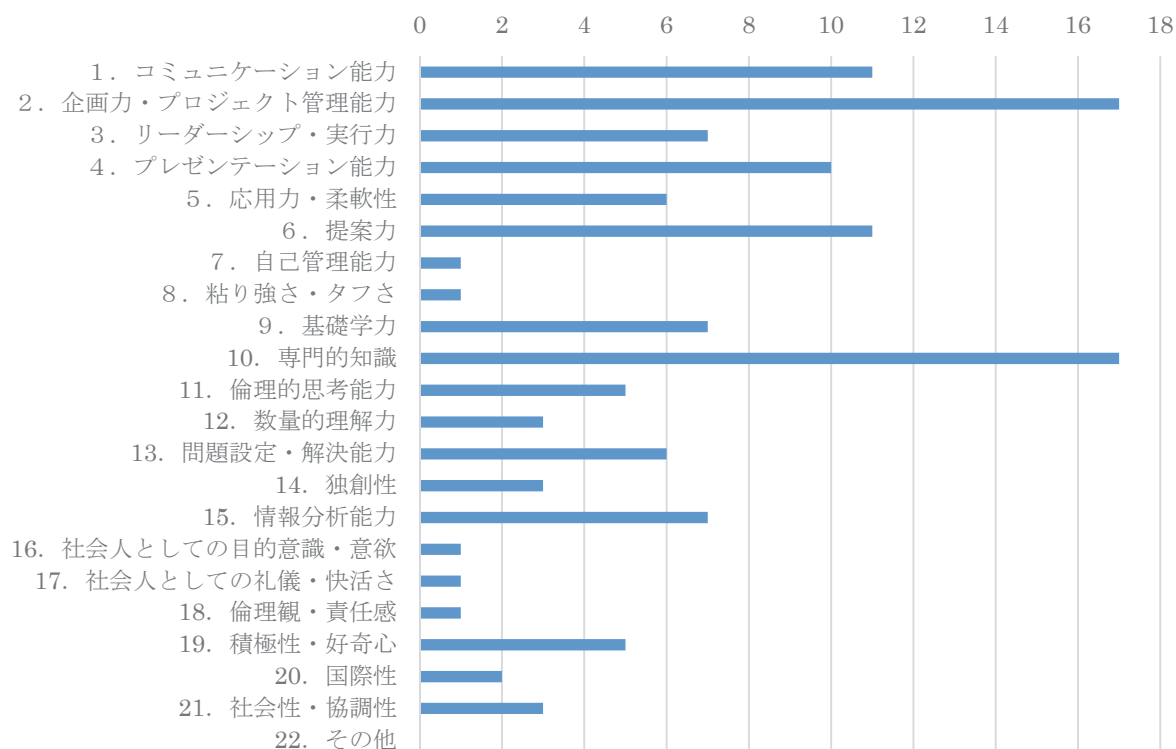
問10 学習活動を通じて身に付けた知識・技能や経験をどのように生かしていますか。



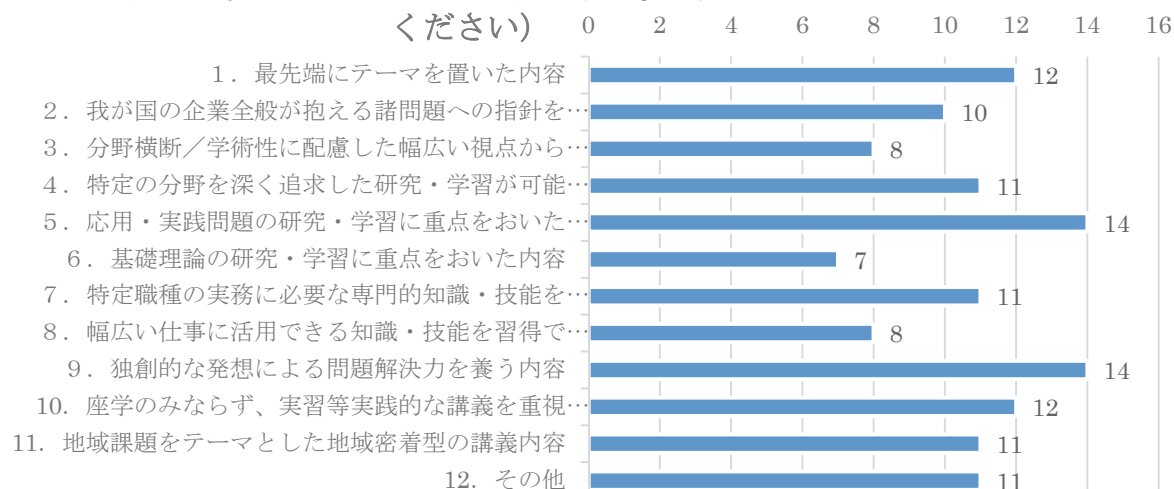
問11 学習活動を行う際、あなたが一番重視するものはなんですか。



問12 大学で学び直しをする場合、特に身に付けたい知識・技能・資質はなんですか。



問13 大学等で学び直しプログラムを提供する際、カリキュラムにおいて特に重視してほしい内容は何ですか。（5つまで選択してください）



問14 大学等において、教育環境面で特に重視してほしいことは何ですか。（5つまで選択してください）



○ご意見等をお書きください。

（大学で開講してほしい講座などありましたらお書きください）

・岩手の歴史

・岩手は県土がとても広いので条件不利地域での出前講座などを積極的に取り組んでもらいたい。

共同研究員×生涯学習部門 懇談会 議事録

日時：2019年2月18日（月） 13：30～15：00

共同研究員参加者：金澤 健介（盛岡市共同研究員）

大内田 泰久（久慈市共同研究員）

澤口 なつ美（釜石市共同研究員）

生涯学習部門参加者：朴 賢淑 准教授（生涯学習部門長）

朴 仙子 特任研究員

場所：地域連携センター棟 ゼミ室

岩手県各市町村から派遣された共同研究員と今後の生涯学習部門との連携を図ることを目的に懇談会を開催した。朴准教授より共同研究員の活動については会議で報告されていないため、大学での活動が分かりにくいことから、懇談を通して共同研究員が行っている活動を含めて岩手大学の支援の在り方について意見交換を行う旨説明があった。

なお、懇談会では下記の事項について話し合われた。

1. 派遣経緯について

朴(賢)：派遣は指名なのか。

金澤：多くの場合は指名されてくる。私の周りに共同研究員だった同僚がいたので自ら希望した。

2. 市町村での職務経験について

金澤：税金徴収関係に5年間勤務し、産業振興系に移ったばかりに派遣された。

大内田：地域づくり振興課で1年勤め、2年目に岩手大学に派遣された。久慈市は組織改編があったため、欠員のままである。帰る部署はまだ決まっていない。産学官連携関連の仕事を継続して行いたい。

3. 岩手大学での研究・活動について

朴(賢)：所属の市町村から仕事関連で連絡は来るのか。

澤口：市町村の各部署から相談が来ることはある。相談を受けて学内の教員に繋げたりする。主な業務は地元企業が抱えている課題を見つけ、それを解決するために大学教員の研究とマッチングさせることである。コーディネートの役割を果たしている。

朴(賢)：共同研究員として大学に戻ることは社会人学び直しに繋がる。コーディネートのだけでなく、学習の機会の提供が必要である。

金澤：大学における共同研究員の受け入れは大学での勤務を通して大学の研究動向と地元企業のニーズを把握すること、また、市に戻ってからは大学と役所の架け橋の役割を果たすとともに市の政策策定に提言できる人材を育てることが目的であったと聞いている。

4. 大学への期待

朴(賢)：大学の教員や学生との交流について。

澤口：脇野先生の地域課題演習の授業でアドバイザーとしてかかわっているが、非常に大事な経験だと思う。

金澤：現場の経験を踏まえ、学生を対象にキャリア関連の講義を提供することができる。

5. 今後について

朴(賢)：生涯学習部門では、生涯学習プログラムの開発や遠隔教育システムの導入を通して学習の場にアクセスできない地域住民のための学習機会の拡大に繋げていきたい。そのためには各市町村の現状、学習ニーズの把握が必要不可欠なため、今後も共同研究員との懇親会をとおして各市町村の生涯学習関連情報を共有させていただきたい。

2-2 企画講座「がんちゃんの学び」

生涯学習部門では、地域の課題を地域住民と共有し、共に解決策を探るために毎年企画講座「がんちゃんの学び」（シリーズセミナー）を開講している。今年度は「地域」、「グローバル」、「アート」、「高齢者」、「子ども」をキーワードに5つのシリーズ、16講座を開講している。各シリーズでは、国の政策を踏まえた上で、さらに、受講者との意見交換を通して地域課題について再確認することができた。また、当講座を通して成人教育の視点から大人が学んだものを実践に結び付けていくための条件とは何かについて検討を行った。

セミナーは平成30年9月から平成31年2月に掛けて実施しており、合計140名受講した。実施状況は下記の表3の通りである。

表3 がんちゃんの学び実施内容

	シリーズ①		
	地域学		
テーマ	宮沢賢治童話にみる「標準語」と方言	陸前高田グローバルキャンパスの挑戦	三陸のサケと日本のサケ～人との関わりと生態・資源
講師	小島 聡子 (岩手大学・准教授)	五味 壮平 (岩手大学・教授)	塚越 英晴 (岩手大学・助教)
開催日	平成30年9月13日	平成30年9月13日	平成30年9月14日
講演概要	現代の「標準語」や口語体の書き言葉は、近代以後に形成・確立されてきたものなのですが、宮沢賢治の生きた時代はちょうどその確立・普及期にあたります。そのため、宮沢賢治の童話には、現代ではやや違和感のある言葉遣いが見られます。それらの違和感のある言葉遣いは、ともすると少し古い時代のものだから片付けられがちですが、もう少し掘り下げて、標準語と方言の関係という	岩手大学と立教大学は、2017年4月に陸前高田グローバルキャンパスを創設しました。震災の風化が叫ばれる中、大学生や大学関係者等が今後も同市や三陸地域を来訪し、市民との交流や協働を行いながら学ぶことのできる拠点として、また震災の教訓を国内外に発信していく場として機能することが期待されています。講習では、グローバルキャンパスが設立された経緯、これまでどのようなことが行われてきた	サケは、川で生まれ、海で成長し、産卵のために自分の生まれた川に戻るという性質（母川回帰）をもちます。この母川回帰性を利用した、ふ化放流事業により、三陸岩手を含む我が国のサケ資源は造成・維持され、我々の食卓に身近な存在となりました。一方で、サケは、川と海を行き来したり、海洋生活期の中で大回遊することから、生態についてまだまだ分からないことがたくさんあります。講義では、サケと

	観点も交えて、考察してみたいと思います。	のか、そして将来展望などについてお話しします。	人との関わりやふ化放流事業についてお話しするとともに、DNAを使った分析からわかりつつある三陸岩手のサケの生態についてお話しします。
--	----------------------	-------------------------	--

	シリーズ②		
	韓国の文化と教育		
テーマ	日韓相互理解の時代韓国人に魅力的な日本のコンテツツはなあ〜に	ハングルと漢字 〜その成り立ちから現在まで〜	韓国の教育事情
講師	金 鉉哲 (東北大学・准教授)	鋤田 智彦 (岩手大学・准教授)	朴 賢淑 (岩手大学・准教授)
開催日	平成 30 年 11 月 14 日	平成 30 年 11 月 21 日	平成 30 年 11 月 28 日
講演概要	近年、日韓の文化交流が盛んに行われていますが、いまだに日韓相互理解が十分とはいえませんが、20 年間の日韓文化交流経験をもとに、なぜ、いまだに課題として残されているのかについてお話しします。特に、ここ数年間で、日韓文化交流イベントの企画担当をしながらふれあった韓国の若者やオピニオンリーダーらが魅力を感じる日本の文化について紹介します。	現在韓国及び北朝鮮で用いられているハングルは、15 世紀半ばに時の世宗大王によって制定されました。ハングルはその由来のはっきりとした文字であり、見た目には難解そうですが、構造は今から見ても見劣りしない当時の最先端の言語学の知見に基づいており、極めて理論的です。講義ではハングル以前の韓国語（朝鮮語）はどのように表記されていたのかといったことや、ハングルの構造、ハングルと漢字の関係、及び朝鮮王朝時代に作られたハングルによって漢字の発音が示された中国語教科書『老乞大』からわかる当時の言	韓国は教育熱心でかつ受験競争の過酷な国として知られています。その表れとして、「4 当 5 落(サダンオラク)」という言葉があり、4 時間以下の睡眠なら大学に合格できるが、5 時間以上寝ると不合格になるということです。しかし、今は高校生ではなく初等学生（小学生）の間でさえ、「4 当 3 落(サダンサムラク)」という言葉が流行っています。「4 当 3 落」というのは、「志望大学に入りたいなら、自分の学年より 4 つ上の学年の教科課程を終わらせておかなければならない。もし、3 学年上の教科課程しか終

		語や風習、その他にも漢字が現在では韓国や北朝鮮でどのように扱われているかなどについてお話しします。	えてないなら、志望大学に入学できない」という意味です。 本講義では、このような韓国の教育事情について説明し、具体的なデータを用いながら日本の教育事情との比較をしてみたいと思います。
--	--	---	---

	シリーズ③		
	高齢者のライフデザイン		
テーマ	人生 100 年時代の介護を考える～地域包括ケアのまちづくりを目指して	さまざまな認知機能障害と健康なシニアライフ	高齢者の運動と健康
講師	大釜 範之 (岩手県庁・高齢福祉担当課長)	石橋 遼 (東北大学・助教)	栗林 徹 (岩手大学・教授)
開催日	平成 30 年 12 月 12 日	平成 30 年 12 月 19 日	平成 30 年 12 月 26 日
講演概要	「人生 100 年時代」と言われています。日本人の平均寿命は、男性が 80.98 年、女性が 87.14 年。高齢化率は 27.7% に達しています。一方で、人口は長期の減少過程にあり、現役世代の割合は年々低下しています。2065 年には、65 歳以上の人 1 人に対する現役世代の比率は 1.3 人になるという推計もあります。こうした将来予測からは、社会保障費の増大による財政の圧迫に加えて、労働力の減少による社会・経済活動の停滞が懸念されています。どのようにして若い世代の負担を減らし、社会保障制度を守っていく	高齢者の認知機能・特に言語機能の変化や障害についてお話ししたいと思います。高齢化に伴う大きなリスクの一に認知症がありますが、認知症といっても様々なタイプがあり、また加齢に伴う正常な範囲の認知機能低下とは区別する必要もあります。この講義では、認知症やその他の認知機能障害についての一般的な理解と学術的な議論との溝を埋めるために、基礎的な認知症・認知機能障害の分類についてお話しします。また健康で意欲	2017 年度体力・運動能力調査の結果によると高齢者が向上傾向にあり、70 歳以上の男性と 65 歳以上の女性が過去最高を記録しました。一方、サルコペニア（加齢性筋肉減弱現象）、フレイル（虚弱）という言葉をよく耳にし、加齢に伴う体力の衰えが気になります。2025 年には、団塊の世代が 75 歳を超えて後期高齢者となり人類が経験したことのない『超・超高齢社会』を迎え、介護予防の重要

	か。 本講義では、課題の解決に向けた取組について、「地域包括ケアシステム」の解説と合わせてご紹介します。	的な生活を送るために何が重要か探るため、講演者が現在行っている研究データや、その他国内外での近年の認知症研究／加齢研究の成果などの紹介をさせていただきます。	性が高まっています。 この講義では、介護予防を念頭に、生活習慣病の予防・改善や体力維持・向上に役立つ運動について紹介させていただきます。また、活動的なシニアライフを送るための運動のヒントをお話します。
--	---	--	---

	シリーズ④		
	木版画研究会@岩手大学版画実習室		
講師	田村 晴樹（岩手大学・非常勤講師）		
開催日	平成 31 年 1 月 26 日	平成 31 年 2 月 2 日	平成 31 年 2 月 9 日
講演概要	昨年度に引き続き木版画制作をテーマとして、現在版画制作に興味のある方、学校教育機関での版画制作指導者を対象に、岩手大学教育学部非常勤講師（木版画担当）田村晴樹先生を講師としてお迎えし、木版画の公開制作を交えながら、参加者と対話から高度な技術・技法の共有と研究を目指すワークショップを実施します。なお、制作した作品はアートショップ彩画堂 S-space におきまして、作品展を開催する予定です。作品制作、額装、展示をすることにより、作品が社会化するプロセスも併せて推進します。		

	シリーズ⑤			
	こどもの発達と家庭教育			
テーマ	子どもの貧困を考 える ー子どものいまと 未来を支える支援 とはー	岩手県における子 育て支援の取組 ー子育て支援か ら、出会い、結 婚、妊娠、出産、 子育てまでの切れ 目ない支援に向け てー	子どもの発達を促進 する家族のあり方 ーいつも幸せな家族 であるためにー	現代日本の子育て 家族 ーなにが子ども の育ちに必要なの かー

講師	櫻 幸恵 (岩手県立大学・准教授)	中村 佳和 (岩手県庁・少子化・子育て支援担当課長)	奥野 雅子 (岩手大学・准教授)	神谷 哲司 (東北大学・准教授)
開催日	平成 31 年 1 月 24 日	平成 31 年 1 月 30 日	平成 31 年 2 月 6 日	平成 31 年 2 月 15 日
講演概要	今、日本では 7 人に 1 人の子どもが貧困の中で育っています。子ども自身の力ではどうしようもない生活困窮やさまざまな機会の格差によって、日々の生活を脅かされ、貧困によって進学を諦めるなど未来への選択肢を奪われているのです。私たち一人一人がそうした現実を知り、すべての子どもが自分の能力や可能性を活かして、自分の人生をいきいきと生きていける社会にするために、私たち大人ができることは何なのか、地域や海外の事例なども示しながら、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。	岩手県の出生数は、平成元年の 14,548 人から平成 29 年は 8,175 人となり、30 年で約 6,000 人以上減少し、今後も減少が見込まれています。若い世代が、岩手で生き生きと仕事をし、楽しみながら子育てができるようにするためには、働きにくさや結婚しにくさ、子育てしにくさの解消を社会全体で実現していく必要があります。本講義では、岩手県で安心して子どもを生み育てられる環境をつくるため、出会いから、結婚、妊娠、出産、子育てまでの切れ目ない支援の実施に向けた岩手県の取組を紹介します。	子どもの発達には、他の家族メンバーにしばしば葛藤を起すことがあります。たとえば、子どもが思春期になった時に自分を主張し親と衝突するようになるということです。そこで親子関係が揺らぐということは自然なことです。また、子どもが進学や就職で家を離れるようになれば、夫婦ふたりが残されることになります。そこでも夫婦関係の揺らぎが生じるのです。子どもの発達は喜ばしいことですが、それに伴って揺らいだ家族はそれを乗り越えて、家族自体が発達する必要があります。そのためにはどうしたらいいかという、家族内のコミュニケーションのあり方を意識して変化させることが求められるの	モンスターペアレンツや毒母・毒親、児童虐待にニート・ひきこもりなど、家族、とりわけ子育て家族をめぐる諸問題が後を絶ちません。これらの諸問題を、「しつけがなっていない」「親が悪い」などと片づけるのは簡単ですが、本当にそうでしょうか。この講義では、戦後日本社会 70 年にわたる家族の変遷を紐解きながら、現代日本社会に何が起っている諸問題が、どのように生じてきたのかについて、そして、今後の子どもの育ちを支えるために私たちにできること

			です。子どもの発達を促進し、いつも幸せな家族であるための家族のあり方についてお話しします。	は何なのかについて、考えていくことができると思います。
--	--	--	---	-----------------------------

なお、講義の質向上を図り、地域住民の学習ニーズを把握するため各講義終了後、参加者を対象にアンケート調査を行っている。詳細は<資料 2-2-1>を参照されたい。

アンケート調査では、①授業に対する評価、②受講者の属性、③生涯学習経験、④今後の活動計画、⑤岩手大学のプログラムなどについて聞くことができた。なお、「①授業に対する評価」は受講者全員を対象に毎回実施し、「②受講者の属性」、「③生涯学習経験」、「④今後の活動計画」、「⑤岩手大学のプログラム」については今年度「がんちゃんの学び」を初めて受講する受講者のみを対象に実施している。

セミナーを受講した理由を伺ったところ、「知識・技術を高めるため」「人生を豊かにするため」が並んだ中、「岩手大学が開催するため」が3位になっている。アンケート調査の結果から学習者のキャリアアップのための学びの場として大学への期待が高まっていることが分かる。

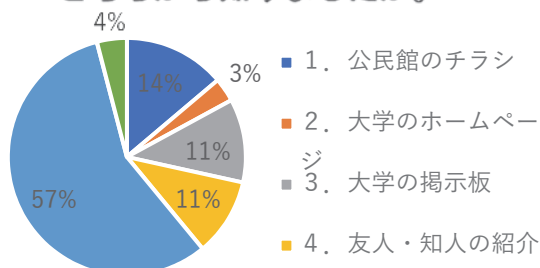
次に、受講者の属性についてである。受講者の4割を60代と70代が占めているなか、平日開講であるにも関わらず20代から50代の受講者が5割強を占めている。なお、岩手大学、岩手県立大学の学生も講義への参加が見られていることから、若い世代の意識を把握することができ、幅広い年齢層がお互い理解を深める機会でもあったと言える。また、学生（社会人予備軍）においても、実践知を高める学び場としての機能を果たしていることが分かる。

また、新たな生涯学習プログラムの開発に向けてがんちゃんの学びの受講者を対象に生涯学習の経験と今後の活動計画について伺うことができた。詳細は<資料 2-2-2>を参照されたい。

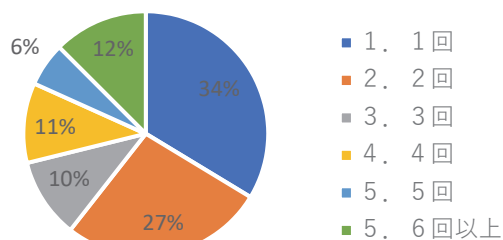
がんちゃんの学びアンケート

アンケート回答数：115 名

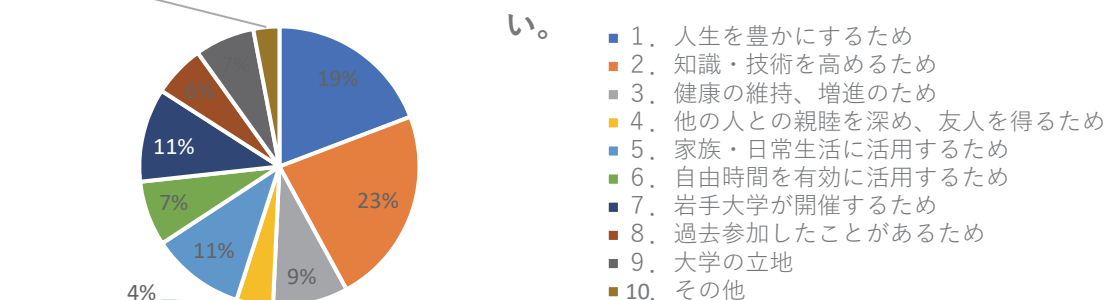
I 本日の授業についてお聞きします。（複数回答あり）

問1 がんちゃんのまなびの情報は
どちらから知りましたか。

問2 がんちゃんのまなびに参加した回数をお教えてください。



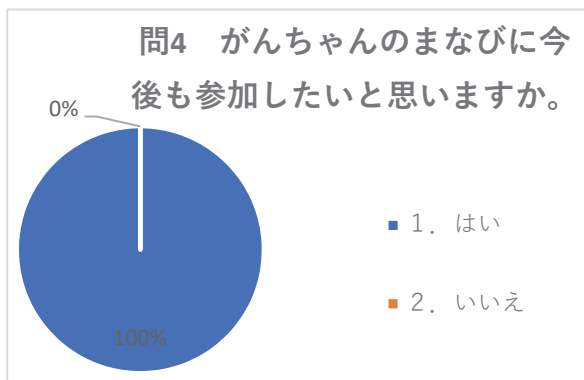
問3 がんちゃんのまなびを受講した理由についてお教えてください。



■問3「その他」の記述

・ 隣国の韓国に業務で約1年間滞在し、「韓国自体」が好きな為。
・ 興味（関心）のある講座だから。（2名）
・ 韓国、アジアに興味があったから。
・ 専門的な知識を学ぶ機会があれば。
・ 刺激になる、緊張感をもつ。
・ 地域、時代に即した内容。
・ 生活に役立つと感じるので、参加したいと思います。
・ 難しい内容を理解できるような講義でした。生涯学習は大事と思っていますので、日常生活を豊かにする為です。
・ 自宅からも近く、受講そのものも有意義な時間なので次回も是非参加希望です。
・ 他で教えてくれないことが学べるので。
・ 高いレベルの知識を多分野にわたって学べる。
・ 内容が良いので。自分の為!!地域の為!!
・ 感心のある分野であるため。

・ 身近に貧困の子供がいた。
・ 職務に活かすため。
・ 子ども発達の話、奥野先生の話聞いたかった。
・ 子どもの貧困、子育て支援のため



【問4の理由】

・ 興味がある講座があれば。宮澤賢治の講義は是非出席したい。
・ 関心をもつ学びについての専門的講義が聞けるから。
・ 方言にしても、今まで気付かなかった新しい発見、学びがある。
・ 大学の多彩な分野の先生方の話が聞けるから。
・ とても勉強になっております。
・ 聞きたい講座があれば。
・ 見分を広める。
・ 新しい発見がたくさんあったから。
・ 異文化についての授業に参加したいと思いました。
・ 興味深い内容だったので。
・ いろんなことを知りたいです。
・ 毎回楽しみです。よろしくお願いします。
・ 色々な知識が得られるので！！勉強になります。
・ 幅広く知識を得たい多くの人と知人になりたいため。
・ 広く浅く人生を豊かにするため。
・ ここで学んだ事柄を地域社会に生かしたいので、ぜひ“がんちゃんの学び”の授業を続けてください！！
・ 楽しく学べ有意義だから。
・ とても勉強になります。
・ 自分のためになるから。
・ 普段はお話を聞けないような講師の方もいらしていたので。

・ 行動した分プラスな事が必ずあります。
・ 全てが勉強になる為!!
・ 社会活動のため
・ 基礎知識だけでなく、実践例も知りたい。
・ 自分に興味がある講習会には参加したい。
・ とても参考になりますので…次回もタイミングがあったら是非!!
・ 興味があるテーマがあれば勉強したい。
・ 自分自身知識を得られると共に、他の参加者のリアルな意見や反応を知ることから。
・ 意見や反応を知ることから。
・ 産学官連携に関心あり。
・ 1回だけの参加でしたが、大変参考になりました。ありがとうございました。
・ 先生のお話がわかりやすかった為。とても勉強になりました！
・ 多様な課題を選別せずに。都合により。
・ 参加すると必ず何か学びがあるから。
・ 大学の先生のお話も聞けるから。
・ 1回目も2回目も大変参考になる内容だったので参加したい。
・ 自宅から近いし、知識をふやしたいと思いまして。
・ 系統だった講義が受けられる。
・ 知識等は本やテレビでも得られるが“出向いて聴く”ということに意味を感じるから。
・ テーマが身近で興味関心が湧いた。
・ 知識を深めることができる。特に体系的知識。
・ 職員の対応が良い。
・ 高齢期を楽しく知的にいくため。
・ 今後の人生に役立つ情報を得ることができたこと。
・ 自分が学ぶことで社会地域にもっと関わること。
・ 常に学び続けることが大切だと感じているので。
・ 興味あることを学ぶのは楽しいから。
・ 興味があるテーマのため。
・ 地域社会の生き方を知りたいため。
・ 様々な講座に出て、自分を磨いているから。
・ 専門家の話が聞けるから。
・ 毎回勉強になりありがとうございます。
・ すべて勉強になるから！

・ 内容がいいので。
・ 皆さんが真剣に受講している。内容が深い。
・ 学びにとって有益なため。
・ 広く学びたい。
・ 現在の情報を知ることができる。いろんな分野のニーズを学べる。県の取り組みを知ることができ良かったです。
・ 楽しい講義だったから。タメになったから。
・ とても勉強になった。生活ですぐ使える内容だった。
・ 無料で大学の先生方の話が聞けるから。コーヒー等飲みながら自由な雰囲気だから。
・ 内容が増々よくなってきました。
・ 知識を得る喜びがあるし、それを生活に役立てることが喜び、又、生きがいにもつながる。
・ 新しい学びがあったため。
・ 知識・技術を高めるため。
・ 会場の条件が良いですし、学ぶことが多くてうれしいです！
・ 学びの分野を限定していません。日程があれば参加したい。
・ 自分自身の知識・教養を深めたい。
・ 有意義でした。たくさんの知識も知ることができ、自分を振り返るきっかけをいただきました。自身の今いるところが知れ視野が広がりました。
・ 学びたいものがあれば
・ ユーモアがあり、話題に学びがあるため。
・ すべて自分の勉強になるから。
・ 無料で専門知識を学べるため。
・ 地域社会で役立てるように若者の思考と調和を大切に学びたいと思います。（特にこどもたちのために）
・ 知識、技術を高めたいので自分の仕事に関わる分野があれば。
・ 情報がふえる。
・ 視点を求めているので。
・ 立地条件も良く、内容の充実さ、受講無料と、とても条件が揃っていますので次回も是非！
・ 次回はリニアコライダーについて考えたい。
・ たのしい。

○ご意見をお書きください（大学で開講してほしい講座などがありましたらお書きください）。

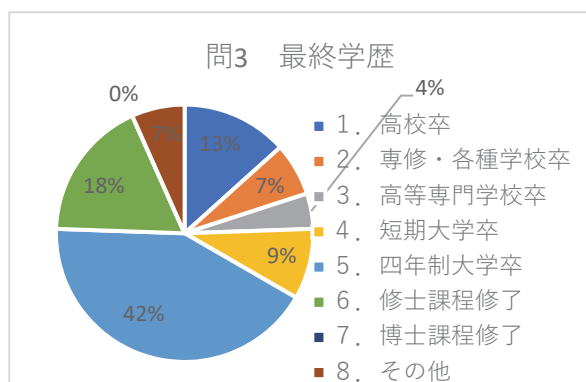
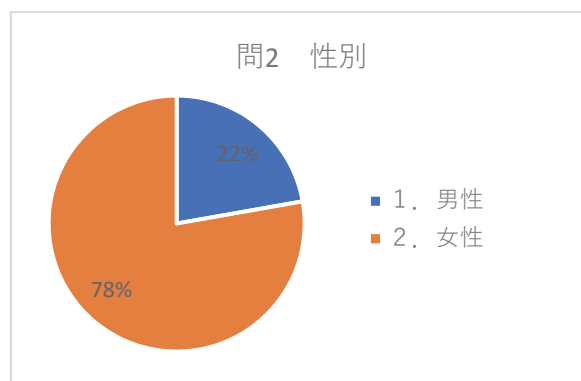
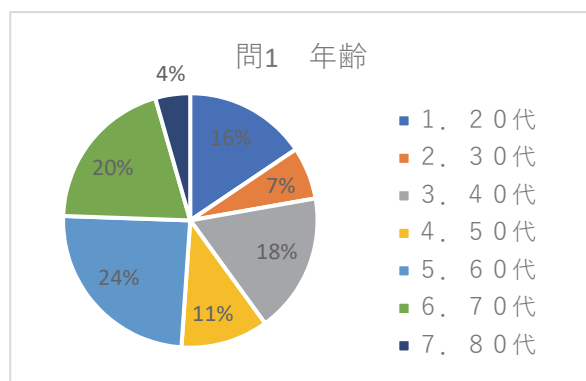
・韓国は、中学・高校などで「徹底的な抗日教育」を現在も継続されていると報道されています。今後の「韓日関係」の actual な様々な視点を紹介して頂いて、大変興味深かったです。ありがとうございました。
・金先生の授業はおもしろおかしくそれでいてたいへん“まじめ”な講義でした。お体に留意され、これからも活躍をしてください。本日は有難うございました。
・社会問題になっている事に関して（1. 住宅の空家について、2. 年金問題について（働けるうちにといい、年金受給しながら仕事すると年金を大幅に減らされる）、3. 土地に関して（土地は市街化調整区域とか場所によって違います。どういう理由で分けられるのか？）、4. 体の血管を強くする方法）
・何でも開講するものには極力参加したいです。
・大学の研究をわかりやすく紹介するレクチャー。
・高齢化を迎えて、高齢者自身が地域で活動できる方法を実例を中心に紹介してほしい。
・高齢者のライフデザイン（学習）の中に「生年後見人制度の活用」など取り入れてほしい。
・AI、IoT の今後。
・石橋先生、わかりやすく説明して下さりとても良かったです。
・岩手大学の歴史!!（3～4 回に分けて!!）
・社会問題になっている事について。（空家が増えている事、親からの固定資産の相続について）
・今回のように、高齢者を対象にした講話又は実技などを希望します。それは健康寿命をのばすために『知的な情報を欲している』高齢者がたくさんいるからです。岩手大学には多様な知的情報があると思いますので、公開していただきたい！（若者とか女性向けの講座などは多いが、70 代以降の高齢者向けは少ない）
・シニアに関すること、自然環境に関すること。チラシばかりでなく参加した方に何かの形で今後の講座案内をしていただければ助かります。
・今回は身近な（自分にとって）講義でしたので有意義でした！いくら知識として知っていても行動が伴わないと意味がないので実行です！を実感したいと思います。
・AI、ディープラーニング、ICT、IoT 関連。
・文学（日本・世界）講座など。
・partnership の spirit、リカレント教育の大切なことを学びました。
・公立国立大学の事実上の民営化を批判して、今日の大学のダメさかげんを明らかにすること。民間の「学ぶ力」の方が、今日は強いのでは。大学とか大学教授、学者はロクな者は居ない。岩手大学も含めて。
・岩手大学の歴史、留学生の自国の自慢話。
・将来、有望な職業はどんな職種か？また職業としての考え方などに関する講座。

・本日の「岩手県における子育て支援の取り組み」ですが、行政の取り組みを包括的に（講師と共に）資料を読むという講座が何の意図をもって開催されたのかいまいちよく解りません。行政施策についての講座は担当者のイチオシのとりくみを「なぜその取り組みが必要なのか」「市民に何をして欲しいのか」の熱を持った形で話すのでなければ、HP で知ることができますので。あと、質問時間をいつとるのかを明示してほしいです。声の大きい人の発言がより通る様な感じで若干不快です。
・岩手大学地域連携・COC 推進課のスタッフの方々いつもご苦勞様です。いつもいつも勉強になります。今後ともよろしくお願いします。
・社会人、学生、高齢者と参加者は考えられるが、シルバー対象のように思われる。日中時間があるのはシルバーかもしれない。それぞれの要望に応じつつ、異年齢交流もできるとよいのではないか。“社会人学び直し”だからいいのだろうが。奥野先生のお話、とてもよかったです。また聞きたいです。様々な視点がほしい私のような者のために岩大の人的資材を活用してもらえると助かります。
・今日の感想。話がかたすぎて理解しづらい。
・奥野先生とてもわかりやすくよかったです。とても楽しかったです。勉強になりました。
・地域で楽しく暮らしていくためのコミュニケーションの取り方など。
・質疑応答時間が確保されているとより理解が深まる。
・講義内容もそうですが、講義のスタイルもそれぞれで興味深いです。講義タイトルから想像していた講義スタイルだったりするとびっくりしますし、興味深いです。
・学ばせていただきました。大切な事をこれからの事に生かしていきたいです。ありがとうございました。
・今年度ご苦勞様でした。次年度も期待しています。スタッフの皆様健康に留意され増々のご活躍を祈っております。
・今後のご案内いただけたら幸いです。どうぞよろしくお願い致します。
・社会的な問題を個人の責任に集約していく現行のあり方に疑問を感じていましたので、時代背景の移り変わりによる「子育ての考え方」をまとめていただけたことにより、とても整理されました。「次にどうするのか？」という答えはなかなか出ませんが、まずは問題を明確にするということが出発点なのだと思います。
・社会問題になっている事（空家とか）。
・心理的な問題、トラウマ体験など。学び＝視点となって、現生活、人間関係に生かせるものの。
・自分の論、若い人の論を受け止めて主張できるから。
・老いるということ（肉体・精神・経済・・・）、岩大の人は何を研究しているのか、県政の歴史、個人情報とは何なのか、留学生の国・くらし、農業のこれから。

生涯学習ニーズに関するアンケート

アンケート回答数 45 名

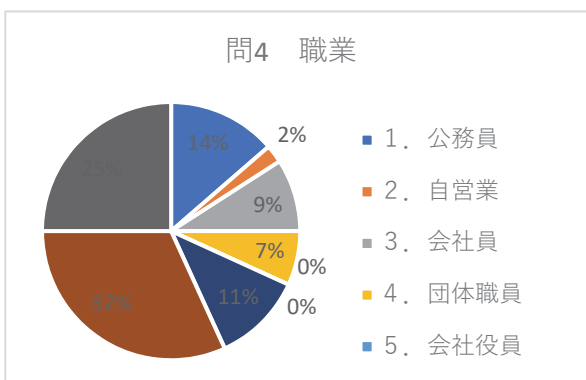
I. ご自身についてお聞きます。



■問3「その他」の記述

・四年制大学在学中

・放送大学



■問4「その他」の記述

・放送大学教養学部

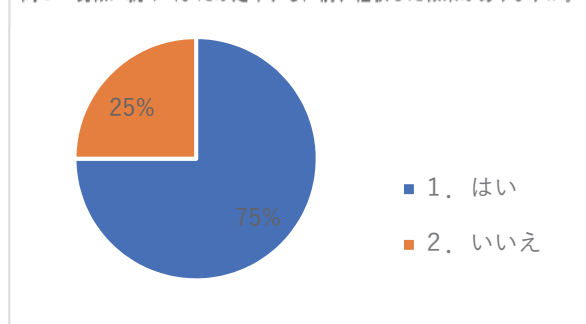
・本学在学学生（4名）

・保育士

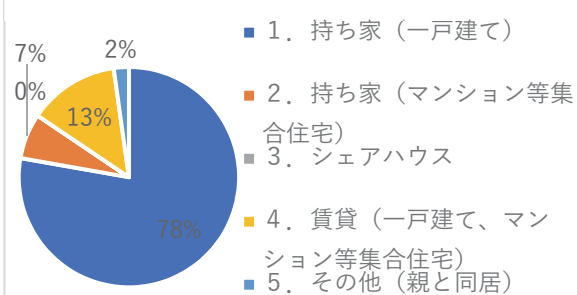
・ボランティア

・看護師

問5 現職に就く（または定年する）前、経験した職業はありますか。



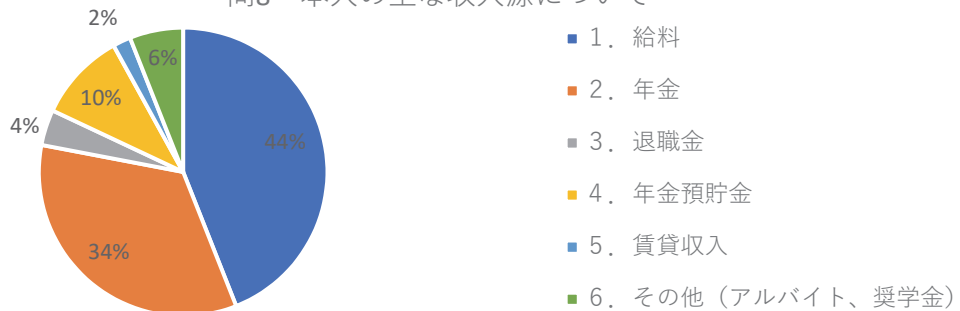
問6 お住まいに居住形態について



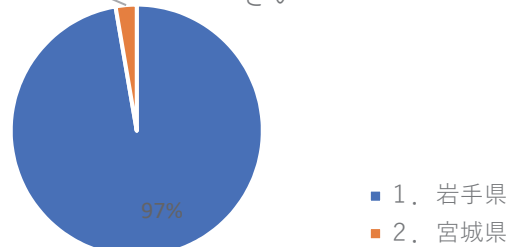
問7 家族構成



問8 本人の主な収入源について

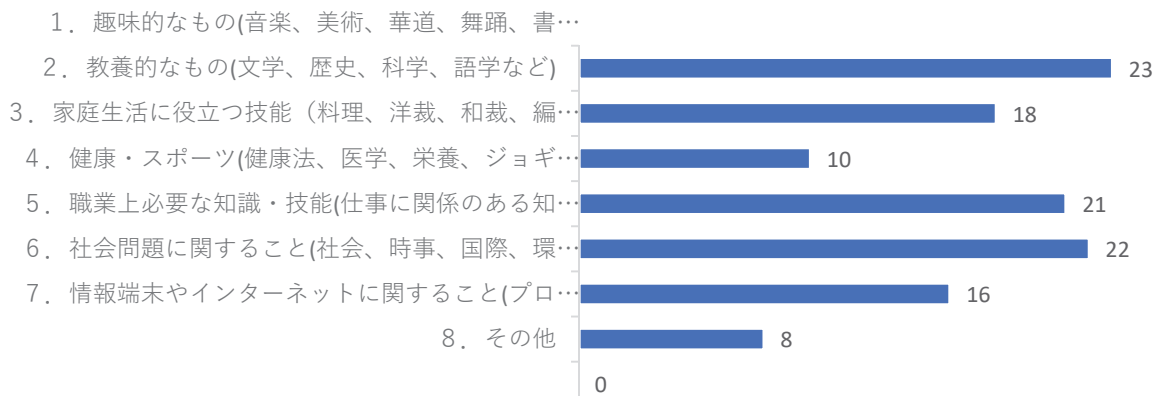


問9 住居地について教えてください

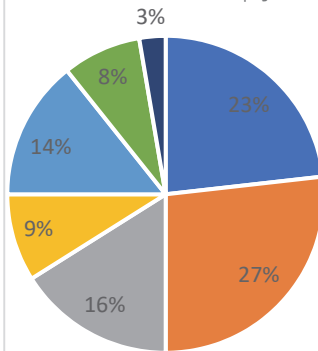


Ⅱ.生涯学習経験について

問10 今まで行った学習内容について教えてください。

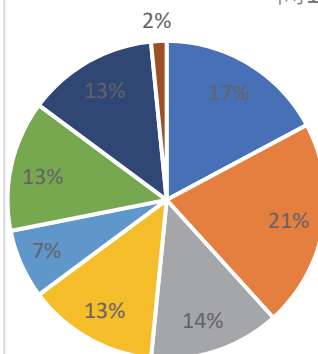


問11 学習を行う理由について教えてください。



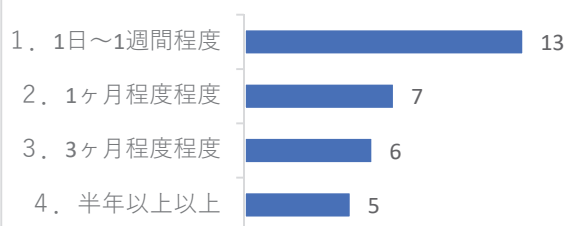
- 1. 人生を豊かにするため
- 2. 知識・技術を高めるため
- 3. 健康の維持、増進のため
- 4. 他の人との親睦を深め、友人を得るため
- 5. 家庭・日常生活に活用するため
- 6. 自由時間を有効に活用するため
- 7. その他

問12 学習を行った場所は？（当てはまるものすべてに○）



- 1. 大学で開講された公開講座・セミナー等
- 2. 公民館などの公的機関における講座や教室
- 3. 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動
- 4. カルチャーセンターやスポーツクラブなど民営の講座や教室
- 5. 通信教育
- 6. 職場の教育、研修
- 7. 自宅での学習活動（書籍など）
- 8. その他

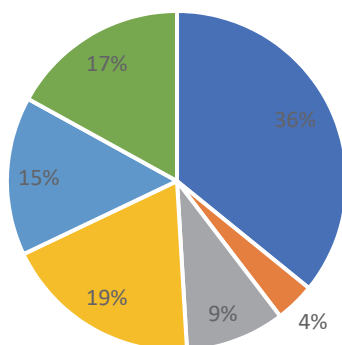
問13 直近1年間学習に参加した日数をお教えてください。



問14 参加した講習の受講料について教えてください。

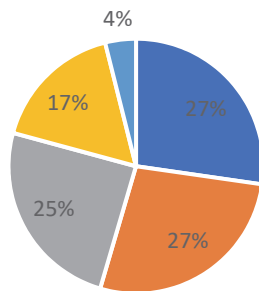


問15 参加した講習の情報はどちらから知りましたか。



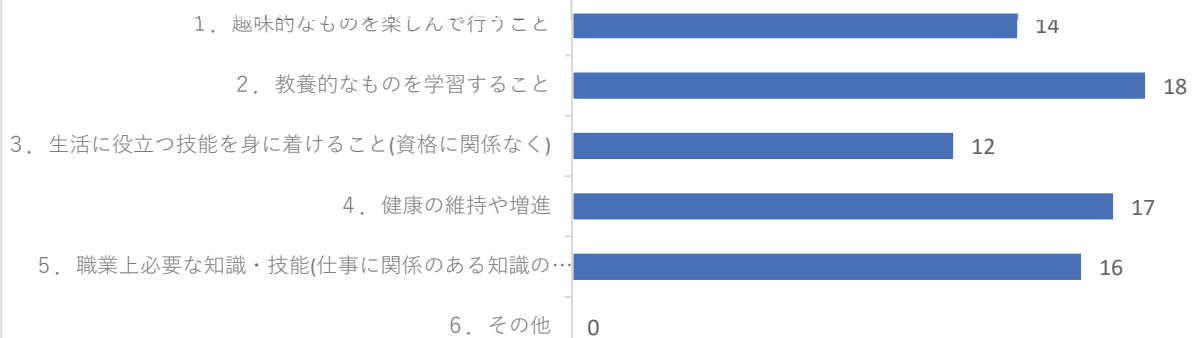
- 1. 公民館のチラシ
- 2. 大学のホームページ
- 3. 大学の掲示板
- 4. 友人・知人の紹介
- 5. 大学からの案内
- 6. その他（職場）

問16 学習活動を通じて身に付けた知識・技能や経験をどのように生かしていますか。

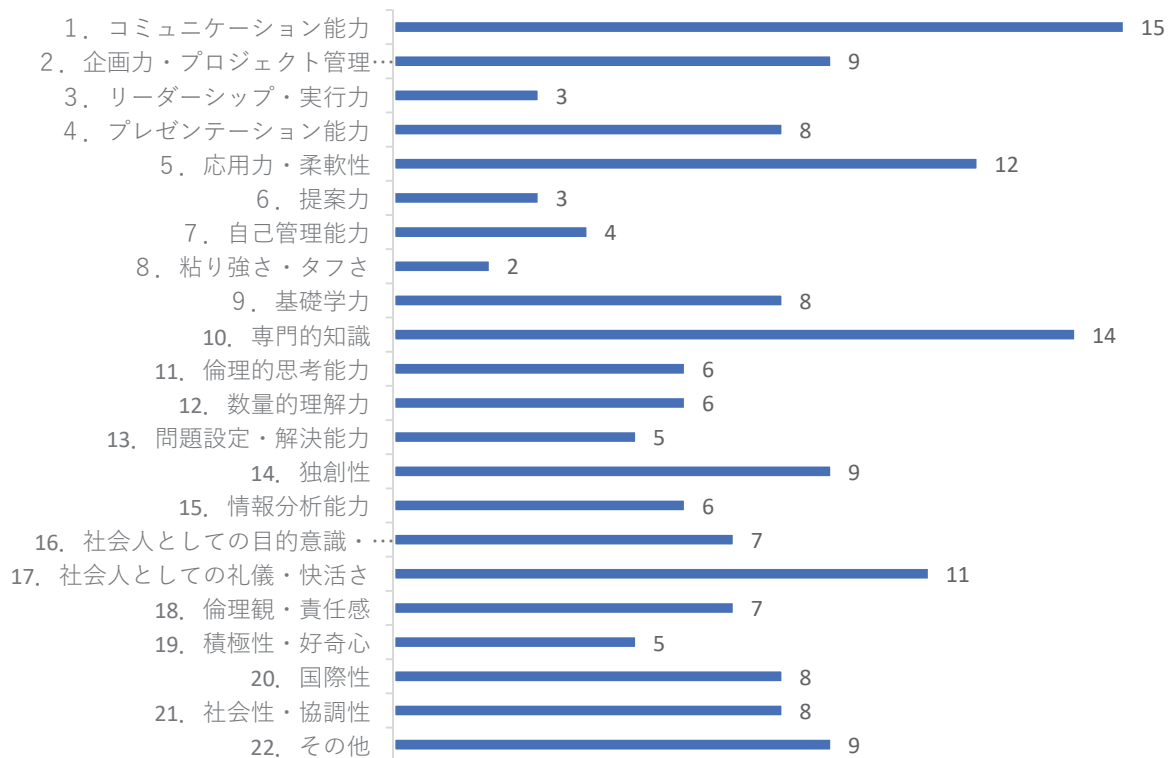


- 1. 自分の健康を維持・増進している
- 2. 家庭・日常の生活に生かしている
- 3. 仕事や就職の上で生かしている
- 4. 地域づくり活動や自治会活動に生かしている
- 5. その他

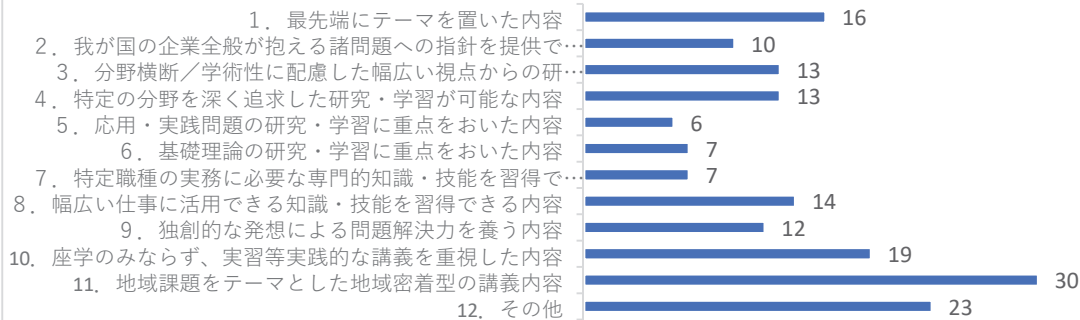
問18 学習活動を行う際、あなたが一番重視するものはなんですか。



問19 大学で学び直しをする場合、特に身に付けたい知識・技能・資質はなんですか。

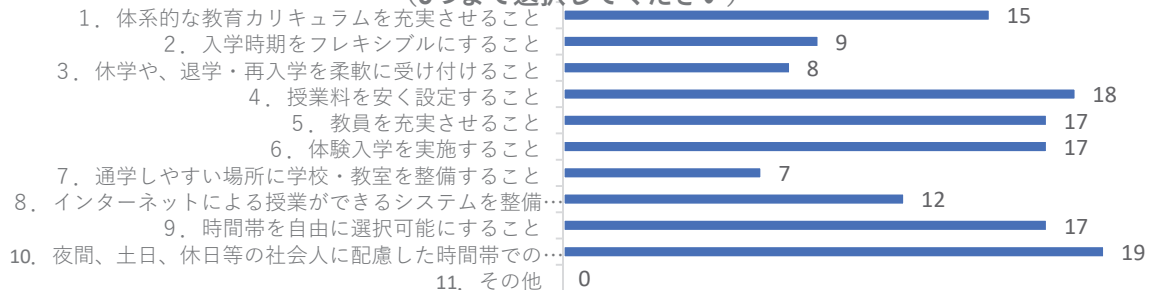


問 20 大学等で学び直しプログラムを提供する際、カリキュラムにおいて特に重視してほしい内容は何か。(5つまで選択してください)



問21 大学等において、教育環境面で特に重視してほしいことは何か。

(5つまで選択してください)

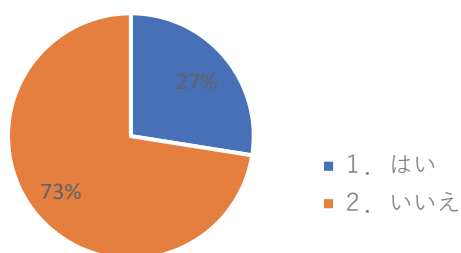


Ⅲ.岩手大学で実施しているプログラムについて

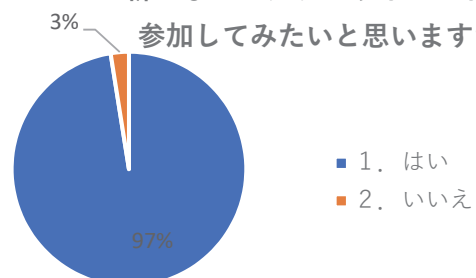
問22 本学が実施している下記のプログラムを知っていますか。
知っているプログラムがあれば教えてください。(当てはまるものすべてに○)



問23 本学で実施しているプログラムに参加したことがありますか。



問24 今後岩手大学で実施する新たなプログラムやイベントにも参加してみたいと思いますか。



○ご意見等をお書きください。

(大学で開講してほしい講座などありましたらお書きください)

・地域社会と今以上に密に接することを希望します。岩手大学の益々の発展を祈っております!!宮澤賢治の講義、地域社会とは自治体、小中高校、町内会、病院、企業など。
・科目等履修生になり2期経験しました。人文学部（般養）の「宮澤賢治の世界」などはとてもすばらしく、先生方の取り組み方が伝わり、これまで自分になかった視点をも学びました。地域の偉人について、というばかりでなく、新しい視点がほしいのが、私が生涯学習に求めるものであることです。シニアを集めるだけでない視点も必要ではないでしょうか。これからも参加させていただきます。ありがとうございました。
・いつも親切に講座の案内を送っていただき感謝しております。
・ヨハン・セバスチャン・バッハ、天体観測
・最先端の情報とか社会問題になっている事を具体的に教えてほしいです。
・マシェリ等の情報誌や広報にも掲載していたのか。見た事がない気がしますはどうでしょうか？もっと多くの人に知らせて欲しいと思います。
・大学として体系的な内容を知ることは大きな意義があるが、具体的な実践例を学内外からピックアップして紹介する機会が多くあれば大いに参考になると思う。
・ICT、AI、IOT、5Gに関するテーマ、スマートシティ、コンパクトシティ、少子高齢化、空家、空地問題及び対策。
・使用したPP等の電子ファイルをHPにアップして欲しい。
・面白い講義でした。
・櫻先生とてもわかりやすく、実践に基づくお話との、学習の大切さがうなづきました。現在私がやっているこども食堂でプラスのヒント、実践したいと思いました。
・今回は4回ともぜひ受講したかったのですが、今日以外の3回は事業や会議と重なってしまい、とても残念です。機会があれば、他の講座も参加したいと思っています。どうもありがとうございました。
・幼児、子どもについて（発達や関わり方）、日本以外（外国）の幼児教育→日本との違い。
・貴重なお話ありがとうございました。
・反抗期、思春期の子どものかかわりについて学びたいです。本日は有難うございました。

2-3 社会人学び直しシンポジウム

生涯学習部門では社会人学び直しプログラムの開発に向けて毎年、シンポジウムの開催している。シンポジウムでは岩手大学の成果を報告するとともに専門家と議論することで社会人教育の在り方について検討している。

なお、今年度開催のシンポジウムの詳細については、別冊の『社会人学び直しシンポジウム報告集Ⅱ 東アジアの大学における社会人学び直し』を参照されたい。

社会人学び直しシンポジウム報告書
目的
急速な社会変化に対応して生涯を通して社会で活躍するためには、就職するまでに身につけた知識だけではなく継続的な学習を必要とする。こうした社会状況を受け、近年、生涯学習の場として大学が注目されており、地域の知の拠点としての役割に加えて市民に開かれた学びの場としての役割が定着しつつある。こうした大学における学習を通して知識を身に着けた人々は、地域や社会が抱えている課題を解決に導く担い手としてのみならず、ひいては地域再生や地域創生の人材として活躍している。 一方、人生 100 年時代と言われているなか、東アジアの国においても少子高齢化が進んでおり、人生を豊かに生きるために学び続けることの重要性が強調されている。各国の政策の中ではその受け皿として大学の機能の拡大が求められており、学校教育を終えた成人学習者への学習支援の充実化が進んでいる。例えば、大学における社会人受け入れの拡大を進めるために、中国では社会人向けの入試制度の改革、韓国では主に社会人を対象にした教育コースの導入（既に就業している者や遅れて進学した者への教育支援）、台湾では社会人を対象に学位課程と非学位課程を提供する国立空中大学と社区大学などの取り組みが進んでいる。そこで、東アジアの諸国の政策および各大学における社会人教育への取り組みについて共有し、国際的な視点から社会人学び直しプログラムの在り方について議論を行った。
実施状況
詳細は以下の通り。 東アジアの大学における社会人学び直し 総合司会：朴 賢淑 日 時：平成 31 年 2 月 22 日（金） 13：30～17：30 場 所：岩手大学 復興祈念銀河ホール 開会の辞

基調講演

人生 100 年時代における社会人の学び直し

講演

中国高等教育における社会人受け入れの政策の動向

—現職中小学校教員の再教育を事例に—

韓国大学における社会人が学ぶための環境整備の取り組みについて

—社会人入学を中心に—

台湾高等教育における社会人受け入れの政策の動向

—地方国立大学の取り組みについて—

岩手大学における社会人学び直しプログラムへの取り組み

パネルディスカッション

社会人に魅力ある大学づくりとは？

閉会の辞

2-4 公開講座

岩手大学では地域に密着した社会貢献を目指しており、大学の研究成果を広く社会に還元するために「公開講座」を実施している。今年度の公開講座の開講においては、学内教員を対象に公募を行い、「文学」、「スポーツ」、「芸術」、「農学」、「工学」、「地域」等幅広い分野の15講座が採択された。なお、公開講座の活動報告については表4を参照されたい。

また、岩手大学における社会人対象のプログラムをより多くの地域住民に知ってもらうため、年度初めに公開講座リーフレットを作成の上、県内の公民館、教育委員会等に配布した。

公開講座リーフレット

社会人学び直しプログラム

いわてアグリフロンティアスクール
岩手大学・岩手県・JAIいわてグループの連携のもと、国際競争力のある高生産性ビジネス人材を育成するべく、産学連携・企業連携を軸に学び直しプログラムを推進しています。
＜お問合せ＞
いわてアグリフロンティアスクール運営協議会事務局
(岩手大学 農学部地域連携推進室)
TEL: 019-621-6231
HP: <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/iafs/index.html>

21世紀型ものづくり選手マスター育成事業
岩手大学では自給地・企業と連携し、食糧、繊維、複合デバイスなどの分野において、専門技術者、生産技術者、経営者までを一貫して育成できる高度技術者「選手マスター」を育成します。
＜お問合せ＞
岩手大学 理工学部 選手マスター事務局
TEL: 019-621-6412
HP: <http://www.eng.iwate-u.ac.jp/so/master/>

『エコリーダー』『防災リーダー』育成プログラム
環境問題や地域防災活動の重要性を地域、学校、職場などに伝え、その活動に参画するリーダーを育成することを目的として、『エコリーダー育成コース』と『防災リーダー育成コース』の2コースを設けています。
＜お問合せ＞
岩手大学 理工学部システム創成工学科
社会貢献・環境コース内「リーダー育成事務局」
TEL: 019-621-6447(9:00～13:00)
HP: http://www.candeliwate-u.ac.jp/Sel_SEC/

岩手大学総合科学研究科

2017年度より修士課程を統合した「総合科学研究科」がスタートしました。本研究科に新設された「地域創生専攻」は、東日本大震災以降の地域創生を促すための分野別・学際的な連携により、地域創生に貢献する分野で育成されており、長期的視点に立った地域の活性化を図る人材育成を行う分野別・学際的な専攻です。
＜お問合せ＞
岩手大学 大学院総合科学研究科 専門教育課
総合科学研究科グループ
TEL: 019-621-6603
HP: <https://www.iwate-u.ac.jp/academics/graduate/scd.html>

生涯学習部門

生涯学習部門では、多様な成人学習者の特徴を生かした生涯学習プログラムの充実化を目指しています。また、成人学習者が「学びをほどこき、編みなおす」「地域で生かす力」「学び続ける力」などを身に蓄え、地域活動やキャリア形成に役立てることによって、地域の生涯学習の振興を目指しています。

事業概要

- ◆ 公開講座
- ◆ 生涯学習基礎づくり
- ◆ 社会人学び直しプログラムの開発
- ◆ 社会教育事業
- ◆ 地域の生涯学習リーダー育成
- ◆ 地域住民の生涯学習ニーズ調査

**岩手大学
三陸復興・地域創生推進機構
生涯学習部門**

〒020-8551 岩手県盛岡市上田4丁目3-5
TEL: 019-621-6492
FAX: 019-621-6493
Mail: renkei@iwate-u.ac.jp
HP: <http://www.cord.iwate-u.ac.jp/lifelong/>

2018年度 岩手大学 公開講座

※継続の事項により開催日時等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
※各団体の募集開始は開催日の1ヶ月前を目安とします。詳しくは岩手大学三陸復興・地域創生推進機構のホームページをご確認ください。

	講座名	開催日時	対象者	募集人数	受講料	講義概要
自然観察・放鳥体験	フィールドセミナー 春の植物観察会	2018年3月3日(日) 10:00～12:30	市民一般	15人	無料	滝沢湖湖畔で不伐の森を散策し、樹木を観察し、樹木管理についての講話を通して、理解を深めていただきます。
	哲学者 内山 節氏を巡る 第13回「哲者の森」	2018年3月18日(土)～19日(日) 18日/13:30～17:00 19日/8:30～12:00	市民一般 (高校生以上)	30人	無料	滝沢湖湖畔に哲学者内山節氏をお迎えし、森の中でこれからの社会や環境づくりのあり方などについて講話をいただくとともに、森林散策・自然観察の機会を設けます。森に生息する生き物を探します。
	牧場体験「子牛の誕生？トラクタに乗ろう」	2018年3月22日(土)～23日(日) 22日/13:00～23日/13:30	小学生以上の親子	25人	1,100円	岩手大学畜産科牧場にて、牛の分娩を観察、農機具を体験し、農業への理解、関心を持っていただきます。
	フィールドセミナー 秋の植物観察会	2018年3月30日(日) 10:00～12:30	市民一般	15人	無料	滝沢湖湖畔で、樹木観察や不伐の森等の散策を通して秋の森の様子を観察していただき、理解を深めていただきます。
	フィールドセミナー ワッチングペンギンをしてながら親子で楽しむ秋の森	2018年11月11日(日) 9:30～12:30	市民一般	20人	無料	滝沢湖湖畔でウォッチングペンギンをしてながら森の樹木、草木、虫、鳥などを観察するツアーを開催し、秋の森の様子、生き物の変化について理解を深めていただきます。
農学	かんじきをはいて雪の森を歩こう	2018年2月17日(日) 13:00～15:30	市民一般	20人	無料	かんじきをはいて冬の滝沢湖湖畔を散策し、自然観察・アマルトラップなどを行います。冬の自然と関わり合いを通して、森林保全に関わる理解の深化を図ります。
	フィールドセミナー 春をむかえる森をみる	2018年3月24日(日) 9:30～12:00	市民一般	20人	無料	滝沢湖湖畔で冬越しした森の生き物の様子を観察し、春を迎える森の様子、生き物の変化について理解を深めていただきます。
	半日版学生体験 一般医学科はどんな勉強をするところ？	2018年6月～7月の土曜日 第3回6月10日予定 13:00～16:00	中・高校生	100人	無料	基礎系、臨床系、応用系の科目の講義を体験し、中医学にもわかりやすく説明します。また、実習の講義を体験していただくことで、目標にすることの出来ない動物実験や研究技術などについて、ワークシートで説明します。
	岩大5学科(植物生命科学科・応用生物化学科・森林科学科・食料生産環境科学科・動物科学科)の連携講座	2018年3月30日(土) 13:00～17:00	高校生および 高校教員	80人	100円 (保険料)	本講座を通じて、教科書では得られない実験・実習の面白さや、農学への興味を高めようとする目的で、それぞれの進路の参考になることを目指します。
	岩大スポーツアカデミー 2018 コーナーのためのサッカーC	2018年7月～9月 9:00～18:00	18歳以上 (高校生不可)	30人	12,000円 (参加費、教材費) 7,000円 (別途送料、教材費)	サッカーの指導と小学生の指導を両方行うという目的に、サッカーの技術・指導法、その指導法に必要となる幅広い情報を提供し、指導の向上を目指して開催するものです。また、本講座修了・資格認定書に合格し所定の手続きを経た方には、岩手大学サッカー部員、岩手大学サッカー部員(仮称「岩手大学サッカー部」)の資格を与えるものとします。
スポーツ	岩大スポーツアカデミー 2018 コーナーのためのサッカーD	2018年2月を予定 9:00～18:00	小学生以上 ～6年生	30人	無料	バドミントンやバレー、ソフトテニスや卓球など、レクリエーションの目的に、岩手大学サッカー部員、岩手大学サッカー部員(仮称「岩手大学サッカー部」)の資格を与えるものとします。
	岩大スポーツアカデミー 2018 少年少女のためのバスケボール	2018年3月1日～3日 1日/17:00～18:00 2,3日/15:00～18:00	小学生以上 ～6年生	30人	無料	バスケボールを愛し、学びたい少年少女に対し、レクリエーションの目的に、岩手大学サッカー部員、岩手大学サッカー部員(仮称「岩手大学サッカー部」)の資格を与えるものとします。
地域	岩大スポーツアカデミー 2018 少年少女のための卓球競技	2018年1月～2月中旬を予定 9:30～12:00	小学生以上 ～6年生	100人	無料	卓球競技を愛し、学びたい少年少女に対し、基本技術の習得とモチベーションの向上について、レクリエーションの目的に、岩手大学サッカー部員、岩手大学サッカー部員(仮称「岩手大学サッカー部」)の資格を与えるものとします。
	地域政策入門 一生活と経済・環境―	2018年7月28日(土) 13:30～16:30	高校生、市民一般	50人	無料	新設した地域政策課程での教育内容の一端を紹介し、広く本講座を知っていただくことを目的として開催します。本年度も地域政策に関するテーマを設定し、経済・経営・環境の3分野から知識を伝えます。
理工学	あなたは下付(コ)？それとも解(ワ)わび？ ―DNA鑑定を用いた実験講座―	2018年3月の第1(日)を予定 10:00～17:00	市民一般 (高校生以上)	8人	無料	ヒトのDNAを解析し、その結果を遺伝的に決まっています。PCR-IFP(ポリメラーゼ連鎖反応-制限酵素断片長多型)分析といふDNA鑑定により、アルゴリズムを用いることなく、短いDNA片断から、そのDNAの長さを決定します。本プログラムでは、参加者のDNAの長さのPCR-IFP分析を通して、生命科学の基礎技術がどのように活用されているかを体験していただきます。
	ニワトリを用いた研究は、ライフサイエンスにどのような貢献をしてくるか(ニワトリ細胞培養の観察会)	2018年3月25日(土)予定 11:00～12:30 予定	市民一般	30人	無料	ニワトリを用いた研究の歴史を解説した後、主に基礎的分野に焦点を当て、最新の研究成果をわかりやすく説明します。また、実際にニワトリ、ニワトリ細胞の観察を行います。本講座は大館市カメリアホールを会場に、子供から大人まで幅広い層を対象に開催します。

表 4 平成 30 年度公開講座一覧

NO.	講座名	担当教員	報告資料 番号
1	フィールドセミナー ―春の植物観察会―	農学部 附属寒冷 FSC 滝沢演 習林 准教授 山本信次 技術専門職員 麻生 臣太郎	2-4-1
2	第 23 回農学部 5 学科「植物生命科学科」「応用 生物化学科」「森林科学科」「食料生産環境学科」 「動物科学科」の実験講座	農学部 森林科学科 教授 立川史郎	2-4-2
3	地域政策入門 ―生活と経済・環境―	人文社会科学部 地 域政策課程 教授 開龍美 准教授 藤本幸二 准教授 佐藤一光 准教授 塚本善弘	2-4-3
4	岩手大学スポーツアカデミー 2018 コーチのためのサッカーC	教育学部 保健体育学科 教授 鎌田安久	2-4-4
5	岩手大学スポーツアカデミー 2018 少年少女のためのバスケットボール	人文社会科学部 人間文化課程 教授 栗林徹	2-4-5
6	哲学者 内山 節 氏を迎えての第 13 回「哲学 の森」	農学部 附属寒冷 FSC 滝沢演 習林 准教授 山本信次	2-4-6
7	ニワトリ胚を用いた研究は、ライフサイエンス にどのような貢献をしてきたか（+ニワトリ初 期胚の観察会）	理工学部 化学・生命理工学科 准教授 荒木功人	2-4-7
8	御明神牧場体験 「子牛の誕生？トラクタに乗 ろう」	農学部附属寒冷 FSC 御明神牧場 技術室長 千田広幸、 技術専門職員 佐々 木修、佐々木修一、桃	2-4-8

		田優子、技術職員 田尻和之、助教 平田統一、主査 小野寺昭好	
9	あなたは下戸(げこ)?それとも蟒蛇(うわばみ)? ～DNA 鑑定を用いた実験教室～	理工学部 化学・生命理工学科 准教授 荒木功人	2-4-9
10	フィールドセミナー ーウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ 秋の森ー	農学部附属寒冷 FSC 滝沢演習林技術職員 菅原大輔、技術専門 職員 渡邊篤、 准教授 山本信次	2-4-10
11	岩手大学スポーツアカデミー 2018 少年少女のための陸上競技	教育学部 保健体育学科 教授 上濱龍也 教授 清水茂幸	2-4-11
12	中高生のための獣医学生体験	農学部 共同獣医学科 教授 高橋透	2-4-12
13	岩手大学スポーツアカデミー 2018 コーチのためのサッカーD	教育学部 保健体育学科 教授 鎌田安久	2-4-13
14	かんじきをはいて冬の森を歩こう	農学部 附属寒冷 FSC 滝沢演 習林 准教授 山本信次	2-4-14
15	フィールドセミナー ー春をむかえる森をみるー	農学部 附属寒冷 FSC 滝沢演 習林 准教授 山本信次	

成果報告書

記録者氏名：農学部 附属寒冷FSC滝沢演習林 山本信次 麻生臣太郎

事業名：フィールドセミナー春の植物観察会ー

目 的

滝沢演習林にて開葉期を迎えた樹木、草本の観察を通じ、一般社会人・児童向けの環境教育を行う。

活動実績

日 時：平成30年6月3日（日）10:00～12:30

場 所：滝沢演習林

講 師：伊藤勲氏

参加人数：15人

滝沢演習林でのフィールドセミナー本年度第1回目となる春の植物観察会が、伊藤勲氏を講師として6月3日に行われた。当日は快晴で天候に恵まれたが6月にしては気温が高く、参加者には水分補給や帽子の着用を促し熱中症対策を万全にして参加してもらった。

本観察会は不抜の森を抜け8-6林班の境界を移動し、山頂の石標で休憩した後に7-8林班境界から8林班の土場を経由して事務所前の林道を戻るルートにて行われた。伊藤氏は事前に採取しておいた数種のカエデについての違いを出発前に一通り説明して参加者の関心を引き付けた。その後、観察ルート上で見られる樹木や植物について和名と方言での呼び名や名前の由来などが説明された。樹木は木材としての用途などの他に、山菜としての利用方法等が分かり易く説明された。またうるし等の意外な植物について食用に適すかなど伊藤氏独自の視点からの解説もあり、参加者は大いに盛り上がった。

今回も定数いっぱい15名の参加となった。年配の方から30～40代、高校生と児童の姉弟など幅広い年代の参加となった。植物に関心の高い方が多く、予備知識が豊富な参加者もいたため伊藤氏の説明に多く質問が寄せられた。また伊藤氏の説明に皆が聞き入るため、林内の移動がスムーズで多くの植物を観察することができた。非常に充実した観察会となり参加者からは好評であった。



成果報告書	
記録者氏名：農学部 森林科学科 立川史郎	
事業名：第 23 回農学部 5 学科「植物生命科学科」「応用生物化学科」「森林科学科」「食料生産環境学科」「動物科学科」の実験講座	
目 的 本公開講座は、5 学科体制で開催する実験・実習講座である。これまでに踏襲し、主として岩手県内の高校生や理科教育に携わる教員の方々を対象に、実験・実習を中心に進めている。内容は、5 学科で活躍している教員（平成 30 年度は社会科学系分野も含む。）を講師として、現在進めている研究の内容等をわかりやすく説明する。その後、参加者は希望のコースに分かれ、ティーチングアシスタント（TA）の学生の指導のもと、実際に実験材料に手で触れ実験やフィールドでの実習等を体験する。本講座を通じて、教科書では得られない実験・実習の面白さや、農学への興味と関心をもってもらおうと同時に、それぞれの進路の参考になることを期待する。	
活動実績 本講座は、主として岩手県内の高校生を中心とした若い世代や理科教育に携わる教員の方々を対象とする、実験を中心とした公開講座です。平成 8 年度に農学部 4 学科の『実験講座』としてスタートし、一昨年度の学部改組に伴い「農学部 5 学科の実験講座」として継続し、今年度で通算 23 回目を迎えました。今年度は高校生 75 名、高校教員 2 名の計 77 名参加した。特に女子生徒さんが 56 名と多く参加した。 当日は、5 つの学科で活躍している教員に講師をお願いし、現在進めている研究テーマや各分野における基本的な実験手法等をわかりやすく紹介してもらった。また、今回参加いただいた 77 名の方々には、あらかじめ下記の 8 つのテーマから選択した希望のコースに分かれていただき、ティーチングアシスタントの学生さんの協力も得ながら、講師の先生の指導のもとで実際に実験や演習を行い、またテーマによっては学外のフィールド調査を体験し、最先端の研究内容を身近に触れてもらった。 実施したコースは次の 8 つでした。 コース① 「PCR 法で植物の DNA の違いを調べてみよう」 コース② 「見たら分かる！食べて納得！おコメの科学」 コース③ 「DNA と遺伝子検査について学ぼう」 コース④ 「地球の生命を支える土壌－土壌微生物と土壌動物の役割について－」 コース⑤ 「育つ明るさの違いで木の葉っぱがどう変わるかを調べよう」 コース⑥ 「食と農の戦略を考える－SWOT 分析を使ってみよう－」 コース⑦ 「盛岡のまちの成り立ちと景観」 コース⑧ 「動物からの贈り物を科学する～動物の筋肉を比べてみよう、牛乳をチーズに変えてみよう～」	

今後の課題

- ・コースによって参加を希望する高校生の数に大きなバラつきがあり、全員を希望通りのコースに振り分けることができなかった。そのため、1名が希望通りのコースでなかったとしてキャンセルした。
- ・コース名は異なっても実際の実験内容は似ているコースがあった。
- ・上記2点から、コース決定の時点で学科間の内容のすり合わせをしていく等のコミュニケーションをより密に取っていく必要があると思われる。

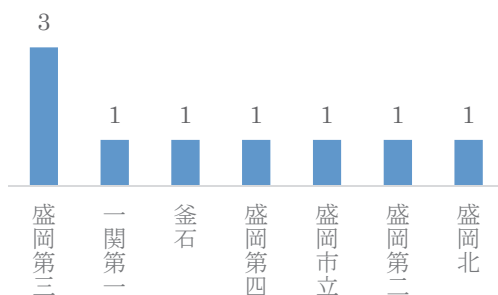


アンケート調査結果

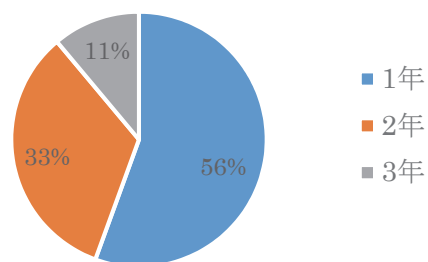
コース①「PCR 法で植物の DNA の違いを調べて見よう」

川原田 泰之 助教（植物生命科学科）

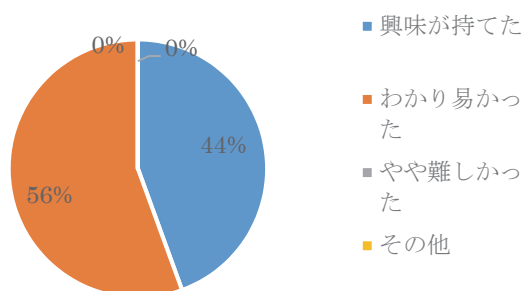
1. 高校別



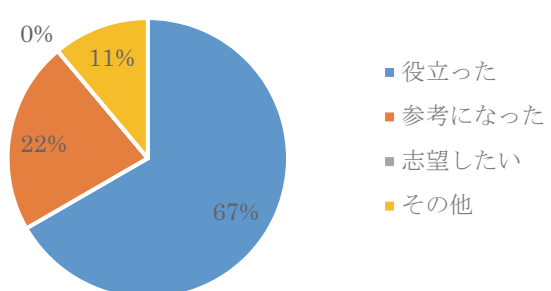
2. 学年別



3. 内容の理解・興味



4. 進路決定に役立ったか

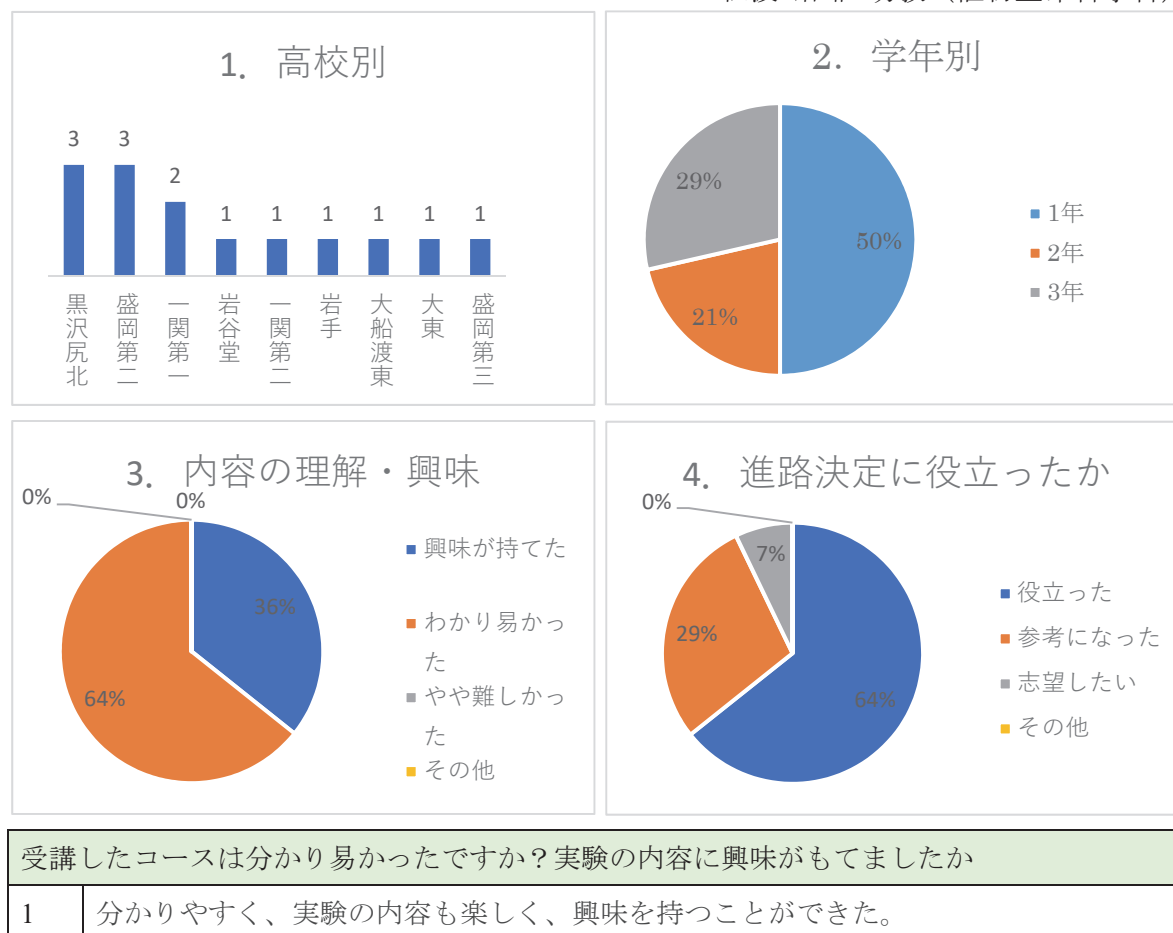


受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がありましたか	
1	とてもわかりやすく、先生も優しく教えてくれたのでたのしかった。実験もわかりやすく教えてもらえた。
2	PCR 法のことがよくわかりました。とてもわかりやすかったです。
3	PCR 法を実際に行ったのは初めてだったので、とてもおもしろかった。なかなか自宅ではできない実験だったので、この体験を大切にしたい。
4	ピペットマンや遠心機などの道具を初めて使うことができたので楽しかった。
5	とても分かり易かった。実験の手順や内容、目的等も細かく説明していただけて、とても勉強になったし、おもしろかった。
6	実験楽しかった。結果見るのが楽しみ。
7	器具の使い方の練習から始められ、実験もやりやすかった。スライドでの説明や実際に機械を見せていただき、面白かった。
8	電気泳動を読み取ることが難しかったですが、ピペットマンを使って計測し、破砕機や遠心機などの今まで見ることもふれることもできないものを知って興味が持てました。
9	生物を受けていない僕でも、とても分かりやすい内容だった。
今回の公開講座は将来の進路決定に役立ちましたか？	
1	自分の考えていた学科ではないが、とても興味がひかれたため、ためになる講座だと思った。
2	とても内容がこく、もっと知りたいと思いました。将来にすすみたい分野がふえました。
3	はい。
4	進路決定にはあまり関係なかった。
5	新しい分野に興味を持つことができた。進路の選択肢が増えて良かった。
6	文系に行くか理系に行くかまよっていたし、将来の夢とかもあまり考えていなかったけど、今回の講座を受けて、理系に行って実験もいいなと思った。
7	理工学や農学にもともと興味があり、さらに興味が深まった。
8	まだ進路を深く考えていませんが、動物を使った実験が苦手な私には植物系の実験が合っているなと思いました。
9	農学部もいいなと思うことができた。
今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	PCR 法は教科書では知っていたが、実際にはやった事がなかったのでとてもためになったし、大学の授業の感じも少しわかった。高校とはまた違ったのしかった。

2	初めは理解できないと思っていましたが、参加してみて分かることもあったのでよかったです。テーマを見てもよくわからなかったけど参加して分かりました。
3	久しぶりにまだ行ったことのない実験ができたので楽しかった。植物だけでなく、動物でも行ってみたい。
4	DNA について、この実験講座をうける前よりもくわしくすることができた。
5	高校ではふれる事のない DNA の事について、実験ができてとても良かった。
6	PCR 法とか最初をよく分らなかったけど、まあ分かったからよかった。いろんな機械とか使って、実験できたから楽しかった。
7	植物科学のコースだったが、DNA を調べる方法を実際にやってみて楽しかった。
8	今回の講座に参加して、「PCR」という言葉を知らなかったのですが、DNA を増幅できることを知り、この「PCR 法」が広まってからどんな実験などが行われているか調べてみたいです。
9	普通に楽しかった。

コース②「見たら分かる！食べて納得！おコメの科学」

松波 麻耶 助教（植物生命科学科）



2	ヨウ素デンプン反応は中学校以来本格的に扱えたので興味をもてた。24h 暗黒化に置いただけでデンプンの合成量に大きな違いが出るのはとても驚いたし、植物の体内の活動は循環が早く効率よく行われていると分かった。生物の授業で学んだことを復習できたし、体を動かしたのでより頭に入った。植物の代謝に強い興味を持った。
3	ヨウ素デンプン反応や光合成など、知っていることを利用した実験だったため、自然と興味を持った。はっきりと結果が分かる実験だったので分かり易かった。
4	自身の家がコメ農家でコメについて興味があつてきたため、仕組みがわかってよかった。コメの見分けや、出来る仕組み、デンプンの含有量と日光（日照量）の関係がわかりやすかったし、もっと深く学習したいと思った。（コメの品種、海外種について、研究したいという希望有）
5	実験をたくさん行って、聞くものよりもはるかに多くの知識が得られました。大学生のみなさんも各班について下さって、とても楽しく分かり易かったです。お米の見分け方や、デンプンの要素等を調べてみて、今まで知らなかった品種やお米のしくみについて知ることができました。
6	内容をかみくだいて教えていただいたので、とても分かりやすかったです。実験も楽しくて、とてもおもしろかったです。
7	とても分かり易く、1人1つ植物をとるときに大学で育てているイネの様子も見れて、イネでも育ち方が全然違うということが見れて、イネに関することに興味をもちました。
8	外に出たり、食べたり、実験したり、目や口色々な所で感じる事ができて分かり易くて、面白かったです。私は物理を選択しているので、生物分野の理解が浅いのもっと知りたいと思いました。
9	おもしろかったし、分かりやすかった。食べたり、実験したり家や学校であまりできないことが体験できた。大学でやっている研究についても知ることができた。
10	先生たちが、分かり易く教えてくれたので、円滑に実験を進めることができた。実験をして、さらに米について興味を持てた。
11	難しい内容も少しあったけど、分かりやすく楽しい実験で興味をもつことができた。
12	分かりやすかった。米の品種の見分け方や、イネ A・B の違いなど、実験がたくさんできてとても楽しくできました。
13	とても分かりやすかった。実際に実験をして自分の目で見たり食べたりと五感を使ってたしかめることができた。
14	分かり易かったです。私は食べるのが好きで、お米が大好きで、食べくらべができてとてもうれしかったです。
今回の公開講座は将来の進路決定に役立ちましたか？	
1	今回の講座を聞いて、さらに進学への希望が高まった。今日からの勉強への糧になりま

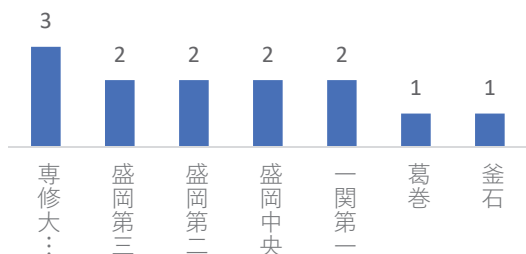
	した。
2	役立った。今回は植物を中心に学んだが、少し物足りなさを感じた。私は部でセンチュウという動物を取り扱った研究を行っているので、おそらく動物要素があまりなかったからだと思った。動物と植物の関係を取り扱っている研究をしたいと思った。
3	コメにも多くの品種があると知り、コメの仕事に関わりたいと思った。コメを自分で育てていこうという思いが強くなった。
4	岩手大学農学部に入りたいという気持ちが強くなった。これからの進路対策の気持ちの部分で、ポテンシャルとしておさえておきたいと思う。何かをくわしく学べるという環境は自分の理想だからこそ、進路決定を目指して頑張りたいと思う。
5	はい。元々獣医師を目指しており、動物に興味があったのですが、生物も好きなので植物化学などにも興味がありました。今回、このコースを受講してその分野についての理解を深めることができてのでよかったです。
6	大学の雰囲気や授業を肌で感じることができとても役に立ちました。
7	はい。
8	役に立つと思います。さらに興味をもつことができ、自分に足りない所、何の力をつけるべきかに気づけました。もっと観察力をつけたいです。
9	役立った。どちらかというと畜産系に進もうと思っていたけれど、イネ関連も良いなと思った。
10	とても役に立った。農学部のことについてよく分かった。
11	将来の夢がまだ決まっていないので、今後の進路に向けて考えられる講座になったと思う。
12	将来とはちがいますが、米についてはちょっと興味がでてきたので、自分でも、米についていろいろやってみたいと思いました。
13	理科系は苦手だけど、今回参加して視野が広がりました。
14	1つのことしか興味がなかったけれど、少し視野が広がりました。
今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	自分の進学希望先の科に来て良かった。絶対ここの大学にきたいという思いがさらに強くなった「百聞は一見にしかず」と言っていたように、実験をしてみて米のことをより学べた。
2	テーマがとても分かりやすかったです。講座に参加してみて、実際に実験することによってとても楽しかったし、覚えることができました。ありがとうございました。
3	実際に見たり食べたりすることで違いを感じることはできました。

4	・病虫害の観察等もやってみたい。(病害との関係について調べてみたい) ・育成法などの研究も講義として聞いてみたい。(疎植栽培や側条施肥などについて) ・12万種ある米の種類でもどの品種がどの国の人に合うのか考察を立ててみたい。
5	他校の生徒さんとも交流ができたことが、とても良かったです。同じような分野を目指している人と意見を交わすことができる機会はなかなか無いので、とても良かったです。
6	普段何気なく食べている米も、種類によって食感も味も香りも違うと知り、他の米も比べて、特徴を知りたいと思った。テーマは実験内容をそのままコンパクトにしていって何をするのかも分かりやすいので良いと思った。私はテーマが分かりやすく面白そうだと思ったので選びました。
7	普段食べているお米の種類が世界には自分が知っている種類をはるかに超える数があるんだなと思いました。大学で育てているイネの育ち具合も見れて育ち方にも差があるなと思いました。楽しかったです。ありがとうございました。
8	充実した環境でうけられて幸せでした。もっとおコメをつかった実験をしたかったなと思います。グループ分けの際は、同じ学年の子と一緒にしてくれるようにしてくれたので、とてもやりやすかったです。知っている子がいなくて不安だったので助かりました。
9	・普段食べているものも知らないことが多いなと思った。 ・お米についてもっと知ってみたいと思った。 ・他のテーマも受けてみたいと思った。
10	今回の公開講座に参加してみて、農学部についてよく知れたし、おコメの科学について理解をすることができて良い経験になった。おコメというのは毎日なにげなく食べているが品種によって見た目や色、味も違っておもしろいと思ったので、気にして食べてみようと思った。
11	米の品種についてしることができたし、おいしいごはんも食べることができてよかった。おコメの特徴に興味をもつことができた。
12	4種類のお米が食べられて良かったです。食べたことがない米だったので、貴重な体験ができました。いろんな実験ができていい経験にもなったし、楽しかったです。
13	外国の米やいろいろな種類の米を食べくらべることはなかなかないので、とても貴重な経験になった。
14	OCの時より農学部内の敷地内をゆっくり見学することができた。研究によって畑、田んぼが用意できていることから、充実した研究ができるとわかった。先輩が現在どのような研究をしているのかが分かれば、進路選択にも役に立つと思う。パンフレットだけでは分からないことはやはり体験するしかないと思った。今日は行って良かったです。

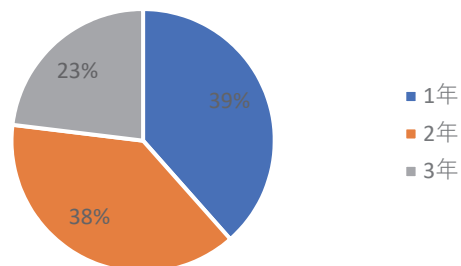
コース③「DNA と遺伝子検査について学ぼう」

斎藤 靖史 准教授（応用生物化学科）

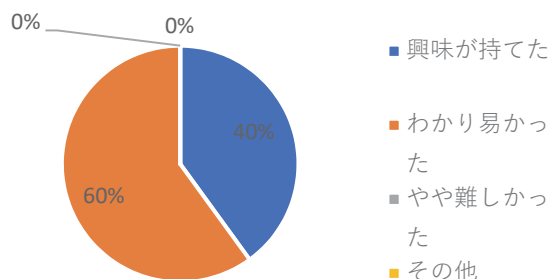
1. 高校別



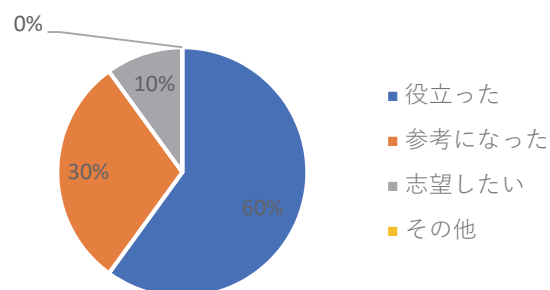
2. 学年別



3. 内容の理解・興味



4. 進路決定に役立ったか



受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか

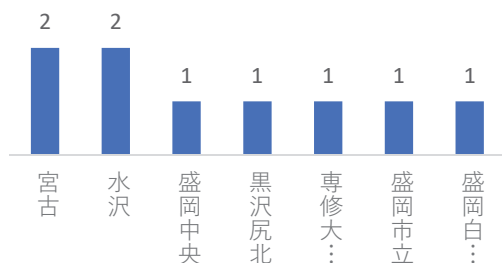
1	DNA についてもっと知りたいと思いました。
2	深い内容で面白かった。
3	説明がとても分かりやすかったです！
4	分かりやすく、楽しかったです。
5	分かりやすかったです。
6	分かりやすく、興味がもてました。
7	丁寧な説明でどのような実験をしているか、どのように実験するのかわかいました。遺伝子診断はおもしろいと思った。
8	映像や資料などをたくさん準備していただいたので、とても分かりやすかったです。クローバーの葉の数を増やすという実験が気になりました。
9	とても講義がわかりやすく、先輩のみなさんからの話もおもしろくとても良かったです。
10	とても分かりやすい説明をしていただき、DNA についての興味がとてもわきました。

今回の公開講座は将来の進路決定に役立ちましたか？	
1	このような分野もおもしろそうだった。
2	自分の進路選択のはばが広がったと思う。
3	もともと理系に進もうと思っていたのですが、さらに興味が出ました！
4	立ちました。
5	進路の参考になりました。
6	役に立ちました。
7	進路先をまだ決めていないので、これから先の進路の参考になりました。
8	役立ちました。
9	ここにきたいと思いました。とても役に立ちました。
10	とても役に立ちました。
今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	長い時間でしたが、わかりやすく楽しかったです。
2	とても楽しかったです。現代社会や未来の社会の問題に関わる難しい問題だと思った。
3	とても楽しかったです！機会があればまた参加したいと思いました！
4	初めて、DNA を調べてみて、自分のお酒の弱さなどいろんなことを知ることができておもしろかったです。
5	DNA でアルコールに強いのかどうかなどが分かって、おもしろかったです。
6	大学ではどのような実験を行うか具体的に知ることができてよかったです。テーマもとても興味をもてるもので楽しかったです。
7	遺伝子診断はとても便利ですごいと思ったが、使い方によっては危険だと知った。とてもおもしろかった！
8	今回の公開講座で、農学部での研究にとても興味をもちました。
9	自分はお酒が弱い事がわかりちょっとざんねんでしたが、そんな事気にせず飲みたいと思います。
10	今まで考えていた DNA の印象ががらっと変わり、DNA への興味がとてもわきました。

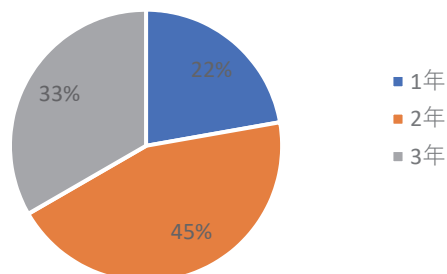
コース④「地球の生命を支える土壌－土壌微生物と土壌動物の役割について」

立石 貴浩 准教授（応用生物化学科）

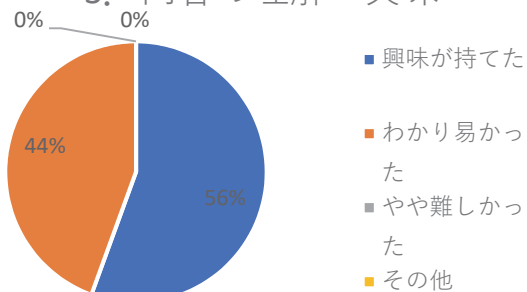
1. 高校別



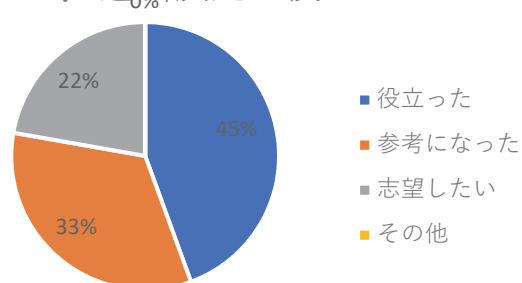
2. 学年別



3. 内容の理解・興味



4. 進路決定に役立ったか



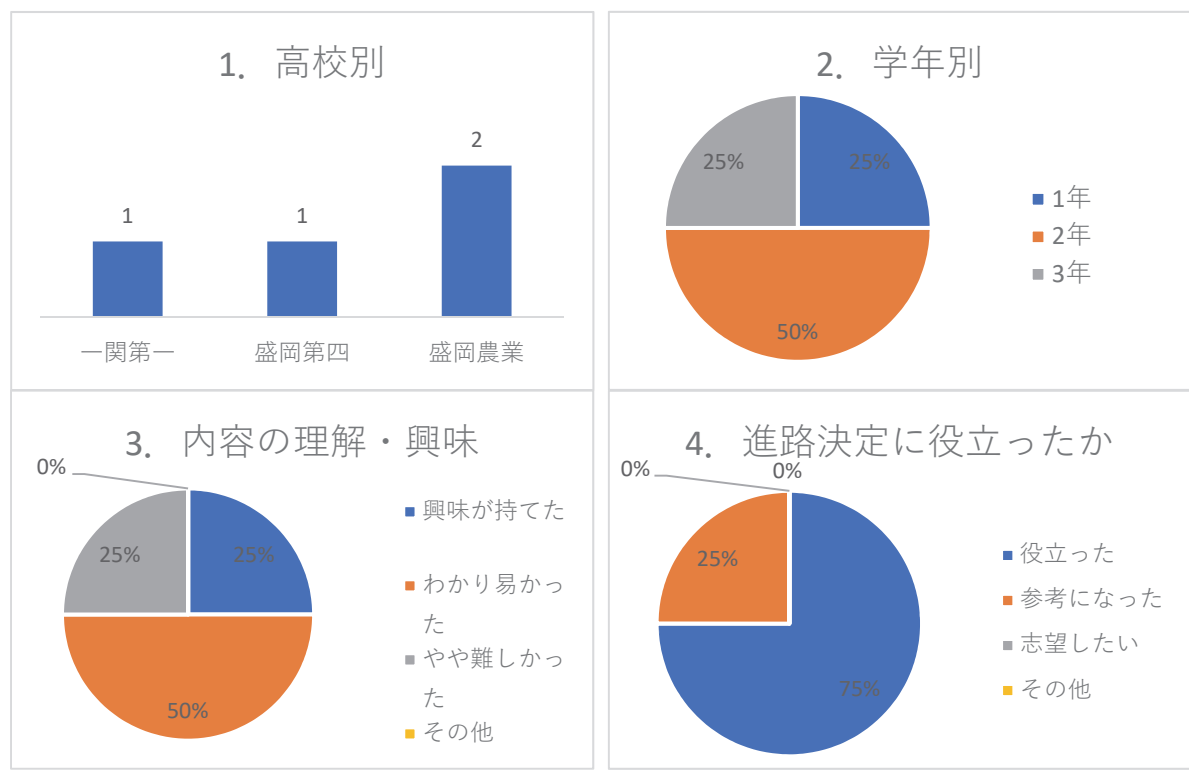
受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか

1	微生物にもともと興味があっっておもしろかったです。しかし、見つけるのに苦労しました。
2	何度もいいいに教えてくださったり、生徒の方も常に近くにいてくださったので分かりやすかったです。
3	分かりやすかった。興味を少しもてた。
4	はい。スライドや、見本を見せてくださったり、すぐできるよう対応してくださいました。
5	高校にはない器材を使い、とても分かり易く実験を行えました。
6	分かり易かった。とても興味を持つことができた。普段授業で実験をするということがほばないので、とてもいい経験だった。最近習った土壌生物のことについて深く知ることができたし、とてもおもしろかった。
7	土壌についてこのように専門的に学んだのは初めてだったので、様々な事に興味・関心を持つことができました。特に土壌の吸着能については、土が養分を吸うという現象を視覚的に見る事ができて、大変興味深かったです。
8	資料やホワイトボードに分かり易くかかれてあった。今まで土壌生物とかには興味がなかったけど、今回の実験では多少興味を持てた。
9	少し難しい内容でしたが、分かりやすく教えていただきおもしろかったです。

今回の公開講座は将来の進路決定に役立ちましたか？	
1	第一希望がここなので、やはり来たいと思いました。
2	どのような授業でどのようなことについて調べているかが分かったので進路決定に役立ちました。
3	役立った。
4	はい！元々農業系に入りたいなあと考えていたので、より強く希望したいです！
5	自分の進路についてより詳しく知りたいと思いました。とてもよい講座になり参加して良かったです。
6	とても良い参考になった。自分はまだどこに行こうかはっきりきまなくて、応用生物化学がどのようなところか見たかったけど、来て良かった。今日の体験を生かして将来を決めていきたい。
7	希望したコースではありませんでしたが、とても楽しく学べたので良かったです。今後は学んだことを生かしていきたいと思いました。
8	今回応用生物化学科の実験をやったことで、この科がどういうことをするか少しは分かったので、これから大学のどの科を選ぶうえで参考になった。
9	現在、理工学部と農学部とで迷っているので、とてもいい判断材料になりました。ありがとうございました。

コース⑤「育つ明るさの違いで木の葉っぱがどう変わるかを調べよう」

白旗 学 助教（森林科学科）

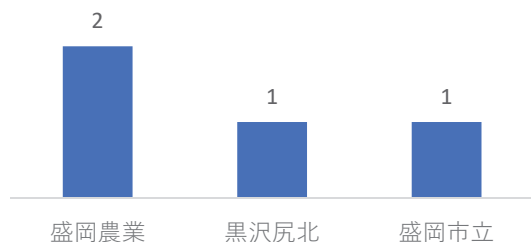


受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか	
1	とても分かり易かったです。先生や先輩たちが学科についてや研究のことも話してくれて興味がわきました。森林科学も広く扱ってるんだなと分かりました。
2	はい。本当だったらもっと難しいと思うのですが、先生や大学の方がわかりやすくフレンドリーに接していただいたので、とても楽しく学ぶ事が出来ました。
3	けっこう難しい内容で、深い内容だったので、理解するのが大変だったが、森林等の自然に関することが大好きなので面白かった。
4	光の当たり方で葉の色が変わる 1 つの要素にクロロフィルの量に関係しているということは知っていましたが、木の高さを調べるところから始め、1 つ 1 つ実際に実験を進めていくことで、すんなりと理解することができました。
今回の公開講座は将来の進路決定に役立ちましたか？	
1	第一希望だったので、とても役に立ちました。頑張りたいです。
2	はい。かなり役立ちました。
3	森林系の学部を持つ大学はあまりないので、参考になった。
4	森林科学科の中にも様々な研究室があるということが分かり、その中に私の興味のある分野がありました。
今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	とても興味が持てた。いろんな研究室についても知れたし、もともと関心があった分野だったのでより深く知れてよかったです。
2	林業の中のバイオ系統を学んでみたのですが、わかりやすくフレンドリーに接していただいたので、とても楽しかったです。
3	葉っぱ一枚で森林や成り立ち等、奥の深いものだった。
4	丁寧な説明をしていただき、自分なりに実験をすることができました。難しいことをするのはと不安でしたが、分かりやすく説明していただき、貴重な機会となりました。ありがとうございました。

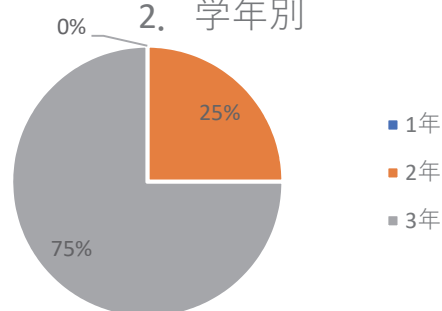
コース⑥「食と農の戦略を考える－SWOT 分析を使ってみよう－」

佐藤 和憲 教授（食料生産環境学科）

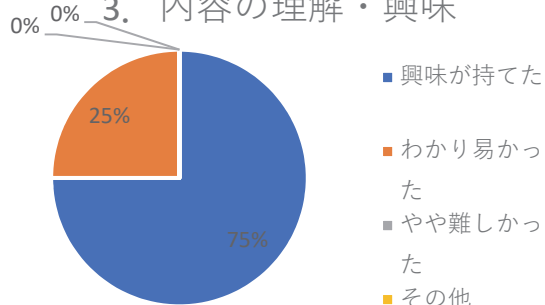
1. 高校別



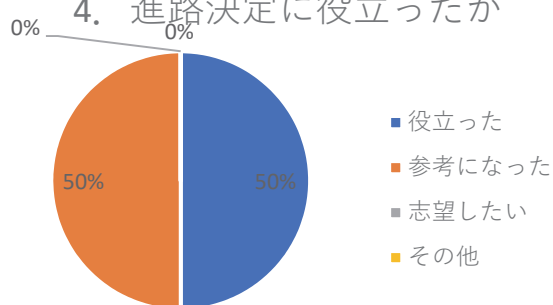
2. 学年別



3. 内容の理解・興味



4. 進路決定に役立ったか



受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか

1	果実について、問題・改善点など、自分の知らないことも学べ、関心を持てた。
2	ふせんを用いたもので、自分や他人の意見を見比べることができて、とても分かりやすかったです。とても楽しめました。
3	食と農の問題点・解決策を自分で考えることができて、すごく楽しかったです。
4	少人数のグループで意見を出してまとめるという方法がユニークで興味深かったです。

今回の公開講座は将来の進路決定に役立ちましたか？

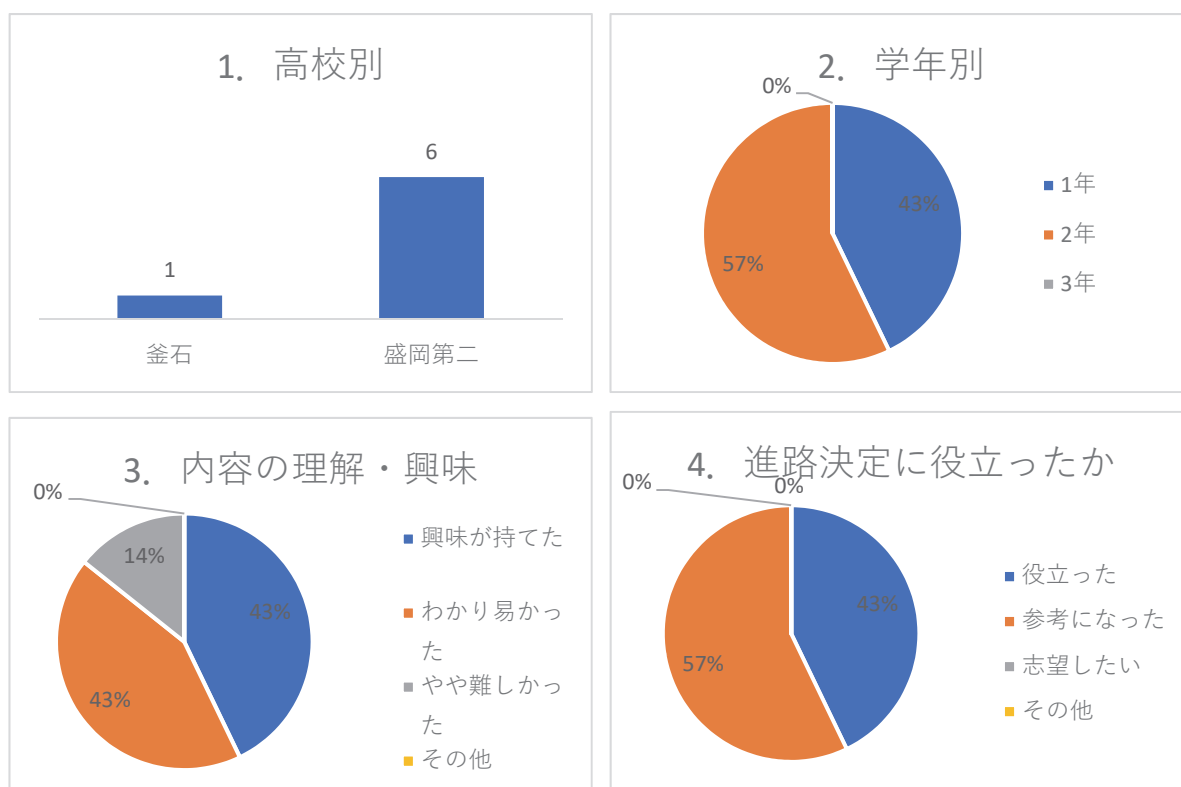
1	参考になった。動物の考えているけど、食料生産環境学科にも興味がわいた。就職など先をみすえて考えていきたい。
2	はい。参考にしたいと思います。
3	かなり興味をもつことができたのでとても役に立ちました。
4	進路の方向性は既に決まっていますが、大学での授業の一部のイメージをつかむことができました。

今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。

1	グループワークなど少人数でしたが、楽しく、人のさまざまな意見を聞けて本当に参加して良かった。また、オープンキャンパスで行ってみたい。
2	SWOT 分析とはどんなものだろうかと思っていましたが、とても簡単な方法で驚きました。 学校の活動に取り入れてみようと思います。とても楽しく受講することができました。ありがとうございました。
3	大学で実際にどのようなことが学べるのかを体験できて大学がどういうものか少し理解できた気がします。
4	一見バラバラに見える考えが意外とまとめられていくのが面白かったです。

コース⑦「盛岡のまちの成り立ちと景観」

三宅 諭 准教授（食料生産環境学科）



受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか

1	分かり易かったです。盛岡の町のつくりや何故道路が整備されたかなどについて詳しく知れました。これからもっと盛岡の町並みを観察したいと思いました。
2	とても分かりやすかった。
3	興味がもてました。
4	自分達で探しに行くので少し難しかったですが、とてもたのしかったです。

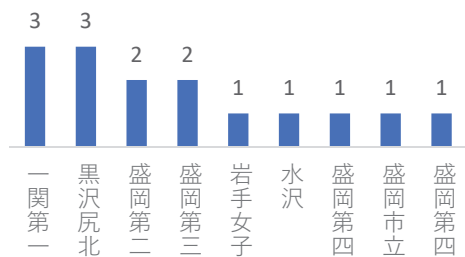
5	とても分かりやすかったです。実際に足を運んで、目で見ること、景観について興味をもてました。
6	分かり易くとても興味を持てた。
7	実際に町の中を歩いて自分たちで考え、発見していき、後で解決してもらい、より理解できた。
今回の公開講座は将来の進路決定に役立ちましたか？	
1	次のオープンスクールは岩大に行こうと思いました。
2	具体的には分からないけど、こういうのもありだなとは思った。
3	役に立ちました。
4	今はまだ進路がはっきり決まっていますが、1つの進路としての考えとして広まったと思います。
5	とても役に立ちました。将来に生かせるようにもっと景観を学びます。
6	私は医療系を目指しているが今回の公開講座で別の学問について視野を広げることができた。
7	町づくりや昔と今の地理的な違い、町の特徴などに興味をもった。
今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	町の景観について知れて、マップを実際に使ったので楽しかったです。三宅先生が最初の方に話していた農村のづくりも気になりました。
2	普段何気なく歩いてるところも、良くみると歴史やその背景を知ることができることに驚いたし、もっと知りたいと思った。登下校の際などにみてみようと思った。
3	なかなか盛岡の待ちを歩くことがないので楽しかったし、歴史などを知ると街の見方が変わっておもしろいと思った。
4	普段通っている道なのに、分からないことがあって自分がどのくらい意識して見てないかが分かりました。
5	盛岡の昔ながらの景観にとっても興味をもちました。大通りに北上川が流れていたのはびっくりです。
6	今回、公開講座に参加して盛岡のまちの成り立ちと景観について興味を持つことができた。実際にまちを歩き調査することで理解を深めることができて良かった。
7	町歩きは与えられた課題に対して、自分たちで行動し、クリアを目指すため、座っているだけよりも達成感が味わえた。

コース⑧「動物からの贈り物を科学する

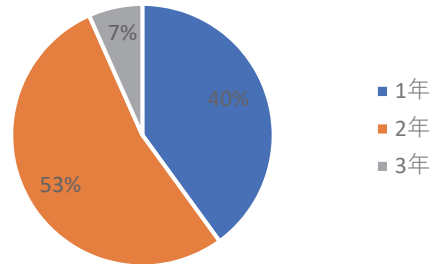
～動物の筋肉を比べてみよう、牛乳をチーズに変えてみよう～

村元 隆行 准教授（動物科学科）

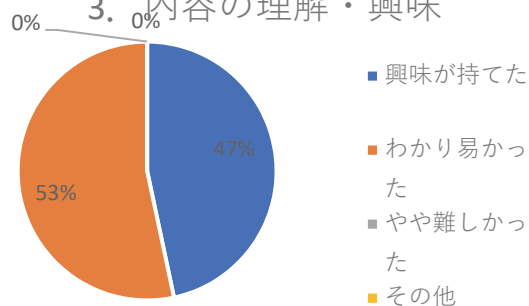
1. 高校別



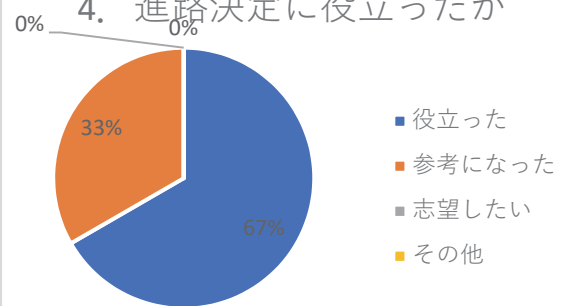
2. 学年別



3. 内容の理解・興味



4. 進路決定に役立ったか



今回の公開講座は将来の進路決定に役立ちましたか？

1	理系にすすみたいという気持ちが強まった。
2	役立った。自分から積極的に質問したりできて、大学の生活や岩大についてより知ることができた。
3	はい。視野を広げることにつながりました。
4	まだしっかりと決まっていませんが、役立ちました。
5	農学部ではどのようなことをしているのか具体的に知りたかったことを実際に体験できたので、とても良い機会だった。
6	最終決定はしていませんが、参考になりました。ありがとうございました。
7	役に立った。進路選択に生かしたい。
8	自分の将来とは少し異なっていたが、こっちの方に興味を持つことができました。
9	私は医療系の道に進もうと思っていたのですが、その気持ちがゆらぎました。
10	今までは生物学のミクロの視点での学問に興味があったが、農学にも興味を持った。

11	農学部はあまり関心がなかったけど今日で少し興味がわいた。
12	役に立った。
13	元々受けようと考えていたので、ますます興味がわきました。
14	講座で大学でどのような研究をして、どのようなことにいかしているのかが分かって良かった。
15	岩手大学も志望校に入っていたので、非常に役立ちました。
今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	テーマからして、とてつもなくひかれた。
2	すごく緊張していたけれど、少人数に分けてもらえたので気持ち的にも楽になった。大学生の先輩もとても優しくかった。
3	高校では触れられない分野に触れたと思う。自分の身近にある「肉」を普段と違う観点から見て、なるほどと思うことがたくさんあった。大学の実験、研究室がどんな風なのか、少しだけでも知れたし、学校生活についてのお話も聞けてよかった。チーズ作り、焼き肉、とても美味しかったです！ P.S. 学長の笑顔がすてきでした。
4	普段何気なく食べているお肉やチーズのことをくわしく学ぶことができて良かったです。自分で作ったチーズはとても美味しく感じました。
5	楽しくなるような工夫がされており、興味をもって参加することができました。ありがとうございました。
6	今まで、何となく食べ物を買って、何となく食べていましたが、いいお肉は何なのか、チーズは家でもつくれることなどが分かり、食べ物を見る目が変わったと思います。ありがとうございました。
7	今まで目にしたり、口にしたりしていた生物や食べ物がどう構成されているか、学ぶことができた。カッテージチーズを家でも作ってみたいと思う。
8	とても良い経験となりました。自分が知らなかったことを知れたきっかけになって良かったです。
9	とても楽しかったです。肉は殺したての方が黒いのがとても意外でした。
10	すごく面白かったし、やることのハードルが高くなかったので気楽に楽しめた。
11	肉がおいしかったです！
12	チーズが好きだったから、チーズを作る方法を知れてよかったし、動物の筋肉を比べた後にそれをたべれるということもできて楽しかったです。
13	次にもこのような機会があれば参加したいです。

14	どんな学科で、どのような研究をしているのか予想できたから、自分の興味がある講座を選べた。
15	身近なもので実験でき、普段の生活に生かせるものだったので良かったと思いました。
受講したコースは分かり易かったですか？実験の内容に興味がもてましたか	
1	わかりやすかった。チーズづくりがおもしろかった。
2	わかりやすかった。五感をつかって行えた。今日の実験でわかったことを生活に生かしていこうと思った。
3	はい。とても楽しく食べ、学びました。
4	説明がとても丁寧で分かりやすかったです。家でも作ってみようと思いました。お肉をおいしく食べるための研究もおもしろそうだと思います。
5	身近なことをテーマとされていたり、説明も分かりやすかったので、理解をしやすかった。様々な動物の肉を比べてみたり、どんなもので牛乳からチーズができるのかの実験も楽しかった。
6	実験方法や目的がとても分かりやすく、実験内容もおもしろかったです。
7	とても分かり易かった。今まで口にしていたものが、生物学的に考えたとき、どのような成分で構成されているのか、改めて興味をもてた。
8	学校では1, 2回くらいしか実験したことがなかったので、やれて良かったし、実験中に解説などしていたので、とても分かりやすかったです。
9	肉の色とか、牛乳でチーズをつくるとか、身近なことにも科学がひそんでいるんだなと分かり、すごく関心をもつことができました。
10	とても分かりやすかった。実験の内容も、身近な話題から能動的な活動で面白かった。
11	身近な肉も色で差が出てくるのに興味をもてた。
12	分かり易かったし、興味をもてた。
13	とても分かりやすかったです。家でもやってみたいと思いました。
14	分かり易かった。動物の種類によって色が違く、どのような色でどの種類がわかるようになった。チーズおいしくできた。
15	分かりやすかったです。身近なもので実験できて、興味がもてました。
今回の公開講座に参加した感想、テーマについてのご意見をお聞かせください。	
1	実験が細かくできて楽しいです。大学に入ったらもっと詳しくできるとうかがい楽しみが増えます。テーマはこの種類でいいと思いますが、複数参加できると嬉しいです。

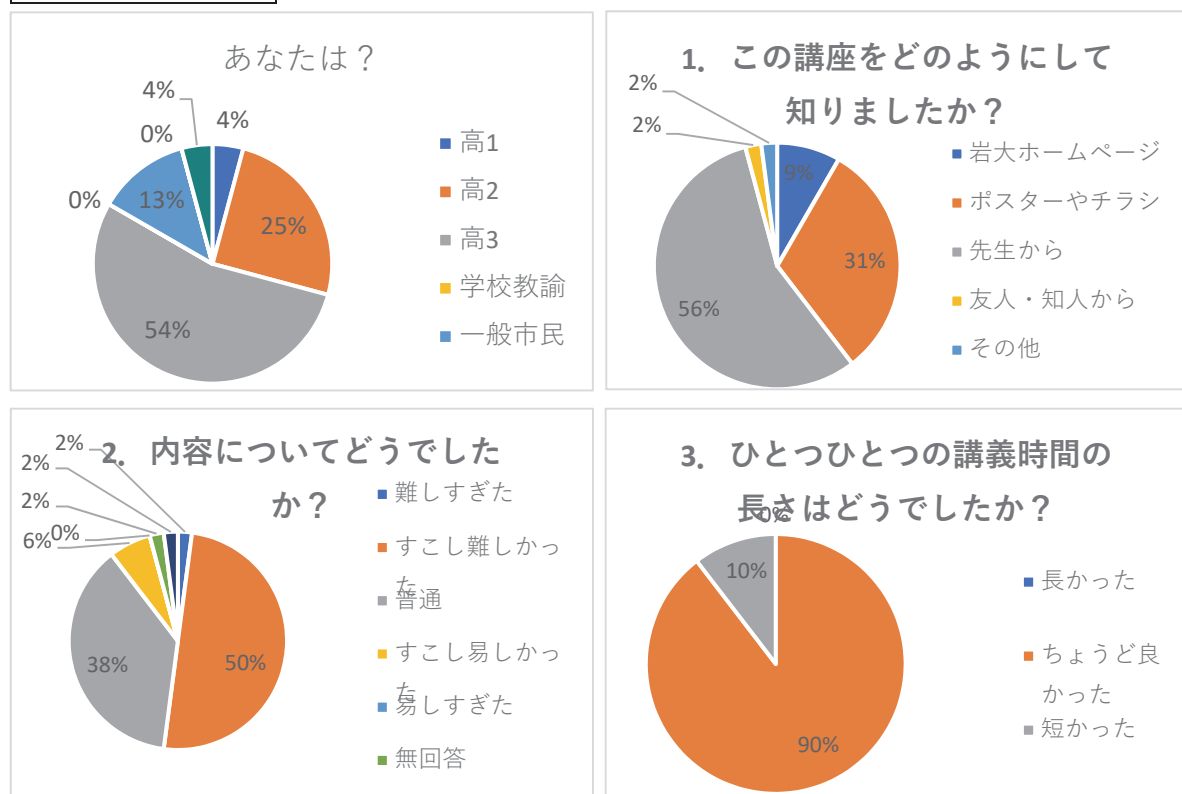
2	様々な実験を体験できて、勉強になりました。これからに生かしていこうと思いました。
3	普段の学校の授業では実験がなく、教科書を読んでいるだけだったので、久々に観察や実験ができて良かったです。また、実物も見ることができ、さらに分かりやすかったです。
4	好きな生物に関する観察や、実験を行えたので、とても楽しかったです。大学生のお二人にもお世話になりましたし、会話も楽しかったです。
5	環境についての進路を考えているので、その1つである「土壌」について詳しく分かりやすく実験ができてとても良かったです。私たちのために準備などあらかじめしてくださりありがとうございました。
6	おもしろかったので来てよかった。第1希望じゃなかったけど、今回のコースもとても興味深かった。
7	今回の公開講座を通して土壌についていろいろなことを学べたのでよかったと思いました。今後の生活に学んだことを生かしてがんばりたいと思いました。
8	僕は今大学は岩手大学の動物科学科に行きたいと思っているが、今回応用生物化学科の講座を受けたことで、大学を選ぶうえで参考になり、有意義な時間だった。
9	今回の講座では、自分がほとんど関わったことのない「土壌」というものについて学ばせていただきました。自分がこれまで学んできた化学や生物の知識が、実際に自然現象として行われていることにすごく感動しました。微生物や動物の世界はとても面白いなという風に思いました。本日は本当にありがとうございました。

成果報告書	
記録者氏名：人文社会科学部 地域政策課程 開龍美，藤本幸二，佐藤一光，塚本善弘	
事業名：地域政策入門－生活と経済・環境－	
目 的 高校生を主な対象として，人文社会科学部地域政策課程の教育内容及び人材養成像を紹介するだけでなく，地域の現状を理解し課題に取り組むうえで，地域政策に収斂する法学・経済・環境学の視点が不可欠であることを十分に理解してもらうことを目的とした。	
活動実績 2018（平成 30）年 7 月 28 日（土）13：30～16:20，附属図書館生涯学習・多目的学習室において，「地域政策入門－生活と経済・環境」をテーマとして，法学・経済学・環境学の 3 分野から話題を提供した。 最初に藤本幸二准教授が「政策とは何か，政策と法・経済・環境との関わりとは－地域政策について学ぶ前に－」を題目に講演を行った。まず政策の基本的内容から始め，政策の立案と評価の詳細に触れ，次に政策と法・経済・環境との関わりについて，政策は法により制度となるべきこと，経済は政策の目標ともなり，かつ評価指標でもあること，また環境は公共政策の典型であることなど具体的に解説した。 次に佐藤一光准教授が「地域経済と生活のリアル」と題して講義を行った。高校生を始め若い世代にとってリアルな問題として，賃金の問題，教育・子育てにかかる費用と公的補助のあり方について日本の現状を説明し，次に「なんとなく生き辛い」という生活実感の原因を，家族に関する制度を中心に掘り下げ分析を行った。 最後に塚本准教授が「〈企業－NPO〉連携・協働による環境保全－地域も含む 3 者間の“Win－Win 関係”へ－」の題目のもと，まず企業と NPO の連携・協働による環境保全活動が近年注目されていることと，その背景・意義を解説し，次に連携・協働が企業・NPO だけでなく，地域社会にも利点となっていることを確認した。最後に，岩手県はじめ各地での成功事例を紹介し，連携・協働の実情と課題を理解してもらう機会とした。 そして講義の後，総括として質疑応答を行った。事前に提出してもらった多数の質問だけでなく，会場からもその場で質問があり，有意義な意見交換となった。 今後の課題 ・「質疑応答・討議」の充実・実質化が課題である。今回は意図せず比較的うまく運んだにせよ，受講者からの個別の質問に答えるだけでなく，講演者 3 名の間で実質的な意見交換をし，会場全体として議論を活性化するには，講座テーマの選定，講演者間の事前の打ち合わせ，共通の問題に関わる質問を募る様式への質問票の改訂など，入念な検討と準備を要する。 ・募集定員を超過した場合の受け入れ方について，高校生を優先するのか否かなど要検討。さらには会場・募集定員についても再考の余地があるだろう。	

担当者の専門分野を活かしつつ、高校生にも興味を持ってもらえるような共通のテーマ設定が課題である。



アンケート調査結果

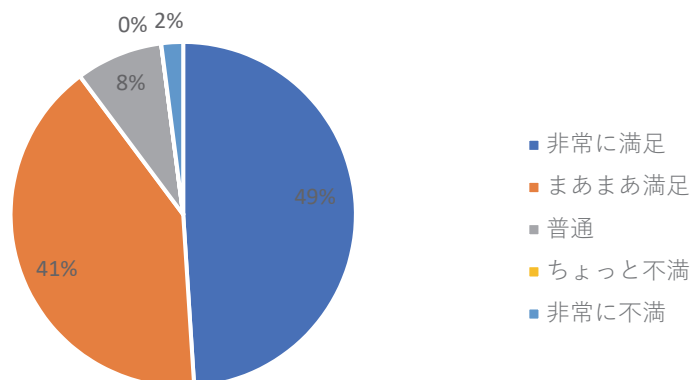


4. 総合討議についての感想をお聞かせください。

・ いろんな視点から考えることができ、良い経験になった。
・ 経済については大変有意義でした。
・ 環境や経済・法について政策との関連性をしっかり分かったのがよかった。
・ 今後の日本の社会問題を知ることができ、自分の人生において十分参考になった。テレビ

を見ているようだった。
・ 少し難しく感じましたが“政策”と言っても見方、考え方により様々な案がうまれるということを実感しました。
・ 得ることはとても多かったので、そこから整理して（時間内に）疑問を持ったり、質問したりできなかったのも、もし機会があれば、次回は自分でも予習して挑んで、質問までしたいです。
・ いろいろな見方が大事だと思いました。本を読んで深めたいです。
・ 分野による視点を変えた意見がきけてよかった。
・ 自分が思っていたことでも言葉にできなかったことを他の人が聞いてくれて本当にためになった。
・ 講義の中で聞けなかった話が聞けて、おもしろかったです。また、禁酒制の話のたとえで、簡単に罪や法を作ってはいけないと分かりました。
・ 深いなと思いました。様々なことが知れて良かったです。
・ 様々な疑問について、しっかりと解答していただき、とても参考になりました。
・ 環境ごとについての質問のときに、政策や経済の観点からも意見を出していて、とても参考になりました。
・ 豊富な知識をお持ちの先生方のおっしゃることは、一回の講義では聞ききれないほど学ぶことばかりだった。
・ 1つの題材についても、色んな分野が絡んでいると感じました。また、どんな質問に対しても、とても分かりやすく説明してくれたので、聞いていて面白かった。
・ 教授などの個人的な意見も聞くことができ、良かった。
・ ごみについて、色々な方面の先生の意見を聞けて、とても面白く感じた。
・ ボランティアの目的が変わってきてしまっているのではないかという話はとても共感でき、講義よりもさらにくわしい話をきくことができたのでよかった。
・ 更に詳しいことが分かったので良かったです。
・ それぞれの講義では触れなかった、さらにくわしいことを知ることができて良かったです。
・ 地域についてよく分かった。
・ 法・環境・財政の面で興味のある話題が聞けたのでよかった。
・ この講座をより深く学びました。
・ 有意義であった。講義を補完するものでした。
・ 最後の討論のやりとりはすばらしかった。
・ 高校生からの質問ももっと聞きたかった。
・ 色々な視点を見るのがいいと思った。自分も意見を持てるようにしたいと思った。
・ 地域政策・経済について知ることができた。

5. 全体的にみて今日の公開講座に満足できましたか？



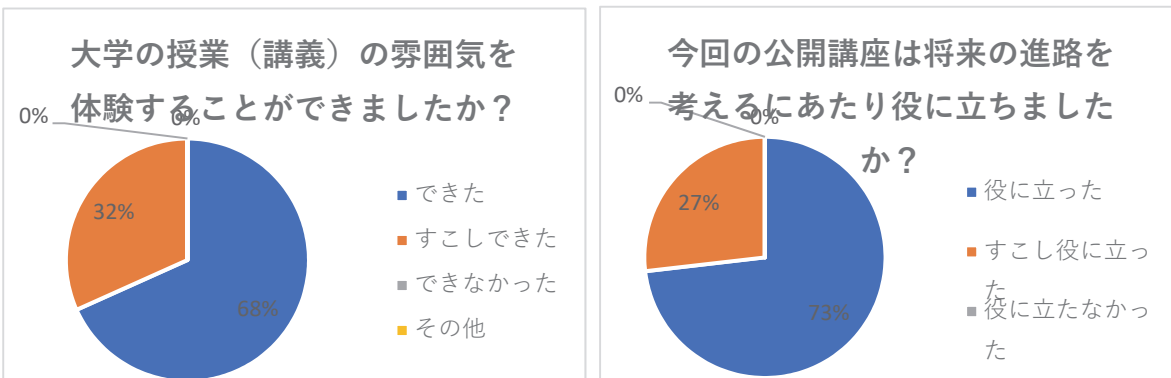
6. 感想（よかったこと／悪かったこと）・意見や提案（こうしたらよい／～はやめたほうがいい）・今後取り上げて欲しいテーマ・今関心を持っているテーマなど、何でも自由にお書きください。

- ・ 言葉の意味の説明が分かりやすく、理解が簡単だった。
- ・ 幼児教育の強化。
- ・ 政策の在り方や効果などについて詳しく知れたのでよかった。
- ・ 新たな見分を広げることができた。
- ・ 岩手の経済、環境の状況と、それに対する政策を知れてよかった。
- ・ 内容が分かりやすく、僕が気になっていた所にも触れていたなので、知識を増やすことができてよかった。
- ・ 自分が地域政策のことを今まできちんと理解していなかったと分かりました。それをはじめの講義で理解した上で、具体策を知ることができてよかったです。
- ・ ごみ問題について深めたいとなりました。
- ・ 過疎問題について公共政策の視点から取り上げてほしいです。
- ・ もう少し深くほりさげてもよかったようにも思えますが、専門的な話がきけてたのしかった。私は高校で「限界集落」の再生について調べているので参考にしたい。
- ・ 地域政策と言っても生活・経済・環境全てを知ったうえで地域について考えることが必要だと思いました。自分の将来を現実的に考えられたのでよかったです。
- ・ 地域経済と生活のリアルが一番おもしろかったです。
- ・ 今回、模擬講義に参加してみて、自分の将来を決めるきっかけになれたので良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・ なぜ日本の財政は衰退していったのか。
- ・ 講座自体の回数を増やしてほしい。

・ 資料の準備などが良かった。
・ 講義をうける前は地域政策は政府や県での取り決めなどについてのものだけだと思っていましたが、身近な犯罪についてや給料などの話もあり他人事ではなく、もっと知りたいなと感じました。
・ 塚本准教授の講義が興味深いものだった。地域政策における様々なジャンルの講義を聞くことができ、地域政策課程を知ることができた。
・ 教育と地域（法、経済）とのつながり
・ グラフとかがあって分かりやすかった。早口だったり、読むだけだったりであまり頭に入ってこなかった講座があった。
・ 日本の経済の現状や経済学の視点で考える政策など、グラフなどでとても分かりやすく理解することができた。環境については想像していたよりも難しいイメージを受けたけれど、政策について知ることができてよかった。
・ 今回の講座を受けて地域政策についてどのような内容かがわかったので、今後の進路選択の際に参考にしていきたいです。
・ はっきりとどういう内容で学ぶのかわかっていなかったなので、知れてよかったです。
・ 私は初めて講座を受けたのですが、初心者でも分かりやすいように話してくださったので、政策とは何か、また、環境と経済の関係も理解できた。
・ 自分の知りたい分野の詳しいお話を聞くことができてよかったです。法律についての話をもっと詳しく聞くことができたらいいなと思いました。
・ 基本的な所や身近な部分での説明がよいと思った。
・ 地域政策での政策としての在り方、今の日本の現状を学べたので、それを踏まえてこれから自分でできることを考えていきたいです。
・ 参加者が意欲をもって臨んでいた。公開講座をもっと知らせたらいい。講座の目的は完遂された。そして講座を増やしていったらいい。
・ 質問を回答する時間をしっかり取っているところが良いと思った。講義もとても分かりやすかった。
・ 討論を多くしてほしい。
・ 図やグラフがあってわかりやすかったです。少しむずかしいかなと思いましたが、初めて知ることがたくさんあってとてもためになりました。とても興味深い内容で、大学でも学びたいと思いました。
・ 身近な問題を使って説明されていてわかりやすかったです。
・ とても分かりやすかった。
1. 講師は佐藤先生のようにスクリーンではなく、生徒の方へ向いて話してほしい。 2. 暗くして、資料が読みにくかった。（講演中には） 3. 塚本先生は前半で NPO とか企業とか事業とかの具体的説明がないので、とても理解しにくかった。高校生はなおさらと思った。

4. NPO の人と企業の人の具体的な話を聞きたい。

【高校生にお聞きします】

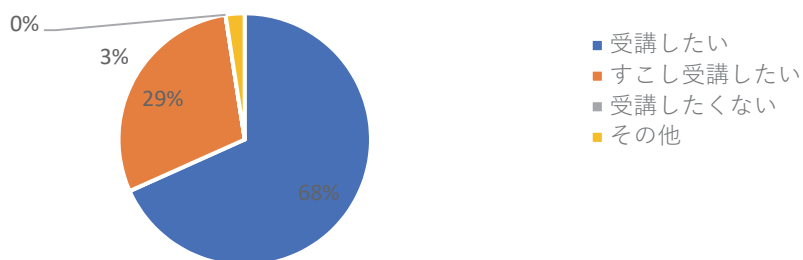


今回の公開講座を受講しようと思った動機をお聞かせください。【何でも自由にお書きください】

- ・ 文系（経済学や政策、自然）についての講座は少ないから行ってみたいと担任の先生に言われたので。
- ・ 「地域政策」とはそもそも何なのか、どんな事をしているのか知りたかったから。
- ・ 政策はどんなことのためにするのか等について知りたかったから。
- ・ 環境に興味があり、そこからアプローチされた行政の話が聞きたかったから。
- ・ 将来的に人口流出を止める政策を考えたいとおもっていたため。
- ・ 行政に携わる仕事に就きたいと思っていたので、受講しようと思いました。
- ・ 身近な話題についての講座だったため。
- ・ 岩手大学に入学して、4年間地元で生活し、もっと地元岩手のことを考えていきたいと考えていたので受講しました。
- ・ 環境についての話をきけると思ったから。
- ・ 地域政策系を進路希望としていて、その知識をつけたかったから。
- ・ 今年度、人文社会学部地域政策課程を受験する予定なので、雰囲気を味わうと共に、知識を蓄えておこうと考えたからです。
- ・ 観光業に興味があり、観光について考えるためには、地域のことを知る必要があると思い、地域政策について学びたいと思ったから。
- ・ 入りたいと思っていた大学で講座が開かれると聞いたから。去年も来ていて、おもしろいと思ったから。
- ・ 地域政策事業に興味があり、まず学んでいくにはどのような事から始めていけばいいかを知りたかったからです。
- ・ 私は、今、経済のことについて興味があり、経済を知るためには地域政策のことも知らねばならないと思ったから。

- ・大学のオープンキャンパスや模擬講義などは積極的に受けて、行こうと2年生になってから決めていた。
- ・地域政策という学問に興味があったから。
- ・地域政策を進路先として考えているからです。
- ・人文社会科学部を志望しているから。
- ・入学希望の大学にも同じような部があり、どのような内容なのかを知るため。
- ・経済学、地域政策を大学で勉強したいから。
- ・地域政策に興味があったから。大学の授業が気になったから。
- ・高校卒業後の進路についてまだ迷っている部分があるため、講座を聞いて参考にしようと思っていたため。また、経済などに少し興味があり話を聞いてみたかったため。
- ・岩手大学人文社会科学部地域政策課程を志望しているから。
- ・岩手大学を志望しているから。
- ・高校生となり、国民としての意識を高く持ち自律していけるようにするため経済・環境について知ってみたいと思ったから。
- ・受験する大学を決める際の参考になればと思ったため。
- ・進路に向けて参考にするため。
- ・地域政策関係の分野にとっても関心があったから。
- ・政策学に興味があったから。
- ・地域政策についてより詳しく知りたかったから。
- ・将来は町づくりに携わる仕事をしようと思っているのでそれにつながるために受講しようと思いました。
- ・自分の進路に役に立つ内容があったから。
- ・政治経済学部への進路を考えているため。
- ・人文社会科学部に進学したいと考えているから。
- ・地域政策とはどのようなことかきちんと知りたかったから。
- ・受験を考えているため。
- ・地域政策とはどのようなものかを知りたいと思っていたから。

今後、地域政策に関する講座があれば受講したいですか？



成果報告書
記録者氏名：教育学部 保健体育科 鎌田安久
事業名：岩手大学スポーツアカデミー2018 コーチのためのサッカーC
目 的 スポーツの専門教育を受けた指導者は少ない現状の中、本講座は、サッカーの指導とりわけ小学生の指導に携わろうという方に対して、サッカーの技術・指導法・その他サッカーに関する幅広い情報を提供し、指導力向上を目指して開講するものである。なお、講座の受講対象者としては、少年サッカークラブチームの指導者はもとより保護者の方々、またサッカーの指導に関わる学校関係者の受講も歓迎する。また、本講座を修了・資格検定審査に合格し所定の手続きを経た方には、岩手県サッカー協会と共催し、(公財)日本サッカー協会公認「C級サッカーコーチ」の資格を与えるものとする。
活動実績 受講者 女性1名 男性6名 平均年齢33歳 最年少22歳 最高齢44歳 住所；金ヶ崎町 花巻市 奥州市 平泉町 一関市 盛岡市 8月18日(土) 9:00～18:00 講義①ガイダンス②技術戦術Ⅰ 実技①② 8月19日(日) 9:00～18:00 講義③GK指導④⑤技術戦術理論ⅡⅢ⑥発育発達 Ⅰ 実技③④ 8月25日(土) 9:00～18:00 講義⑦⑧コーチング法ⅠⅡ⑨メディカル 実践ガイダンス 8月26日(日) 9:00～17:00 実技⑦ 講義⑩指導者の役割Ⅰ 指導の実践1回目 9月 1日(土) 9:00～18:00 講義⑪指導者の役割Ⅱ⑫審判 実技⑧⑨ 9月 2日(日) 9:00～18:00 実技⑩ 講義⑬実技まとめ⑭指導実践ガイダンス 筆記試験 9月 8日(土) 9:00～16:00 指導の実践2回目 実践振り返り 閉講式 酷暑を避けた日程のおかげで、熱中症の危険は避けられた実技講習となった。悪天候の日もあったが、何とか所定のプログラムを全て実施し、受講生の指導者としての資質をあげることができ、加えて今回も JFA 公認Cコーチ資格も全員が取得することができた。



今後の課題

天候的に今年の8月も酷暑であったため、8月18日以降の開催として日程を組み、屋外での暑熱対策はできたものの、時期が遅いためか例年よりも少ない参加者での開催となった。

また相も変わらず 屋外の実技講習の際に、靴を履きかえたり、荷物をおいたりする場所、更衣室やシャワー室、また雷雨の際の避難場所等、実技講習会を開催するには、屋外での研修施設として大変課題が多い大学の運動施設である。

成果報告書

記録者氏名：人文社会科学部 人間文化課程 栗林 徹

事業名：岩手大学スポーツアカデミー 2018 少年少女のためのバスケットボール

目 的

現代生活の中におけるスポーツは、心身の健康や生きがいのため、あるいは余暇活動や観戦の楽しみなど様々な面で重要な位置を占めている。とりわけ、生涯スポーツの観点からその意義はさらに高くなってきています。しかしながら現実には、スポーツの専門の指導者に手軽に指導を受けたり、スポーツの指導方法を学んだりする機会は、極めて少ないのが現状である。そのため本講座では、バスケットボールを愛し、学びたい少年少女に対し、レベル・目的に応じたプログラムとエリアとヒトを提供し、バスケットボールの楽しく学習することを目的とする。

活動実績

日程

8月1日（水） 17：00～18：00

8月2日（木） 16：00～18：00

8月3日（金） 16：00～18：00

参加者

小学校4年生から6年生の男女29名。



活動内容

3日間とも、4年男女、5・6年女子、5・6年男子の3グループに分かれ、それぞれの技術・体力に応じ、補助学生（バスケットボール部員）とともに楽しく活動をおこなった。

第1日目 テーマ1：「みんなと仲間になろう！ ボールとも仲良く！」

テーマ2：「ゲームをしよう」

鬼ごっこ、ボールハンドリング、シュート練習、ハーフコート・ゲームを練習した。

大学生と一緒に楽しく活動できたという感想が聞かれた。

第2日目 テーマ：「ボールを運び、得意なシュートを決めよう」

ボール鬼、ボールハンドリング、ボール・キャッチ、ボディーコントロール、シュート練習、2対1の練習のあと、ハーフコート・ゲームをおこなった。みんな積極的なプレーを見せていた。

第3日目 テーマ：「オール・コートの攻撃を工夫しよう」

鬼ごっこ、1on1の基礎（ボールキープ：ピボット、ドリブル）、ランニング・シュート練習、シュート練習のあと、フォーメーションゲームをおこない、最後にまとめとしてオールコートゲームをおこなった。



初日にはシュートがうまくできない子も、ゲームでシュートを決めることができていた。3日間の活動を学生とともに楽しく活動することができ、技術の向上が見られた。

成果報告書

記録者氏名：農学部 附属寒冷 FSC 滝沢演習林 山本信次

事業名：哲学者 内山 節氏を迎えての第 13 回「哲学の森」

目 的

演習林設置 100 周年を記念し哲学者内山節氏をお招きして以来、毎年、自然と人間の関係性や現代社会に関する講義を頂き、これからの社会について考える機会を提供することを目的に開催されてきている。

活動実績

哲学者内山節氏をお招きし、自然と人間の関係性や現代社会に関する講義を頂く本講座であるが、今年度は「明治以降を問い直す」、「概念とは何か」、「再び関係性の時代へ」の 3 つの講義をいただいた。とりわけ明治以降の近代化の中で失われたもの、日本人の思考方法としての「ものそのもの」でなく「それらの関係性」から考える在り方の復活の必要性などが語られた。こうしたお話を受けて、参加者を交えて活発な議論が行われた。

また併せて、講義の中で触れられる「自然と人間の関係性」の岩手における具体的な現われを示すものとしての演習林内を散策しつつ、岩手の風土と歴史の具体的な形としての森と人間の関係についても林内散策を通じて解説した。

今後の課題

今後の課題としては、より充実したディスカッションの時間をとれるよう、運営に工夫することが必要である。



成果報告書

記録者氏名：理工学部 化学・生命理工学科 荒木功人

事業名：ニワトリ胚を用いた研究は、ライフサイエンスにどのような貢献をしてきたか
(+ニワトリ初期胚の観察会)

目的

爆発的に発展し続けているライフサイエンス分野では、さまざまなモデル生物が用いられている。そのようなモデル生物の1つであるニワトリは、古代ギリシャ時代から2300年以上、研究の対象となってきた。一方、岩手県では養鶏は主要な産業となっている。本プログラムでは、ニワトリ胚を用いた主として基礎科学分野における研究の歴史を解説した後、最新の研究成果をわかりやすく説明し、また講演に引き続き、ニワトリ初期胚の観察会も行う。更に、この種のイベントが行われることが少ない地域で行うことにより、市民の科学への興味を喚起する。

活動実績

講演では、まずニワトリが属する鳥類の進化と特徴について述べた後、ニワトリの家禽化の過程について説明した。続いて発生生物学におけるニワトリの実験動物としての特徴について説明した後、その実験動物の歴史を紹介した。そして、ウズラ-ニワトリキメラ胚を用いた神経堤由来細胞の発生や、遺伝子導入により鳥類の直接の祖先である恐竜の特徴をニワトリに復活させる研究について紹介した。

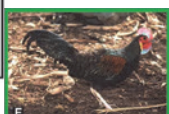
続いて持参した実体顕微鏡と2日孵卵した有精卵を用いて、ニワトリ胚の観察を行った。参加者は5名と少数であったが全員、地域の高校の教員の方々だったので、ニワトリやウズラ胚を用いた高校生向けの実験について討論を行った。

今後の課題

参加者が5名しか集まらなかったのは残念であった。参加者からも指摘があったように、広報の問題かも知れないので、来年度以降実施する場合は、広報のやり方を改善する必要があると思われる。その一方、参加者全員が高校の先生であったため濃い内容の講座になり、また間接的に多くの高校生に本講座の効果が波及することが期待される結果となったことは良かった。

ニワトリの野生種セキョクヤケイ

Eriksson et al. (2011)

ハイロヤケイ (*Gallus sonneratii*)セキョクヤケイ (*Gallus gallus*)セイロンヤケイ (*Gallus lafayettii*)アオエリヤケイ (*Gallus varius*)

・家禽化したニワトリ

体重増

羽毛の単純化

より早い産卵開始、より頻繁な産卵、より大きな卵

実験動物としての歴史

前成説：胚の器官は最初から存在し、卵や精子の中に小さな形で収まっている

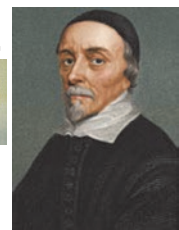
後成説：胚の器官は各世代でゼロから新たに作られる



Aristotle (384-322 BC)

ニワトリ胚の観察を初めて報告

前成説と後成説を検討し、後者を支持

16c末：顕微鏡の発明
Hans and Zacharias Jansen

William Harvey (1578-1657)

ニワトリ胚の胚盤葉(将来の胚)や血島を観察
後成説を支持Encyclopaedia Britannica
History of the Microscope
BBC

成果報告書

記録者氏名：農学部 附属寒冷 FSC御明神牧場

千田広幸、佐々木修、佐々木修一、桃田優子、田尻和之、平田統一、小野寺昭好

事業名：御明神牧場体験 「子牛の誕生？トラクタに乗ろう」

目 的

地域の子供達の畜産体験と命についての学び、併せて岩手大学の施設としての御明神牧場の紹介を目的として、小学生とその保護者を対象に、1泊2日の公開講座を開催した。

活動内容と評価

当日は参加者にトラクタ運転と牛の世話を体験させた。トラクタ体験では、参加者はトラクタ前方に付けたバールグラブという作業機を操作して約 300 kgの乾草ロールを掴んで持ち上げ、ラッピングマシンという機械に乗せ、ラップフィルムでぐるぐる巻きにした。その後、自分たちでラップしたロールにマジックでお絵描きをして楽しんだ。牛の世話体験では、牛舎内で黒毛和種の育成牛、繁殖牛への配合飼料の計量給与と粗飼料給与を体験した他、子牛に哺乳バケツでミルクを給与し、牛とのふれあいを楽しんだ。

さらに、牛の分娩観察を内容に取り入れるため、分娩予定日間近の2頭の母牛に予め分娩誘起処置をしておいた。1頭目の母牛は公開講座の開始時刻直前に分娩し、早めに現地に来ていた家族は観察できたが、2組の家族が見逃してしまった。しかし子牛は双子であったため、もう1頭の子牛の産まれる瞬間には全家族が立ち会うことができた。2頭目の母牛は初日の夜遅い時間の分娩で、すでに寝ている子供もいたが、眠い目をこすり起きて来て、ほぼ全員が観察した。しかし難産で、子牛は自発呼吸できず残念ながら斃死した。

このように1頭は残念な結果となったが、終了後の参加者アンケートでは「貴重な体験になった」「考えさせられる機会になった」との声が寄せられ、参加者は前向きに捉えているようであった。他にも「初めて乗り物を運転して面白かった」「子牛とふれあえて楽しかった」「また来たい」などの声が寄せられた。全体の評価は「とても楽しかった」

「楽しかった」「ふつう」「やや不満」「不満」という5段階評価のうち、「とても楽しかった」が73%、「楽しかった」が27%で、高い評価を得られた。

成果報告書

記録者氏名：理工学部 化学・生命理工学科 荒木功人

事業名：あなたは下戸?それとも蟒蛇?～DNA 鑑定を用いた実験教室～

目的

ヒトのアルコール飲料に対する強さは遺伝的に決まっており、PCR-RFLP（ポリメラーゼ連鎖反応-制限酵素断片長多型）分析という DNA 鑑定法により、アルコールを摂取しなくても、強いかわいかなることを知ることができる。本講座では、参加者自身の DNA の PCR-RFLP 分析を通じて、生命科学の基礎技術がどのように応用されているかを体験して頂き、市民の科学への興味を喚起することを目的とする。また、本講座は国立大学フェスタ 2018 の参加プログラムでもある。

活動実績

まず参加者自身の口腔細胞を採取し、ALDH2 遺伝子の多型が見られる部分を増幅するための PCR を行った。PCR の時間待ちの間に、アルコール飲料の種類や、アルコール耐性に関わる遺伝子について解説した。

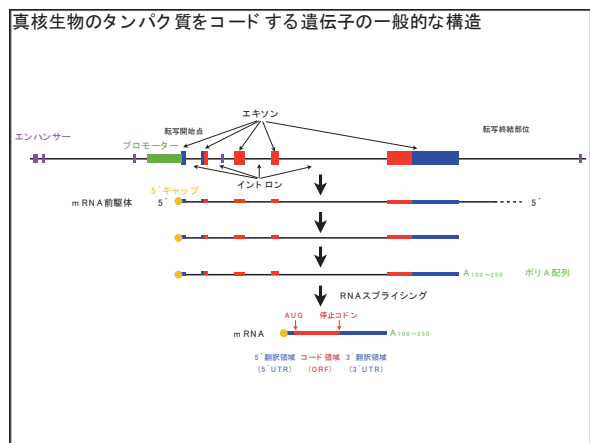
昼休みをはさんで、PCR 産物の制限酵素 TspRI による切断反応と、アガロースゲル電気泳動による解析を行った。これらの待ち時間の間に、PCR や制限酵素といった生命科学の幅広い分野で用いられる基本的技術に関する解説を行った。更に、担当者が神経発生を研究するためのモデルシステムとして用いているニワトリ胚に関する説明を行った。

今後の課題

集合時間になっても 1 名の方がお見えにならなかった。1 名学生を前日の実験の準備に充てていたが、当日学生をもう 1 名、プログラムの補助のために確保しておけば良かった。

制限酵素 (制限エンドヌクレアーゼ) : DNA の特定の配列を認識してその部位 (またはその部位から一定距離離れた部位) を切断する

制限酵素とその認識配列			
酵素名	酵素精製に用いた微生物	認識部位	生じた末端
BamH I	<i>Bacillus amyloliquefaciens</i> H 株	5' - <u>GGATCC</u> - 3' 3' - <u>CCTAGG</u> - 5'	5' - 突出末端 (粘着末端)
Sau3A I	<i>Staphylococcus aureus</i> (黄色ブドウ球菌) 3A 株	5' - <u>GATC</u> - 3' 3' - <u>CTAG</u> - 5'	5' - 突出末端 (粘着末端)
EcoR I	<i>Escherichia coli</i> (大腸菌) RY13 株	5' - <u>GAATTC</u> - 3' 3' - <u>CTAAG</u> - 5'	5' - 突出末端 (粘着末端)
Hind III	<i>Haemophilus influenzae</i> (インフルエンザ菌) Rd 株	5' - <u>AAGCTT</u> - 3' 3' - <u>TTCGAA</u> - 5'	5' - 突出末端 (粘着末端)
Sma I	<i>Serratia marcescens</i> (菌)	5' - <u>CCCGGG</u> - 3' 3' - <u>GGGCCC</u> - 5'	平滑末端
Kpn I	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (肺炎桿菌) OK8 株	5' - <u>GGTACC</u> - 3' 3' - <u>CATGG</u> - 5'	3' - 突出末端 (粘着末端)
Fok I	<i>Flavobacterium okeanokoites</i>	5' - GGATGNNNNNNNNNNNN - 3' 3' - CCTACNNNNNNNNNNNN - 5'	5' - 突出末端 (粘着末端)



成果報告書

記録者氏名：農学部 附属寒冷 FSC 滝沢演習林 菅原大輔、渡邊篤、山本信次

事業名：フィールドセミナーウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森ー

目的

ネイチャーゲームのひとつである「ウォッチングビンゴ」を親子で取り組んでもらい、秋季の林内において動植物の発見や魅力を体感してもらう。また、この体験を通じて市民の方々に岩手大学演習林に親しみを持っていただけるようにする。

活動実績

場所：滝沢演習林

講師：浅沼 晟吾 氏

紅葉が終盤となった滝沢演習林でフィールドセミナー「ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森」が開催されました。

当日 3 名のキャンセルがあり計 14 名の参加者（子共 3 名）となりました。

散策コースは例年と同様に 10 林班広葉樹見本林まわりの林道及び国土交通省の四十四田ダム巡回路を歩きました。



セミナー序盤ではホオノキやコブシ、サンショウの切った生枝を参加者に配り、すがすがしい木の生きた香りを体感してもらいました。また、ウダイカンバやシラカンバ、クヌギなど樹皮に特徴のある樹木を説明すると、参加者の方々は散策路から見える広葉樹を指さして樹種を聞くなどとても興味深く周囲を観察さ

れていました。

林内の紅葉は散り始めており道上を落葉が埋め尽くしていましたが、その中鮮やかな紫色のガクをつけたクサギの実には大人も子共も綺麗な色だと感心していました。また、浅沼氏がご自身でクサギの実で染めた『クサギ染め』のハンカチは淡い青緑色で、現在の見た目の色とのギャップに驚かれる方も多くいました。



終盤はダム巡回路に入っの散策で、南部藩時代から残るクヌギ林の歴史について触れたり、倒れたサクラから多数生えるムキタケを発見したりしました。

次回の春のフィールドセミナーにも参加したいとの声があり、参加者にとって充実したセミナーだったことが感じられました。

今後の課題

集合場所の事務所から散策コース入り口まで演習林の作業車を 2 台使用して移動していましたが、今回現場作業の関係で 1 台のみとなってしまう職員の私用車を使用しつつ参加者に狭いところを乗り合わせての移動となっていました。事前に参加者名簿と作業車の配置の確認を早めに行う必要がありました。

成果報告書
記録者氏名：教育学部 保健体育学科 上濱龍也，清水茂幸
事業名：岩手大学スポーツアカデミー2018 少女のための陸上競技
目 的 陸上競技を愛し、学びたい少年・少女に対して、基本技能の習得と冬季トレーニングなどについて、レベル・目的に応じたプログラムとエリアとヒトを提供し、資質の向上を目指し開講する。 また、本講座は岩手県小学校体育研究会の陸上指導者の小学校教員を外部講師に迎え、さらに、小学校教員を対象とした指導者講習会を兼ねることにより、将来に向けた指導者養成も行うことを目指す。
活動実績 教育学部の上濱龍也，清水茂幸のほか県内小学校の教員 14 名を外部講師に迎え講座を実施した。 1 月 26 日は走運動を中心に、早く走るための身体の使い方や動き方などを、高学年児童はより正確に、中学年以下の児童は楽しみながら県内全域から集まった初めて会う友達と仲良く学び、最後は全員でリレーを行った。 2 月 9 日は、ハードル走や跳運動の基本となる走りながら踏み切ることを遊びや身近な器具を用いて挑戦し、学習した。はじめのうちは上手くできなかった参加者も、リズムよく跳べるようになった。 2 月 16 日は投運動を行った。ボールをあまりうまく投げられなかった参加者も、身体の使い方、腕の振り方などを段階的に学習し、楽しみながら遊び感覚で慣れていくうちに、遠くに投げられるようになった。 また、県内の若手の小学校教員も延べ 20 名ほど参加し、楽しく学ぶ学習方法について参加者や指導者たちと一緒に学ぶことができた。特に、来年度からは、全国小学生陸上競技大会も勝つことを競うことよりも、多様な種目に挑戦することや競技の楽しさを経験することを主眼とする方向に変革することを踏まえ、いかに楽しく運動に親しむかについて学ぶ機会となった。
今後の課題 開催時期が、インフルエンザの流行時期と重なることから、他の時期での開催を探っていく必要がある。

成果報告書

記録者氏名：農学部 共同獣医学科 高橋 透

事業名：中高生のための獣医学生体験

目的

岩手大学には共同獣医学科があり、毎年約 30 名の学生が入学して講義や実習、卒業研究などの多様な 6 年間の学びを経て、獣医師として社会に巣立ってゆく。公開講座では、一般市民、特にこれから大学受験を迎える中高生に獣医学の学びを体験してもらい、獣医学に関心を持ってもらうことを目的として、「獣医学生体験」を実施する。基礎系、臨床系、応用系の科目で、中高生にもわかりやすい模擬講義を行い。また、実習の現場を体験してもらえるように、普段目にすることの出来ない付属動物病院や病理標本室などのバックヤードツアーを開催する。

活動実績

当日は学外から 65 名の参加者があり、この他に共同獣医学科、動物病院、FAMS の教員 20 名が公開講座運営に参加した。参加者は岩手県内各地から幅広く、青森県、宮城県、山形県の高校生の参加もあった。ぽらんホールで 13:00 から農学部長、共同獣医学科長、動物病院長の挨拶の後に、共同獣医学科大沼准教授、同福井准教授および同山崎助教の講演（各 30 分）が行われた（写真 1.）。演題はそれぞれ、「目指せ獣医さん、こんなに広い獣医師のフィールド」、「地球の健康を診て治して予防する」、「獣医学で人の健康な生活を支える」であった。講演終了後に参加者を 3 つのグループに分けて、動物病院の伴侶動物診療棟と産業動物診療棟、および動物の病気標本室を順番に見学した（写真 2.）。各見学場所の説明は伴侶動物や産業動物の臨床教員および獣医病理学研究室の教員が担当した。また、見学者の誘導係や説明補助者には共同獣医学科の学生アルバイトを雇用して対応した。



写真 1. ぽらんホールにおける大沼准教授の講演に聞き入る参加者



写真 2. 動物の病気標本室で生徒に説明する落合教授（左）

今後の課題

ぽらんホールで行われた 3 つの講演は、いずれもレベルの高い内容を平易に解説したも

ので、共同獣医学科の教員から見ても内容の濃いものであった。今回の講演を聞いてわかる通り、教員はそれぞれの専門分野で屈指の学識や経験を有しており、これを広く公開してゆくことが共同獣医学科や岩手大学のバリューを社会に認知してもらう上で必須である。今後のパブリシティにあたっては、教員個人が社会からはっきり見える形で進めてゆく必要があると感じた。

当日は 60 名余の参加者があり、これを 3 グループに分けて施設見学を行なったが、見学グループの人数としてはこの位が限界と思われる。1 か所 20 分ずつ 3 か所で合計 1 時間を予定していたが、施設間の移動なども含めれば 3 か所で 1 時間半を要した。電車の時間などが迫っている方には中座も可である旨をアナウンスしたが、もっと余裕を持った計画にするべきであった。

回収されたアンケートはほとんどが好意的な評価となっており、獣医学に高い関心を持つ生徒が参加した事がうかがわれた。今回は講演聴講と施設見学を併せた企画であったが、施設見学は対応できる参加者数に自ずと制限があり、参加申し込みに合わせた主催者側の対応が難しい場面が起こりうる。参加者の側からすれば体験型の企画の方がより魅力的であり、今後対応策を考えてゆく必要がある。

成果報告書	
記録者氏名：教育学部 保健体育学科 鎌田安久	
事業名：岩手大学スポーツアカデミー2018 コーチのためのサッカーD	
目的 近年、サッカーの普及には眼を見張るものがあるが、サッカーの専門教育を受けた指導者は少ないのが現状である。そのため本講座は、小学生年代の指導に携わろうという方や理解を深めたいという方に対して、サッカーの技術、指導法に関する基礎的情報を提供し、指導力向上を目指して開講するものである。なお、講座の受講対象者には、（公財）日本サッカー協会第4種加盟登録団体（チーム）の指導者はもとより、サッカーの指導に関わる学校関係者や保護者の受講も歓迎する。また、本講座を修了・資格検定審査に合格し、所定の手続きを経た方には岩手県サッカー協会と共催し（公財）日本サッカー協会公認「D級コーチ」の資格を与えるものとする。	
活動実績 受講者：女性2名 男性19名 平均年齢35歳 最年少24歳 最高齢49歳 住所：八幡平市 岩泉市 宮古市 釜石市 花巻市 北上市 一関市 滝沢市 盛岡市 会場：教育学部 教育系棟 E26 教室 第一体育館 2月2日（土）9：00～17：30 9：00～ 9：45 コースガイダンス 10：00～10：45 講義「発育発達と育成の全体像」 11：00～12：30 講義「コーチング法」 13：30～14：30 実技①「ゲーム」 14：45～15：45 実技②「テクニク」 16：30～17：30 講義「審判とルール」 2月3日（日）9：00～18：30 9：00～ 9：30 講義「実技の振り返り①②」 9：30～10：15 講義「メディカルの知識」 10：30～11：30 講義「大人の関わり」 13：00～14：30 実技③「サンプル①②」 14：45～15：45 実技④「シュート」 16：15～16：45 講義「実技の振り返り③④」 17：00～17：30 筆記試験 18：00～18：30 修了ガイダンス	



今後の課題

体育施設として 暖房など冬季の使用に適した環境整備が必要である。



成果報告書
記録者氏名：農学部 附属寒冷 FSC 滝沢演習林 山本信次
事業名：かんじきをはいて冬の森を歩こう
目 的 大学の教育研究施設としての演習林の利用を学内にとどめることなく、社会に広く開放すること、また近年関心の高まる森林のもたらす生態系サービスの詳細について市民に普及し、その制御技術としての森林科学が大学でどのように研究されているかを周知することを目的とする。
活動実績 活動における指導は、教員の山本信次、技術職員の濱道寿幸、麻生臣太郎、菅原大輔、斎藤誠の五名で行った。 今回の参加者は成人個人単位と子供連れご家族での申し込みに大別できたため、年齢の違いによる理解力の相違などに配慮してその二つでグルーピングを行い、複数スタッフが付き添って森林内をかんじき装着の上でガイドウォークした。 成人グループにおいては、一般的な森林生態、樹木の判別、森林管理技術の開設などを中心に行った。 子供連れ家族グループについては、野生動物の足跡や食べ痕、糞などの痕跡から森の生き物を調べるアニマルトラッキングや植物の解説、林業に関する簡単な解説を行った。 グルーピングが功を奏し、参加者の興味や関心に沿った形での運営とできたことで参加者からは、「面白かった」、「来年も参加したい」などの感想をいただき好評を博した。
今後の課題 暖冬・小雪の影響か例年に比べ参加者が少なくなってしまった。 これまでの経験上も、かんじきを十分に利用できる積雪量が参加者の多寡に影響していることから、温暖化の進む中で開催時期を徐々に前倒しするなどの対応をとってきているものの、本務との関係上、これ以上の開催時期の前倒しは難しい。 雪が少なくとも、今回のように参加者の満足度を上げる運営そのものは可能であるので、雪の多寡にかかわらず楽しめる企画であることを周知していきたい。

2-5 社会教育主事講習

生涯学習部門では地域の社会教育の担い手となる専門的職員（社会教育主事）の養成を行っている。当事業は、文部科学省の委託事業であり、北東北の岩手県・秋田県・青森県の学習者を対象に岩手大学、弘前大学、秋田大学が持ち回りで主催校となり、社会教育主事講習を開講している。

社会教育主事は、専門的職員として社会教育を行う者に対する助言や指導に当たる役割を担うことになる。なお、当養成講習では、「生涯学習概論」、「社会教育計画」、「社会教育演習」、「社会教育特講」の4科目を開講し、社会教育主事としての専門的知識・機能習得を目指す。今年度は岩手大学が主催校となり、学内・外の教員の協力のもとで実施された。

なお、当講習は、社会教育法(昭和24年法律第207号)第9条の5の規定並びに社会教育主事講習等規程(昭和26年文部省令第12号。以下「規程」という。)に基づき実施するものであり、社会教育主事の職務を遂行するに必要な専門的知識、技能を習得させ、社会教育主事となりうる資格を付与することを目的としている。

(1) 社会教育主事講習実施要領

◆実施科目：

- ①生涯学習概論（2単位）/30時間
- ②社会教育計画（2単位）/30時間
- ③社会教育演習（2単位）/60時間
- ④社会教育特講（3単位）/45時間

◆実施機関：岩手大学、弘前大学、秋田大学（※2年ずつ持ち回り）

◆参加県：岩手県、青森県、秋田県

◆講習期間：約1カ月

【社会教育主事講習等規程第2条】

第2条 講習を受けることができる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- 一 大学に2年以上在学して62単位以上を修得した者、高等専門学校を卒業した者又は社会教育法の一部を改正する法律(昭和26年法律第17号。以下「改正法」という。)附則第2項の規定に該当する者
- 二 教育職員の普通免許状を有する者
- 三 2年以上法第9条の4第1号イ及びロに規定する職にあった者又は同号ハに規定する業務に従事した者
- 四 4年以上第9条の4第2号に規定する職にあった者
- 五 その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

【社会教育主事講習等規程第7】

第7条 単位修得の認定は、講習を行う大学その他の教育機関が試験、論文、報告書その他による成績審査に合格した受講者に対して行う。

2 講習を行う大学その他の教育機関は、受講者がすでに大学において第3条の規定により受講者が修得すべき科目に相当する科目の単位を修得している場合には、その単位修得をもって同条の規定により受講者が修得すべき科目の単位を修得したものと認定することができる。

3 講習を行う大学その他の教育機関は、受講者が、文部科学大臣が別に定める学修で、第3条に規定する科目の履修に相当するものを行っている場合には、当該学修を当該科目の履修とみなし、当該科目の単位の認定をすることができる。

(2) 平成30年度実施状況

1. 開催期間：平成30年7月17日～平成30年8月9日
2. 開催場所：岩手大学一祐会館
3. 受講人数：49名（岩手県30名、秋田県12名、青森県7名）
4. 講習の概要：資料<2-5-1>日程表のとおり
5. 講習の評価：資料<2-5-2>授業評価アンケート調査のとおり
6. 受講者の学習ニーズ調査結果：資料<2-5-3>生涯学習ニーズに関するアンケート調査のとおり

なお、詳細は「平成30年度社会教育主事講習報告書岩手大学かだる」を参照されたい。

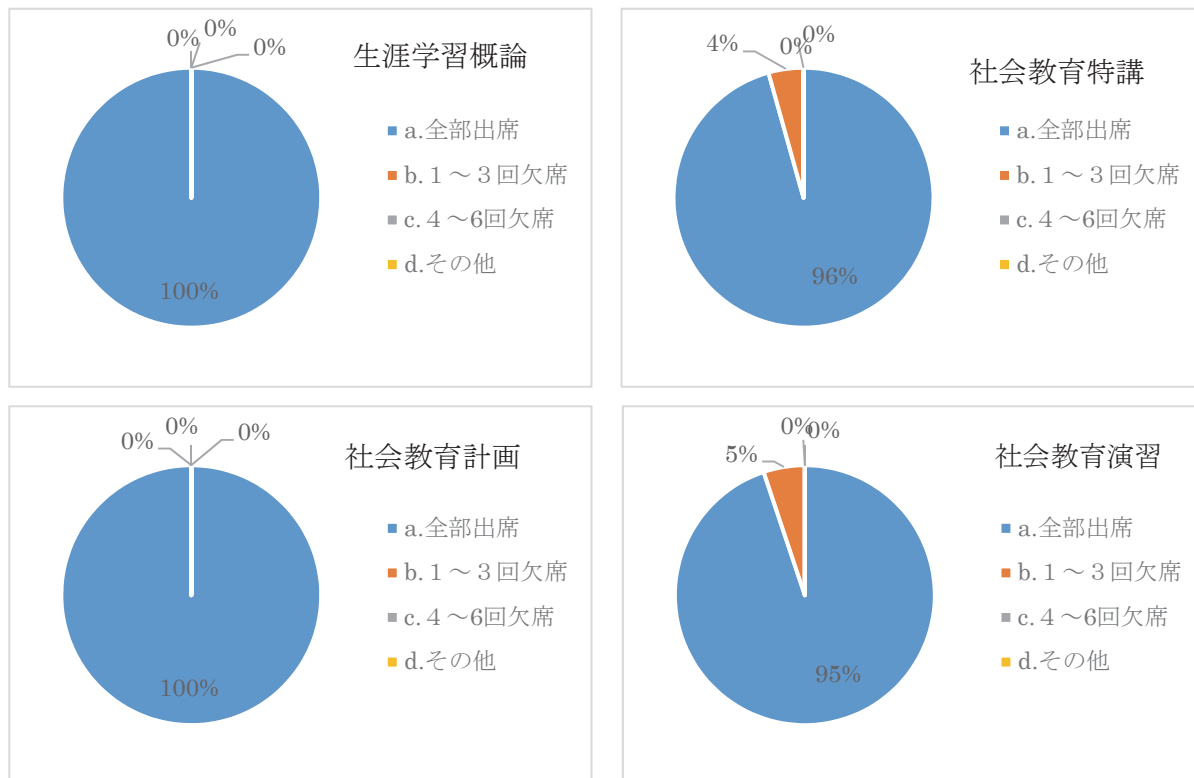


平成30年度 岩手大学 社会教育主事講習 日程表

会場	期 日	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
岩手大学 一 祐 会 館 2 階 大 会 議 室	7月17日 (火)			開講式	社会教育と生涯学習 岩手大学 朴 賢淑 准教授 (生涯学習概論①)	社会教育と生涯学習 岩手大学 朴 賢淑 准教授 (生涯学習概論②)
	7月18日 (水)	社会調査の倫理と方法 名古屋大学 丸山 和昭 准教授 (社会教育計画①)	社会調査の倫理と方法 名古屋大学 丸山 和昭 准教授 (社会教育計画③)		名古屋大学 丸山 和昭 准教授 (社会教育計画④)	社会教育演習① 新妻・浅沼・朴
	7月19日 (木)	生涯学習と学校教育 岩手大学 新妻 二男 名誉教授 (生涯学習概論③)	生涯学習と学校教育 岩手大学 新妻 二男 名誉教授 (生涯学習概論④)	生涯学習の意義 山形大学 安藤 耕己 准教授 (生涯学習概論⑤)	生涯学習の意義 山形大学 安藤 耕己 准教授 (生涯学習概論⑥)	社会教育演習② 新妻・浅沼・朴
	7月20日 (金)	社会教育における評価 山形大学 安藤 耕己 准教授 (社会教育計画⑤)	社会教育における評価 山形大学 安藤 耕己 准教授 (社会教育計画⑥)	社会教育演習③ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習④ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑤ 新妻・浅沼・朴
	7月23日 (月)	生涯学習と地域スポーツ 岩手大学 浅沼 道成 教授 (社会教育特講①)	生涯学習と地域スポーツ 岩手大学 浅沼 道成 教授 (社会教育特講②)	平泉文化と古代中国 岩手大学 劉 海宇 教授 (社会教育特講③)	社会教育事業計画 東北大学 高橋 満 教授 (社会教育計画⑦)	社会教育事業計画 東北大学 高橋 満 教授 (社会教育計画⑧)
	7月24日 (火)	社会教育事業計画 東北大学 高橋 満 教授 (社会教育計画⑨)	社会教育事業計画 東北大学 高橋 満 教授 (社会教育計画⑩)	社会教育演習⑥ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑦ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑧ 新妻・浅沼・朴
	7月25日 (水)	震災復興と行政の役割 岩手大学 五味 壮平 教授 (社会教育特講④)	社会福祉と社会教育 岩手県立大学 櫻 幸恵 准教授 (社会教育特講⑦)	学校外教育論 弘前大学 深作 拓郎 講師 (生涯学習概論⑦)	学校外教育論 弘前大学 深作 拓郎 講師 (生涯学習概論⑧)	学校外教育論 弘前大学 深作 拓郎 講師 (生涯学習概論⑨)
	7月26日 (木)	生涯学習とスポーツにおける運動学習 岩手大学 草谷川 弓子 准教授 (社会教育特講⑤)	社会教育施設としての「美術館」 岩手大学 麓谷 収 教授 (生涯学習概論⑩)	地域社会と社会教育 弘前大学 松本 大 准教授 (社会教育計画⑪)	地域社会と社会教育 弘前大学 松本 大 准教授 (社会教育計画⑫)	地域社会と社会教育 弘前大学 松本 大 准教授 (社会教育計画⑬)
	7月27日 (金)	社会福祉と社会教育 岩手県立大学 櫻 幸恵 准教授 (社会教育特講⑥)	社会福祉と社会教育 岩手県立大学 櫻 幸恵 准教授 (社会教育特講⑦)	生涯学習関連施策の動向 文科省 (生涯学習概論⑪)	社会教育演習⑩ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑪ 新妻・浅沼・朴
	7月30日 (月)	国際理解教育と生涯学習 岩手大学 尾中 夏美 教授 (社会教育特講⑧)	国際理解教育と生涯学習 岩手大学 尾中 夏美 教授 (社会教育特講⑨)	ジェンダーと社会教育 立教大学 岩間 暁子 教授 (社会教育特講⑩)	ジェンダーと社会教育 立教大学 岩間 暁子 教授 (社会教育特講⑪)	社会教育演習⑫ 新妻・浅沼・朴
	7月31日 (火)	ジェンダーと社会教育 立教大学 岩間 暁子 教授 (社会教育特講⑩)	ジェンダーと社会教育 立教大学 岩間 暁子 教授 (社会教育特講⑩)	生涯学習と社会教育施設 秋田大学 原 義彦 教授 (生涯学習概論⑫)	生涯学習と社会教育施設 秋田大学 原 義彦 教授 (生涯学習概論⑬)	生涯学習と社会教育施設 秋田大学 原 義彦 教授 (生涯学習概論⑭)
	8月1日 (水)	社会教育と市民社会 岩手大学 朴 賢淑 准教授 (社会教育特講⑪)	生涯学習と教育のグローバル化 岩手大学 朴 賢淑 准教授 (社会教育特講⑬)	社会教育の広報・広聴 岩手県教育委員会 (社会教育計画⑭)	社会教育施設の経営 岩手県教育委員会 (生涯学習概論⑮)	社会教育演習⑬ 新妻・朴
	8月2日 (木)	貧困問題と子ども支援 インクルーシブ 山屋 理恵 理事長 (社会教育特講⑫)	貧困問題と子ども支援 インクルーシブ 山屋 理恵 理事長 (社会教育特講⑬)	社会教育演習⑩ 新妻・朴	社会教育演習⑮ 新妻・朴	社会教育演習⑯ 新妻・朴
	8月3日 (金)	青少年問題と社会教育 滋賀県湖南市教育委員会 上原 裕介 スクールソーシャルワーカー (社会教育特講⑭)	青少年問題と社会教育 滋賀県湖南市教育委員会 上原 裕介 スクールソーシャルワーカー (社会教育特講⑮)	青少年問題と社会教育 滋賀県湖南市教育委員会 上原 裕介 スクールソーシャルワーカー (社会教育特講⑯)	青少年問題と社会教育 滋賀県湖南市教育委員会 上原 裕介 スクールソーシャルワーカー (社会教育特講⑰)	社会教育演習⑭ 浅沼・朴
	8月6日 (月)	生涯学習と社会教育職員 岩手大学 朴 賢淑 准教授 (社会教育計画⑮)	社会教育演習⑪ 新妻・浅沼・朴	生涯学習と教育制度 東北大学 後藤 武俊 准教授 (社会教育特講⑱)	生涯学習と教育制度 東北大学 後藤 武俊 准教授 (社会教育特講⑲)	社会教育演習⑱ 浅沼・朴
	8月7日 (火)	社会教育演習⑯ 浅沼・朴	社会教育演習⑲ 浅沼・朴	社会教育演習⑲ 浅沼・朴	社会教育演習⑲ 浅沼・朴	社会教育演習⑲ 浅沼・朴
	8月8日 (水)	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴
	8月9日 (木)	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	閉講式		

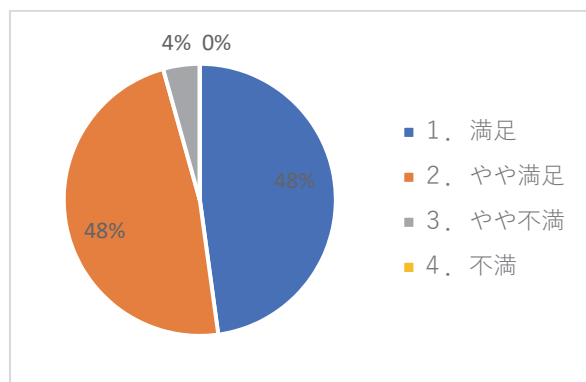
社会教育主事講習授業評価アンケート調査

問 1 各授業の出席率を教えてください。

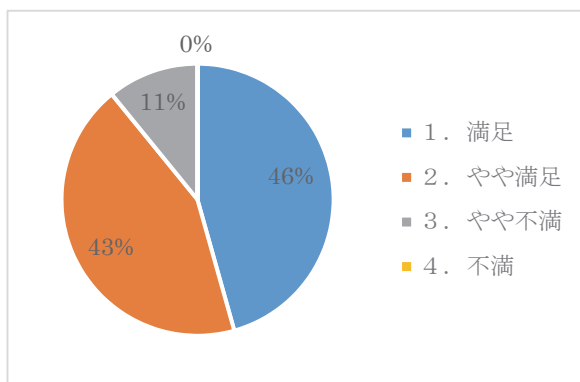


問 2 講習のプログラム、運営にかかる次の項目についてあなたの考えに近いものを教えてください。

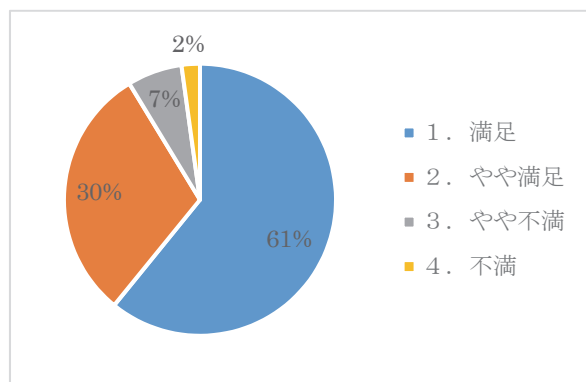
① 科目の流れについて



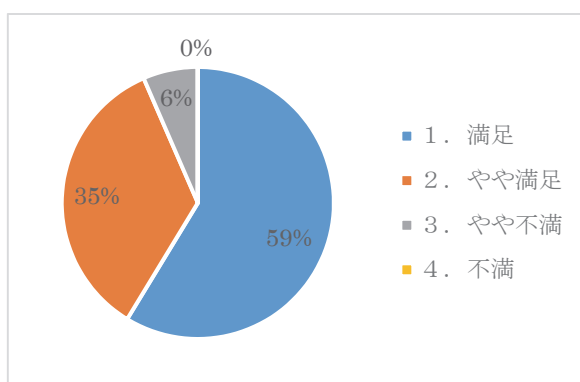
② 演習の時間設定について



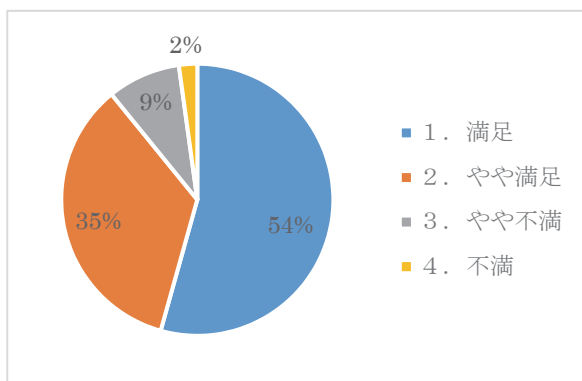
③ 演習のテーマ設定について



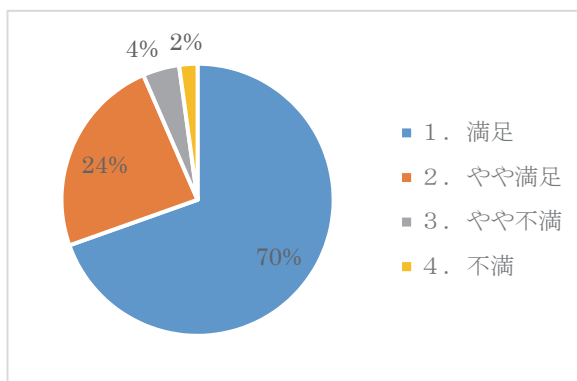
④ 演習の所属班の決定について



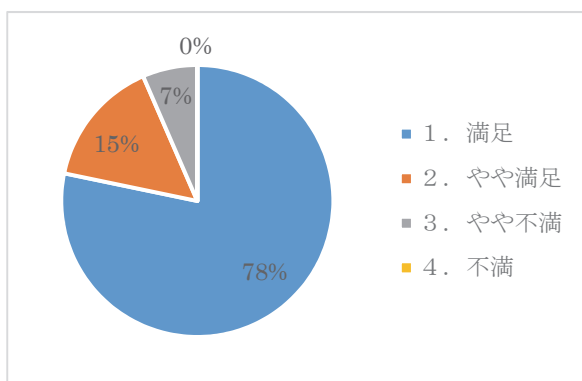
⑤ レポートの課題について



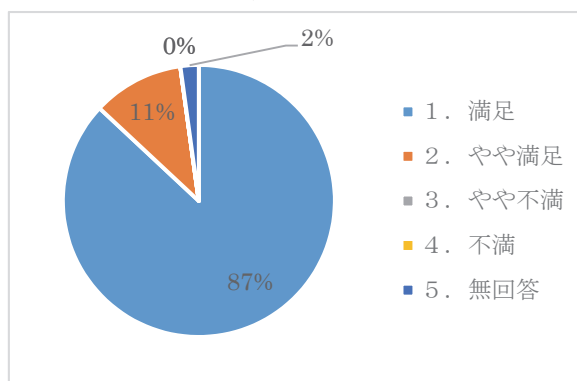
⑥ レポート数について



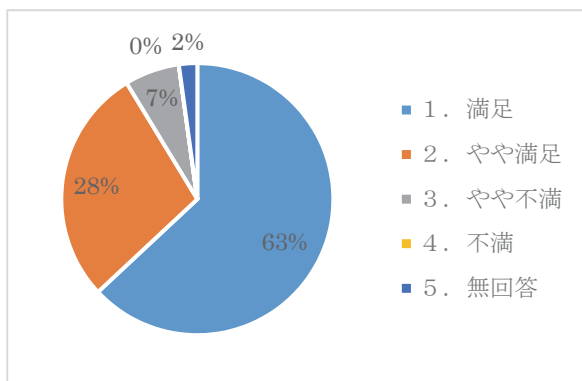
⑦ レポート提出期限について



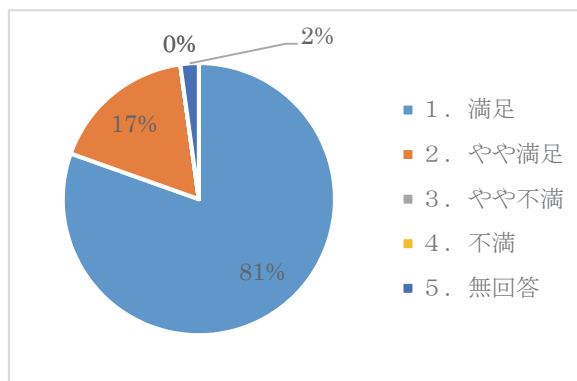
⑧ 岩手大学の講習会場について



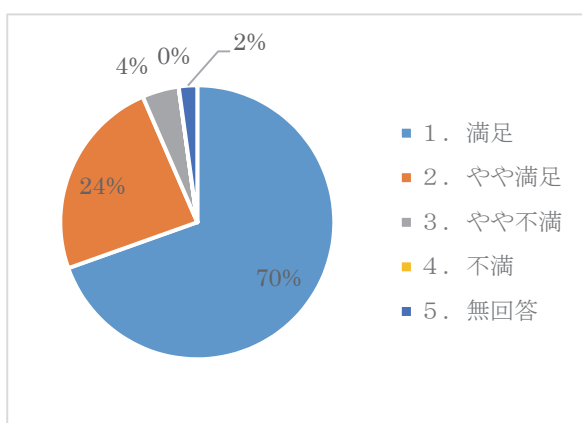
⑨ 受講にかかる経費について



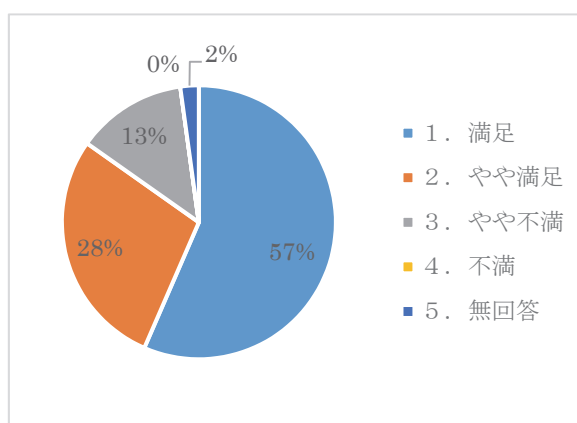
⑩ 講習の運営スタッフの補助について



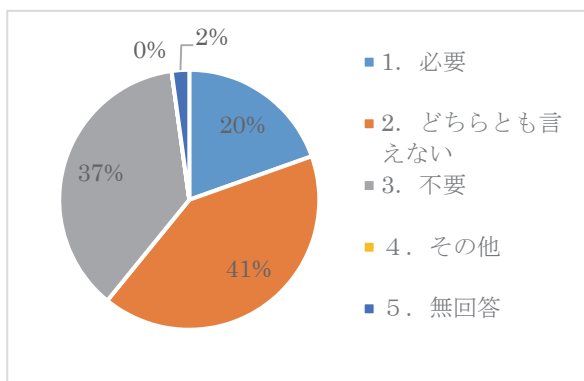
⑪ 講習全般の運営について



⑫ 講習の開講時期について



問3 宿泊研修は必要だと思いますか。

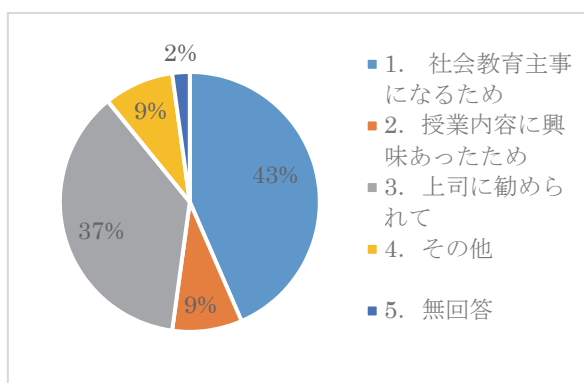


※記述の内容

(「2.どちらともいえない」を選択)

・参加者の結束という意味では必要だが、子育て中だと日程的に難しい。

問4 社会教育主事講習に参加したきっかけを教えてください。



※「その他」の内容

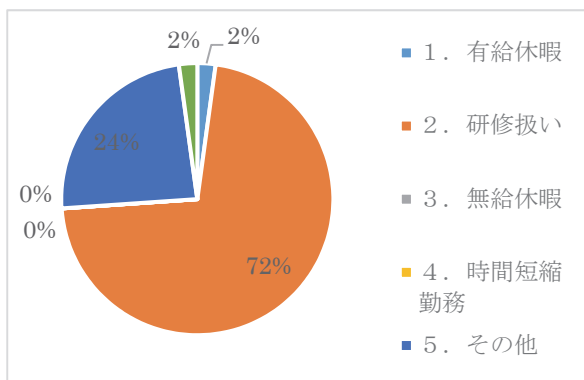
・スキルアップのため

・社会教育主事補で勤務になったため

・市教委からの指名

・異動したときにすでに参加が決まっていた。

問5 社会主事講習の参加に対する、あなたの雇用上の扱いを教えてください。



※「その他」の内容

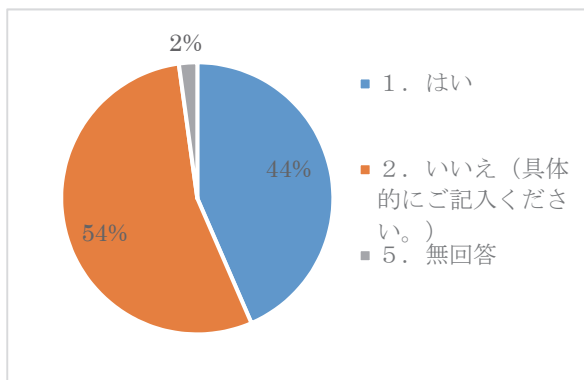
・職務専念義務免許 (4名)

・出張 (5名)

・県派遣

・事務処理のため講習終了後定期的に帰庁 (「研修扱い」選択者)

問6 講習料は自己負担ですか。



※「いいえ」の内容

・職員研修 (受講料) の予算 (3名)

・公費 (5名)

・旅費は職場や県が負担 (2名)

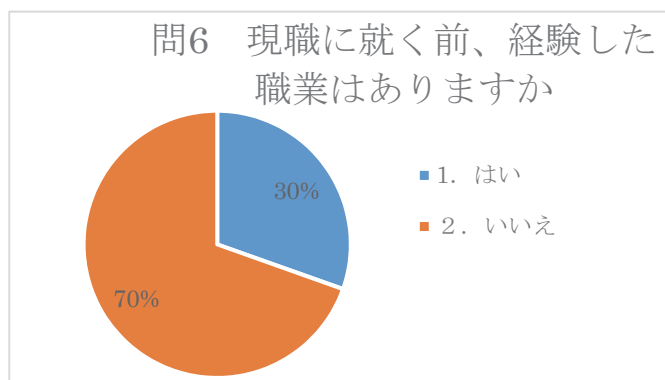
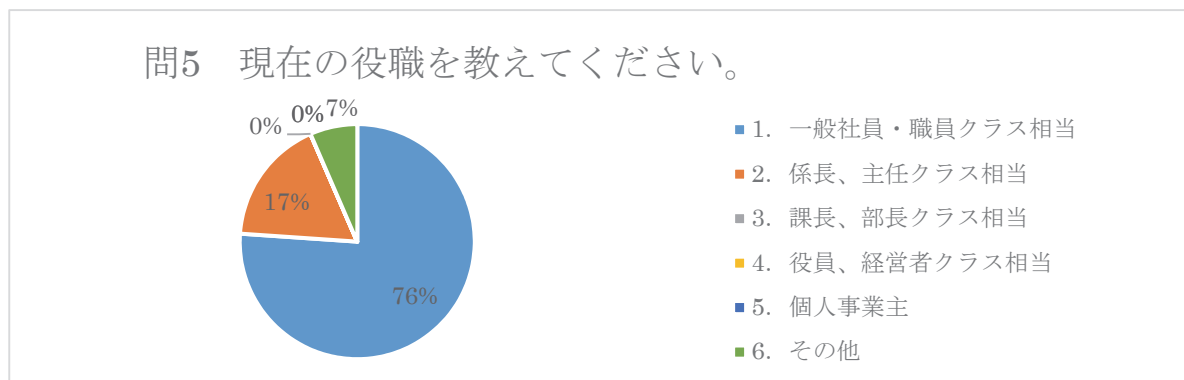
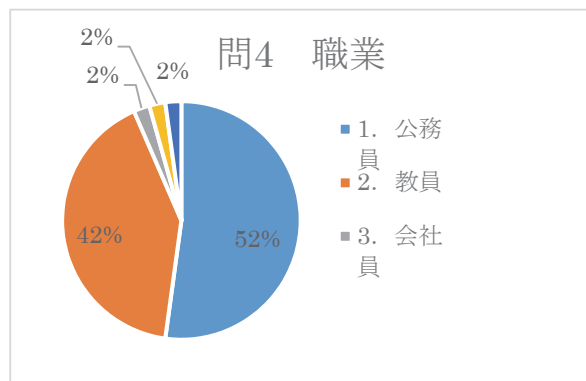
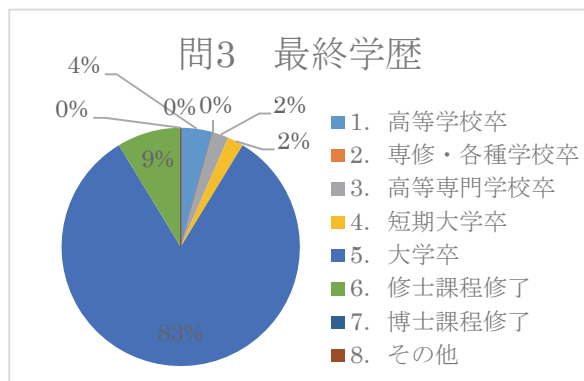
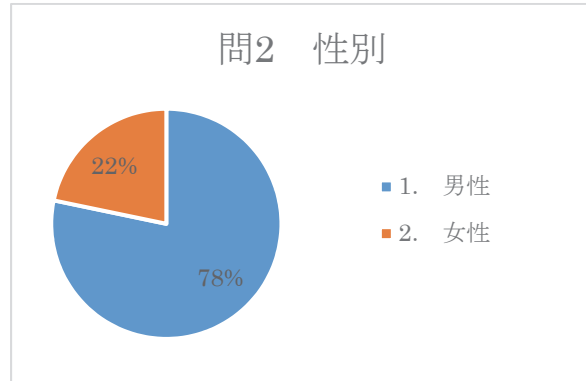
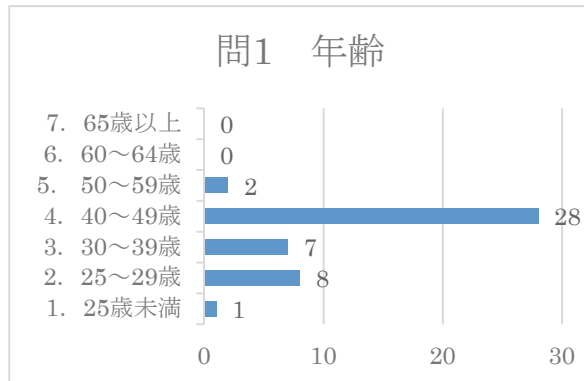
問7 最後に、講習全般についてお気づきの点、今後のご要望等をご自由にご記入ください。

・1ヶ月、最初は長いなと思っていましたが、メンバーと内容であつという間に過ぎました。楽しい機会をありがとうございました。先生方、スタッフの皆さん、お世話になりました。
・非常に良い講習でした。ありがとうございました。
・演習についての流れや注意事項、詳細がもっと早い段階での説明があっても良かった。
・科目の流れ、考えられていると感じた。理解が深まった。
・はじめは「社会教育主事講習」の役割をはじめ、社会教育について白紙だったが、各講習を受けて全体の目的が見えてきた。先生や受講生同士の交流もとても楽しかった。
・90分は長く感じました。
・涼しい中、温かい雰囲気ですべて進めてくれて感謝しています。
・たくさんの分野からいろいろな講習があり、社会教育の幅広さを感じるとともに、自分の人生経験にもプラスになる講習だった。今回の日程で良かったと思うので、この日程で今後も進めてよいのではないかな。
・運営スタッフの方々のサポートがきめ細やかでとてもありがたかったです。ありがとうございました。昼食の時間を80分～90分とれると、ゆとりがあって助かるのかなと感じていました。
・実際に公民館や博物館に行って講習を受けると具体的に分かりやすかったかもしれません。
・プレゼン資料も読むだけの座学よりも、協働的に学んだり、主体的に考えたりする工夫がほしい。
・社教に関わる内容を知っていることありきの講義もあったので、基本の部分から教えてもらえるとありがたいです。
・県の社会教育主事の講義も参考になったが、市町村で働いている社会教育主事の講義を聞きたい。
・社会教育施設での実地研修をしたかった。
・様々な配慮により、大変有意義な講習となりました。ありがとうございました。
・飲み会メインになりがちである。
・本当にお世話になりました。朴先生及びスタッフの皆さんの気づかいに感謝致します。
・概論、調査の手法、評価の方法が前半に配置されており、演習に生かすことができた。
・知識が必要なことは分かるが、受け身にならない授業だとありがたい。
・評価について、レポートを課すのであれば、「感想」ではなく、授業で何が分かれば、何ができれば、それらを使ってどう考えるかが明確であってほしいと思った。
・演習について、「自分の課題を解決する」ようなスタイルではなかったと感じた。
・「飲み会ありき」的な研修はいかなるものかと思った。

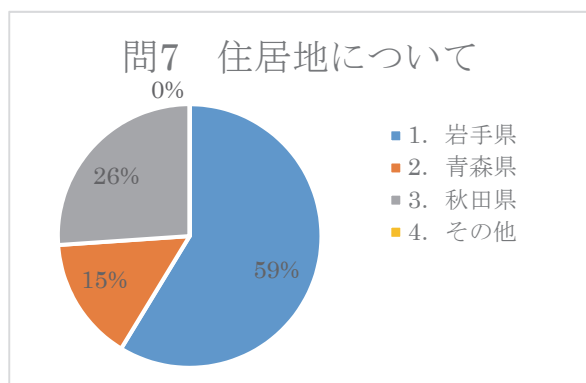
・また、レポートについても、体裁等事前に知らせて欲しい。全て遅く、修正に時間がかかった。

生涯学習ニーズに関するアンケート調査

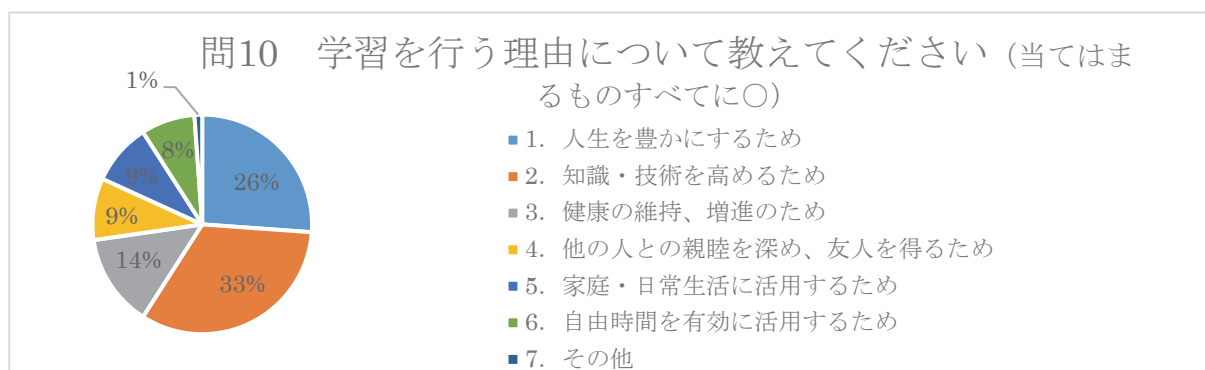
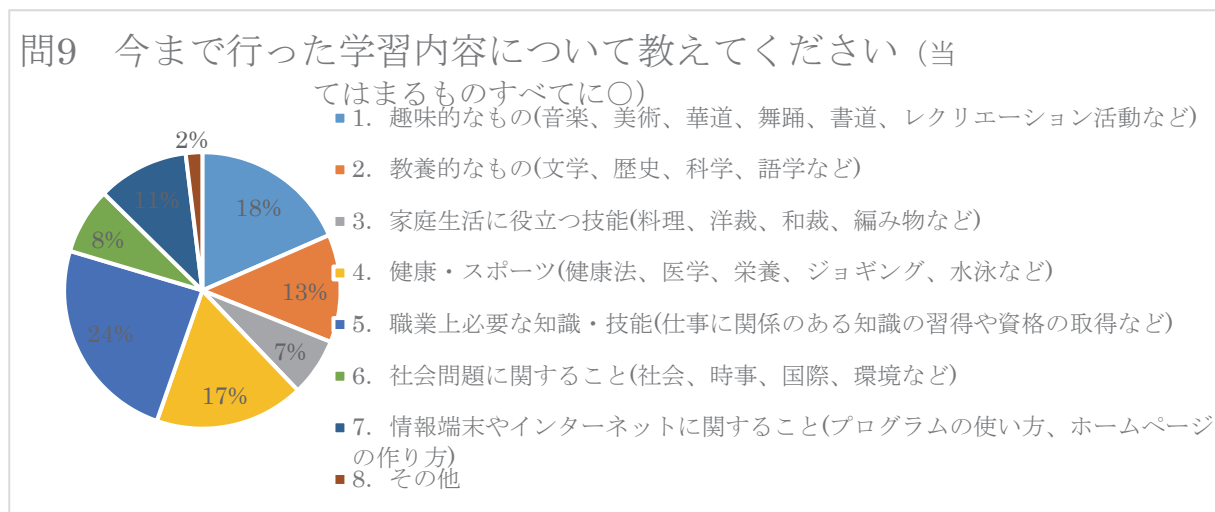
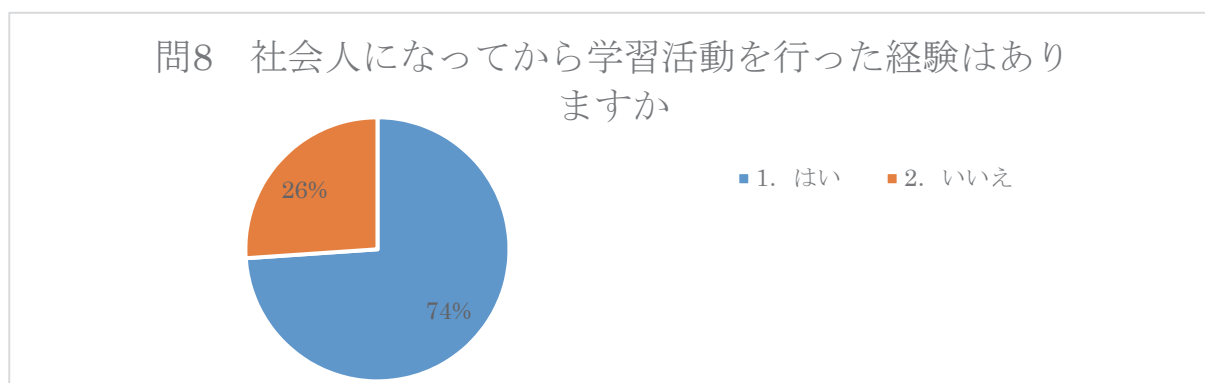
I ご自身について



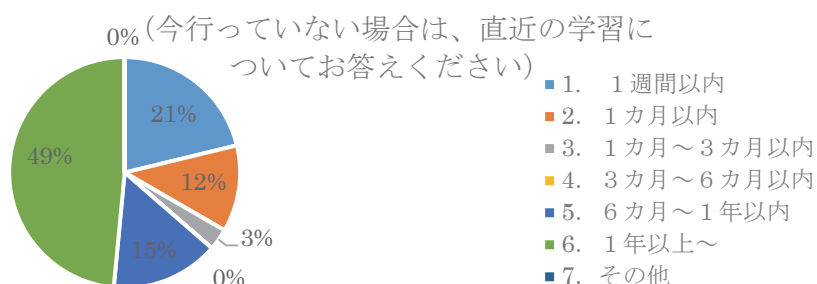
＜「はい」を選択した方の職業＞
観光協会の職員、飲食業、工場、設計、教師、支援員等の学校教育現場、教諭、スポーツクラブ、障害者施設、岩手県よぼういがく協会、民間企業の事務職、財務、経理、会計、総務、医事、福祉施設。



II 生涯学習経験について



問11 今行っている学習の継続期間について教えてください



問12 学習を行った時間帯について教えてください



問13 学習活動を通じて身に付けた知識・技能や経験をどのように生かしていますか

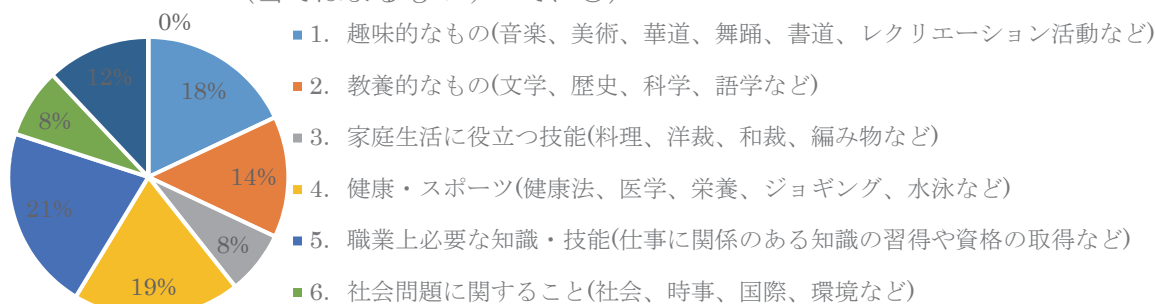


問14 直近の1年間、学習にかかった費用について教えてください



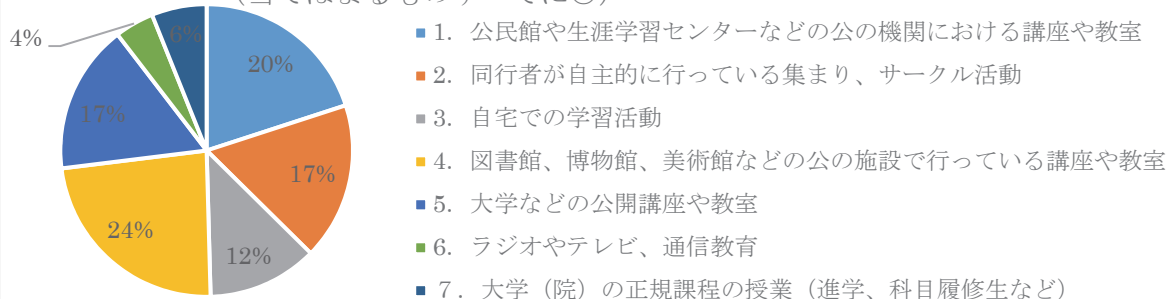
問15 今後参加したい学習内容について教えてください

(当てはまるものすべてに○)



問16 今後行いたい学習の形態を教えてください

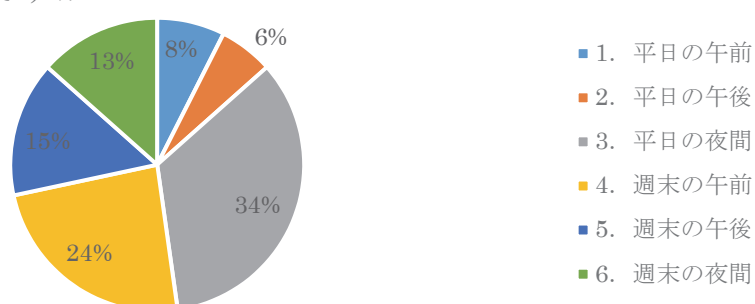
(当てはまるものすべてに○)



問17 学習活動に参加する際、適当だと思われる期間を教えてください



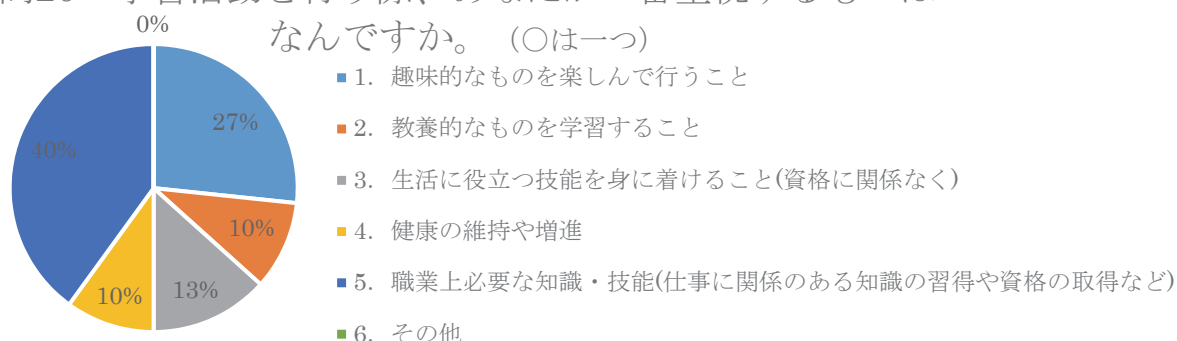
問18 学習活動に参加する際、最も都合の良い時間帯はいつですか



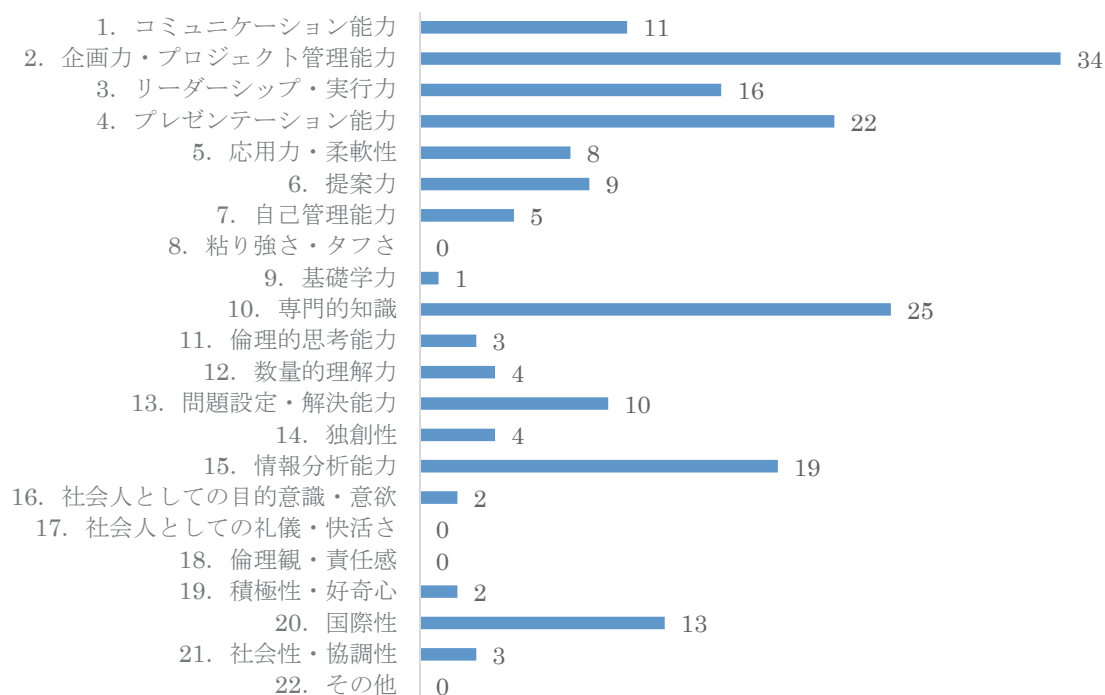
問19 1年間学習活動にかかる費用はどのくらいが妥当ですか。



問20 学習活動を行う際、あなたが一番重視するのはなんですか。（○は一つ）



問21 大学等で学び直しをする場合、特に身に付けたい知識・技能・資質はなんですか。

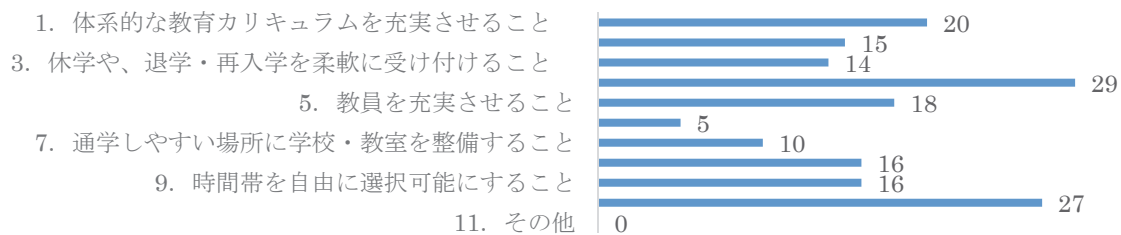


問22 大学等で学び直しプログラムを提供する際、カリキュラムにおいて特に重視してほしい内容は何ですか。

(5つまで選択してください)



問23 大学等において、教育環境面で特に重視してほしいことは何ですか。(5つまで選択してください)



○ご意見等をお書きください

・ 今回の講習で、大学での学びのチカラを認識しました。本当にありがとうございました。

・ 司書や学芸など改めて取れば良かったと思うことがある。夜間学校として数年スパンの長い期間で取得 できる講座があればと思う。

・ 困窮問題（健康、空き家、独居老人、老人虐待）など身近な生活に関わる問題について学び、相談出来る 機関や手続き、実態について知ることができるもの。

・ 地方へ出張講座

・ 社会教育主事、実践講習会・・・たとえば

①子ども食堂など実際に活動しているところへ見学、研修に行く。

②沿岸地域へ赴き、3.11 の復興状況をみながら、地域づくりのあり方を研修するなど。

・ 私共が参加できる中期的な講座をお願いします。

・ 県立総合教育センターとタイアップして講座を開いていただけると出張扱いで参加できる。

総 括

総 括

生涯学習部門では、社会人学び直しプログラムの開発を大きな柱とし、関係者一丸となり研究開発に取り組んだ。最後に（1）生涯学習部門の事業の年度計画、（2）社会人学び直しプログラムの開発研究、（3）企画講座「がんちゃんの学び」、（4）社会人学び直しシンポジウム、（5）公開講座、（6）社会教育主事講習について1年間の事業成果を振り返りたい。

（1）生涯学習部門事業の年度計画

前年度の実施体制を引き継ぎつつ、新生涯学習部門事業の充実化を図るために部門会議を毎月1回開催した。なお、部門員として、本学の各学部の教員を会議構成員とすることによって、より全学の視点を取り入れた議論を交わすことができた。

（2）社会人学び直しプログラムの開発研究

生涯学習部門では社会人学び直しプログラムの開発を事業の主な柱としている。本年度はいわてアグリフロンティアスクールと連携し、受講者を対象にパソコン講座を開くほか、プログラムに参加している受講者を対象に生涯学習における学習ニーズ調査（アンケート調査）を行うことで学内の役割分担のあり方を検討した。

（3）企画講座「がんちゃんの学び」

「がんちゃんの学び」は地域の課題を地域住民と共に考えるという趣旨のもとで、今年度、5シリーズの16講座を開講した。「地域」をテーマとした講義では地域への理解を深め、「グローバル」、「高齢者」、「子ども」等の課題に焦点を当てたシリーズでは、国の政策から最先端の研究成果まで幅広い知識面で講義を提供することができた。また、参加者を対象に行ったアンケート調査・ヒヤリング調査を通して、地域住民の学び直しへの意識を確認することができた。

（4）社会人学び直しシンポジウム

今年度は、「東アジアの大学における社会人学び直し」をテーマに社会人学び直しシンポジウムを開催した。基調講演では国の政策と先進事例を、続く講演では中国、韓国、台湾の政策と実践事例を紹介して頂き、さらに岩手大学の「いわてアグリフロンティアスクール」について紹介した。最後に「社会人に魅力ある大学づくりとは？」をテーマにパネルディスカッションすることで、参加者と活発な意見交換をすることができた。

（5）公開講座

岩手大学では、地域に密着した社会活動を目指し、大学の研究成果を広く社会に還元するため、地域住民を対象に公開講座を実施している。本稿では、その実施成果をまとめてい

る。また、より多くの住民に岩手大学の社会人向けプログラムを理解してもらうため、今年度はリーフレットを作成して公民館や教育委員会などに配布している。

(6) 社会教育主事講習

文部科学省の委託事業である「社会教育主事講習」を本件度は岩手大学が主催校となり、岩手県・秋田県・青森県の受講者を対象に1カ月間開講した。また、講義終了後アンケートを取ることで、講義の評価を行い、更に現役で働いている人々を対象に学び直しへの認識調査もすることができた。

生涯学習部門では、多様な成人学習者の特徴を生かした生涯学習プログラムの充実化を目指しており、今後も成人学習者が「学びをほどこ、編み直す力」、「地域で生かす力」、「学び続ける力」などを身に着け、地域活動や職業生活で役立てることによって地域の生涯学習の振興を目指していく。

平成31年3月

三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門
特任研究員
朴 仙子

編集者

朴 賢淑 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門長・准教授
朴 仙子 三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門 特任研究員
吉田 義子 地域連携・COC 推進課 事務補佐員

三陸復興・地域創生推機構 生涯学習部門
平成 30 年度 成果報告書

発行日	平成 31 年 3 月 29 日
発行者	岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 生涯学習部門
代表者	朴 賢淑
住所	岩手県盛岡市上田 4 丁目 3-5
TEL	019-621-6492
FAX	019-621-6493
E-mail	renkei@iwate-u.ac.jp

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

生涯学習部門

平成30年度 成果報告書